

72
123

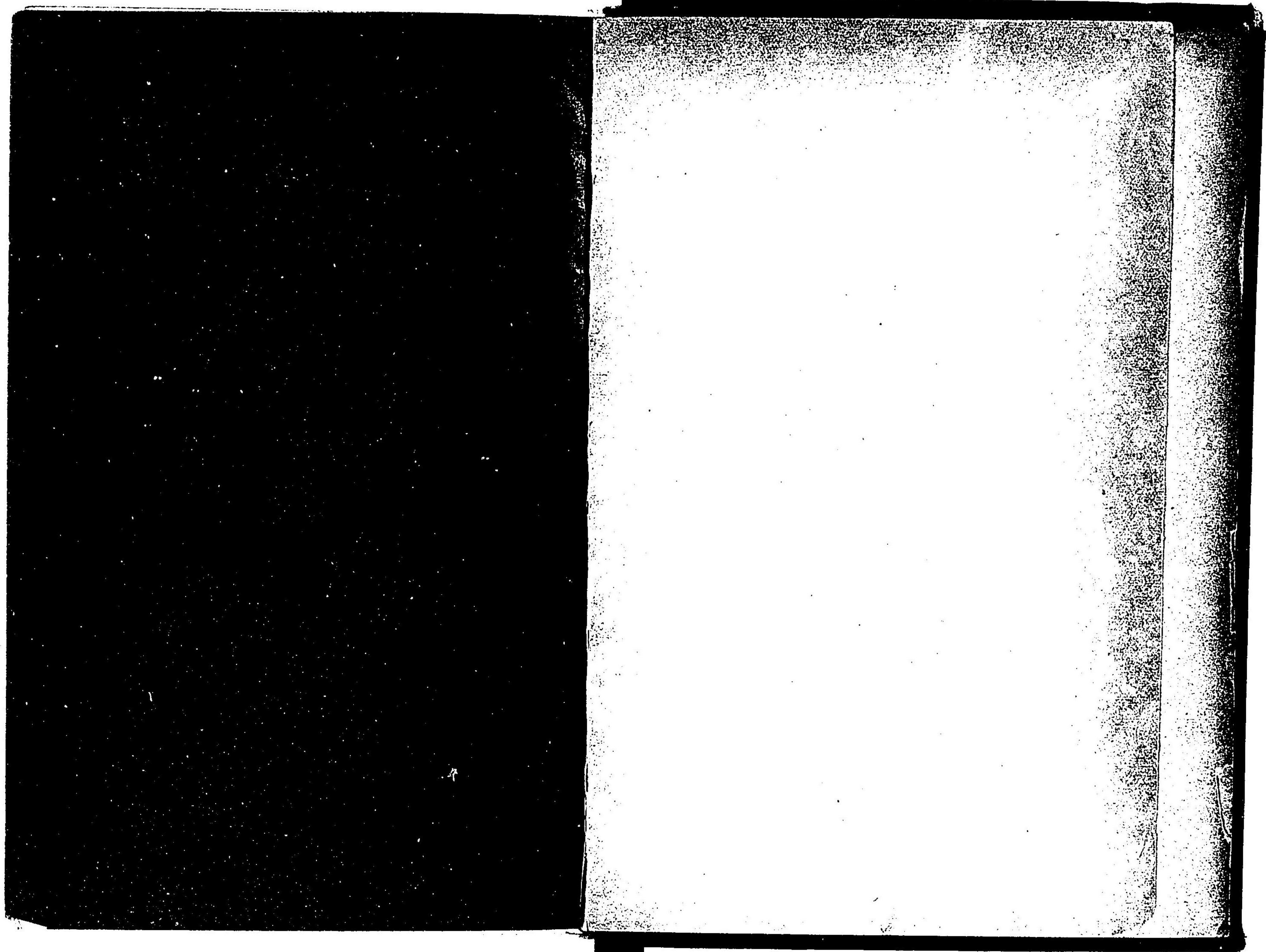


第六編

柳井綱齋著

茶腹獨王戰史
全

東京博文館藏版



例言

一希臘ハ其ノ建國最モ古ク、世界文化ノ泉源タリ。而カモ早ク羅馬
吞セラレ、中ゴロ土耳其ニ壓倒セラレテ、轉々志士斷腸ノ料トナレリ。

然ルニ今世ノ初ニ當リ、傑人義ヲ倡ヘ、人民之ニ和シ外國之ヲ援ク

ルヲアリ、木ニ干戈ヲ動カシ、竟ニ再ビ獨立國トナリヌ。實ニ今ヲ距ル

一六十七年、事ニ屬ス。本書ハ當時戰爭ノ顛末ヲ記スルモノナリ。

一希臘獨立戰、起リシ所以ヲ知ラント欲セハ、必ズヤ此國古來ノ歴史

ヲ知ラザル。又土耳其カ如何ニ希臘ヲ壓制シタリシカチモ

知ラザル。本書第一編ニ希臘前史ヲ収メタルハ之ガ爲ナリ。

一附録ハ希臘土耳其古來諸名士ノ列傳ヲ作レリ。上古中古ノ名士

傳ノ如キ獨立戰ニ直接ノ關係ナシト雖モ、是ヲ知ラサレハ是等古國

在來ノ真相ヲ知ルベカラズ。附録ハ之ガ爲ニ作レリ。

一本書ノ材料トシテハ、スミス、グードリック、ツナフ、アイフ等諸氏ノ希臘史

例

言

(一)



マッケンザイ氏ノ十九世紀史、ミューレル氏ノ近世政治史、ペドカ
 氏ノ「歐羅巴土耳其」其他諸書ヲ採用參考シタリ。但、舶來書中希臘獨
 立戰ヲ詳記セルモノ極メテ少シ。博引旁證スルニ由ナシ。サレハ本書
 ノ如キ單ニ戰史トシテハ稍遺憾ナキ能ハズ。是レ偏ニ讀者ノ諒察ヲ
 乞フノミ。

明治二十九年一月中浣

著者識

希臘獨立戰史目次

第一編 希臘前史

第一章 希臘ノ地理……………一

第二章 希臘古來ノ略史……………六

 (一)第一期 自下リアン人移住(紀元前一千百年)至波新(紀元前五百年)……………六

 (二)第二期 自波新(紀元前五百年)至フサリオン王勝利(紀元前三百廿八年)……………二二

 (三)第三期 自フサリオン王勝利(紀元前三百廿八年)至羅馬人希臘併呑(紀元前百四十六年)……………三五

第三章 土耳其古來ノ略史……………四五

第四章 土耳其人希臘ヲ併呑ス……………六三

第二編 希臘獨立戰史

 (其一)獨立未成ノ時期……………

第一章 希臘獨立ノ原因——愛國者希臘ノ獨立ヲ謀ル……………八〇

第二章 希臘ノ愛國者始メテ義兵ヲ起ス——土廷殘虐ヲ
恣ニス……………八六

第三章 土耳其軍希臘軍希臘ニ戰フ——トリポリツザノ
攻圍……………九三

第四章 希臘人政府ヲ建設ス——土耳其人ノ殘虐——希
臘土耳其兩軍戰漸ク爾ナリ——英相カンニンク
希臘軍ヲ援ク……………九八

第三編 希臘獨立戰史

(其二外國應援ノ時期)

第一章 愛國者マルコボツザリスノ戰死——西歐諸國希
臘ヲ援ク……………一二五

第二章 埃及副王メヘメットアリノ父子希臘軍ト戰フ……
……………一二九

第三章 カポヂストリア伯希臘ノ大統領ニ任ス——英露
兩國同盟シテ希臘ヲ援フ——土軍大ニ敗レ、イ
ラヒム、パシヤ降ル……………一四九

第四章 英露佛三國ノ公使土京ヲ去ル——希臘大統領カ
ポヂストリア伯漸ク壓制ヲ行フ……………一六〇

第四編 希臘獨立戰史

(其三講和及ヒ獨立ノ時期)

第一章 希臘始メテ世襲王國ト爲リ、次テ獨立王國ト爲ル
——大統領カポヂストリア伯刺客ノ及ニ斃ル……
……………一六七

第二章 巴威里王子オソ希臘王ノ位ニ即ク……………一七四

第三章 英露互ニ軋牒ス……………一七七

第四章 希臘ニ革命ノ亂起リ、オソ一世位ヲ廢セラレマヨ
……………一七九

附 錄

希臘土耳其諸名士列傳

リヲ一世位ニ即ク……………一九二

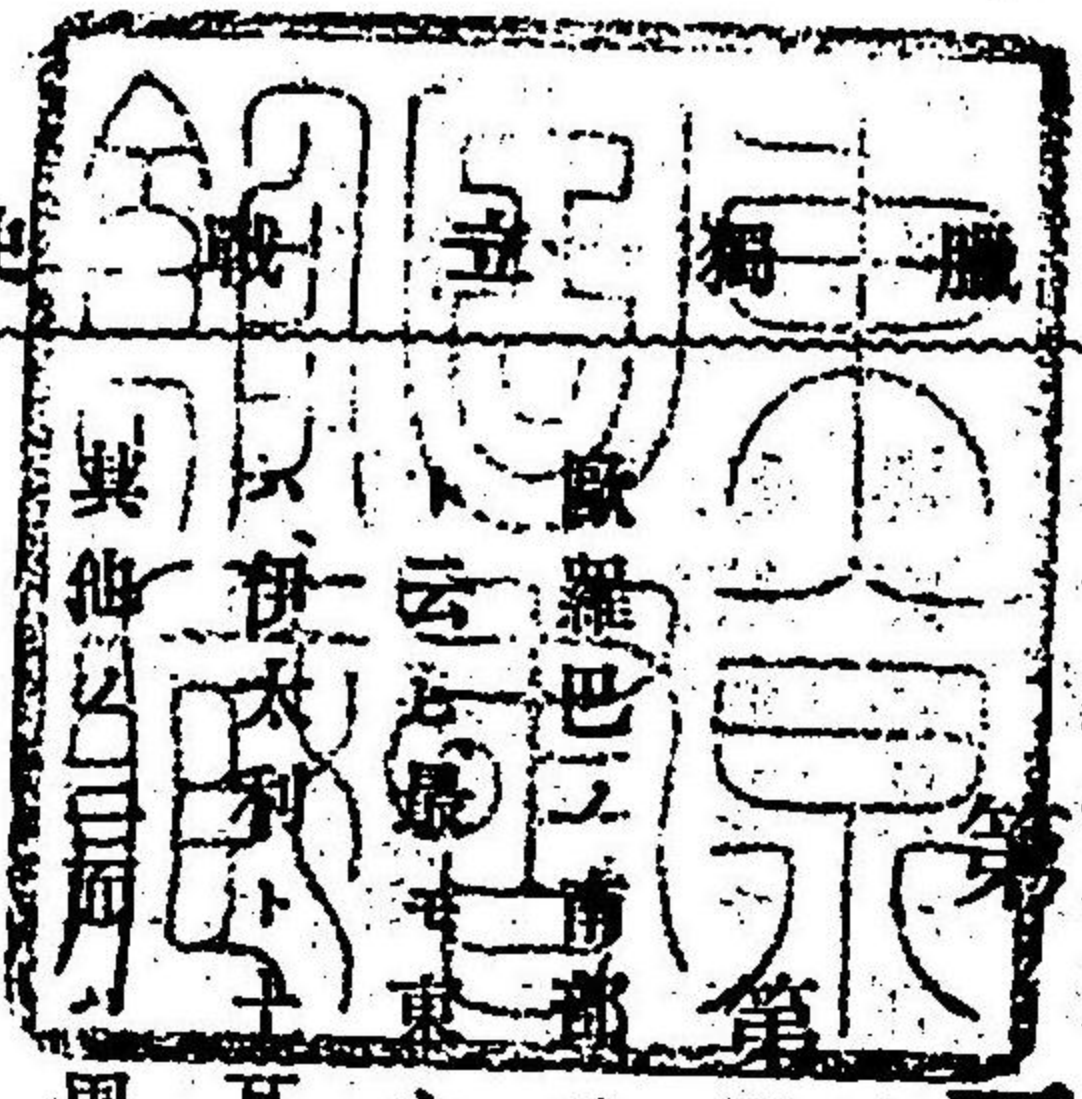
希臘獨立戰史目次畢

希臘獨立戰史

柳井綱齋 著

編 希臘前史

第一章 希臘ノ地理



歐羅巴ノ南端ニハ五箇ノ半島國アリ。最モ西ナルヲ西班牙及ヒ葡萄牙
 云々最モ東ナルヲ土耳其ト云ヒ其中間ニ在ルヲ伊太利ト云フ。希臘
 伊太利ト土耳其トノ間ニ挾マレル半島國ニシテ北ハ土耳其ニ境シ、
 其他ヨリ四面ハ周ラスニ海ヲ以テス。東チイリシアン海。又群島海ト名ケ、
 小亞細亞ニ對ス。西チアイオニア海ト稱シ、伊太利ニ對ス。南ハ則チ地中
 海ナリ。北緯三十五度四十分ヨリ起リテ、四十度十分ニ達シ、東經十八度
 二十分ヨリ起リテ、二十五度五十分ニ終ル。面積二萬四千九百七十七平

方哩、人口二百十八万七千二百八人アリ、明治二十五年ノ統計ニ據ル域内ナ別ナテ三大部ト爲ス。南部、北部、及ヒ屬島是レナリ。北部ハ直ニ大陸ニ連ル地ニシテ、之ヲヘラスト總稱ス。亞的加ハ此部内ニ在リ。亞的加ノ都ヲ雅典ト云フ。在昔學術ノ淵藪ニシテ、今尙希臘ノ京城ナリ。後文ニ再既スベシ南部ハ、僅ニコリンスノ地峽ヲ以テ北部ニ連レル半島ニシテ、之ヲモレ^{||}アト名ク。モレアトハ桑葉ノ義ナリ。海角四出シ、地形宛ナガラ桑葉ニ似タルヲ以テ此名アリ。上古ハ、ペロポネチサスノ半島ト稱シ、有名ナル拉哥尼亞、即チ斯巴爾達所在ノ地ナリ。メッセニア、アルゴリス等ノ諸邦モ亦此部内ニ在リ。屬島ハ、ユーベア島、アイオニア諸島、シクラデス諸島等ヨリ成ル。ユーベア島ハ東岸ニ在リテ最モ大ナリ。アイオニア諸島ハ西岸ニ位シ、シクラデス諸島ハ東南海中ニ散布ス。此ノ諸島ノ一ヲシラト云フ。其都シラハ、貿易ノ要港ニシテ、土京君士但丁堡ニ往復スル船舶ノ碇泊場ナリ。

地勢ハ山脉甚多ク、其高峯クシロナ八千二百、ハイナサス八千六、タイグナス七千九、オスリス五千七、ヘリコン四千九、ヒメツツス三千三百等ノ如キハ、夏月百三、除クノ外常ニ雪ヲ戴ケリ。ヒンダス山脉ハ、セサリ七十、ノ南ヨリ起リテ、同地トアルバニアトチ區劃シ、蜿蜒全國ニ連亘ス。希臘ノ諸山ハ、實ニ此山脉ニ連続セルモノナリ。

地味肥沃ニシテ草木繁茂ス。然レドモ農業未ダ充分ニ進歩セズ。菓物ノ多ク産スルヲ橄欖、葡萄、橙、檸檬、セ無花菓、扁桃、佛手柑、柘榴、小葡萄トス。輸出品ノ重モノナルハ、乾葡萄、橄欖油、鉛、無花菓、及ヒ其他ノ菓類、皮革、烟草、葡萄酒、蜂蜜、蠟、絹、海綿等ナリ。氣候ハ温暖ニシテ、大氣極メテ清ク、雲霧甚稀ナリ。殊ニ夏月ハ雨少ナク、暑熱劇シケレドモ、海風涼ヲ送ルヲ以テ、爽快ヲ覺ユ。但シ往々「ブラツク、シロツク」ト名クル南方ノ暖風起リテ心氣ヲ鬱悶セシムルヲナキコアラズ。

政体ハ君民同治ニシテ、現今ノ國王チヨットワ一世ト云フ。丁抹今王ク

リスナアノ九世ノ第二子ナリ。一千八百六十三年我カ支久ヨリ選ハレテ位ニ在リ。皇后ヲオルカト云フ。露ノコンスタンチン大公ノ女ナリ。歳入ハ三百二十一万八千磅明治二十四年統計ニ據ル。コシテ、歳出ハ三百三十四万七千磅ニ、同陸軍ハ、士卒合セテ二万零二百二十六人、同海軍ハ、軍艦二十七艘内二小甲、水雷艇三十四艘、士卒合セテ三千九百五十七人アリ。

人種ハ、モトヘラスト呼ビタル舊キ種族ノ苗裔ナリ。然レドモ後世漸クアラヴチニツク。チニトニツク。土耳其等ノ諸種ト混合シタルヲ以テ、今ハ決シテ純乎タルヘラス種族ト稱スルヲ得ズ。

國語ハ、羅馬語ト稱スル一種ノ言語ニシテ、昔ノ希臘語ノ稍々混同轉訛シタルモノナリ。

教育ハ、其程度甚低ク、大學校ハ只雅典ノミニ在リ。然レドモ都會ノ地必ズ中學ノ設ケアリ。毎村到ル處、小學ノ設ケナキハアラズ。文學ハ上古ノ隆盛世人ノ耳目ヲ驚カシタルニモ似ズ、今ハ衰頽シテ、復タ觀ルベキナシ。

此ノ國、上古ハ雅典アテネ、斯巴爾達スパルタ、齊武テベ等ノ如キ有名ナル都會ノ地アリキ。然レドモ今ヤ斯巴爾達ハ人口僅ニ七千、齊武モ亦人口九千ニ過ギズ。皆衰殘シテ一村落タルコ止マレリ。獨リ雅典ハ、現ニ當國ノ京城トシテ、稍々古代ノ体面ヲ存セリ。左レド人口ハ僅ニ十一万四千三百五十五人明治二十二年統計ニ據ルトヒ、輒近修治ヲ加ヘタルモ、古代ノ建築物ハ、數回兵燹ニ罹リテ殆ンド痕迹ヲ留メズ。其ノ新築セル市街ハ、華麗ト稱スルベキ点ナク、只王宮、伽藍、大學校等ノミ稍々宏壯ト稱スルヲ得ベシ。『古代ノ遺物ノ現存シ、精緻ヲ以テ人目ヲ驚カスハ、女神ミナルヴァナ祭レル神社ニシテ、パルセロントス府外ナル丘陵ノ上ニ在リ。二千四百年前ノ遺物ニ係リ、其結構ノ美麗ナル世界ニ類ナカルベシト云フ。又、ウニヒトル神社及ヒテ、ニス神社アリ。構造最モ巧妙ナリ。』

第二章 希臘古來ノ略史

(一)第一期

自トリアン人移住(紀元前一千百年) 至波斯戰(紀元前五百年)

此ノ國今ハ衰爾タル一小國ニシテ、勢力甚微弱ナリト雖モ、歴史ヲ播キテ、遠ク三千年ノ昔ニ遡ルキハ、學問ノ高尙ナル、技藝ノ精妙ナル、宇宙万国ニ卓絶シ、大人英雄並ビ出テ、模範ヲ萬世ニ遺シ、歐洲開化ノ本源ヲ爲セリ。然レドモ太古ノ事ハ逸焉トシテ攷フベカラズ、所謂「神代紀」ナルモノアリト雖モ、妄誕信スルニ足ラザルガ故ニ、只簡單ニ之ヲ記シ、直ニ紀元前一千百年我カノ神代頃ニ於ケルドリアン人移住ノ事ヲ叙述セン。世ニ傳フル所ニ據ルニ、希臘ノ原人ヲペラスシ種族ト爲ス。ペラスシ種族ハ、アリアン人種ノ一派ニシテ、文明ノ度稍々高キニ進ミ、地ヲ耕シ、家ヲ建ツル等ノ事ヲ知レリ。希臘語及ヒ羅句語ハ、此ペラスシ語ヨリ出テタリト云フ。ペラスシ種族ノ一派ニ、ヘレンス種族ト名クルモノアリ。夙ニセサリノ南部ニ住シケルガ、漸ク南方ニ擴ガリテ、ペラスシヲ驅逐

シ、又ハ之レト混合シテ、全國ニ彌蔓シ、遂ニ全國ニヘラスナル名稱ヲ與フルニ至レリ。實ニ書契以前ニ在リ。

ヘレンス種族ノ口碑ニ據ルニ、此ノ種族ノ祖先ニヘレント呼ベル人アリ。チヌーカリオン神ト、ピラ神トノ間ニ生レタル子ナリト云フ。ヘレンニ三子アリ、長ヲドラスト名クドリアン人ノ祖先ナリ。次ヲザサスト

名ク、ザサス、二子ヲ生ム、アイオン及ヒアケアス是ナリ。アイオンハ、アイオニア人ノ祖先ニシテ、アケアスハ、アケアン人ノ祖先ナリ。季ヲイオラ

スト名ク、イオリア人ノ祖先ナリ。當時尙史籍ナルモノアルナシ。只「神代紀」ト稱スル面白キ古事談ノ存スルアリテ、後人ヲシテ髣髴當時ノ概畧ヲ知ルベカラシメタリ。而シテ紀中多ク英雄ノ功績ヲ録スルガ故ニ、此ノ時代ヲ稱シテ英雄時代トハ云フナリ。

英雄時代ノ最大事件、且ツ最後事件ヲトロイ戰爭ト爲ス。詩人ホーマーノ「トロイ物語」イリアツドニ載スル所最モ詳ナリ。茲ニ其ノ梗概ヲ述ブ

レハ左ノ如シ
 初メセサリ一王ペレアスガ海津女神ポセイドンセナスト婚儀ヲ舉グルニ當リチ
 スコルド(爭論ノ女神)ハ此宴席ニ招待セラレザリシヲ怒リ其復讐トシ
 テ黄金製ノ林檎一顆ヲ宴席ニ投シ且ツ最モ美麗ナルモノニ之ヲ與ヘ
 ント記セリ左レバ宴席ニ列リタルヴギナスジュノノ及ビミナルヴァ
 ノ三女神ハ各々我レ最モ美麗ナルガ故ニ之ヲ受クベキ權利アリト主
 張シ爭論決セズ止ムヲ得ズシテトロイ小亞細亞ノ一國ノ太子パリスニ裁決ヲ
 託ス是ニ於テ三女神皆パリスノ己レヲ擇バンヲ欲シ各々之ニ約束
 ナ爲セリジュノノハ曰ク若シ我レヲ擇ハバ我レハ子ニ一王國ヲ與ヘ
 ンミナルヴァハ曰ク軍事上ノ名譽ヲ與ヘンヴギナスハ曰ク世界無比
 ノ美人ヲ與ヘントパリス遂ニヴギナスヲ擇ベリ幸福ジュノノ大ニ怨
 ミテパリスニ仇セント決ス是レ則チトロイ戰ノ原因ナリ
 當時斯巴爾達王メネロトスノ皇后ヘレント云フ絶世ノ佳人ナリヘ

レン猶處女タリシ時婚ヲ求ムルモノ頗ル多ク頻リニ媚ヲ呈セリ時ニ
 ヘレンノ父ナンダレアス是レ等ノ求婚者ニ向テ言ヘラク他日ヘレン
 ガ人ノ妻タルノ後万一腕力ヲ以テ彼ノ女ヲ奪フモノアラバ君等願ハ
 クハ相共ニ同心戮力シテ之ガ讐ヲ復セラレヨト遂ニ求婚者ヲシテ之
 ナ誓ハシメタリヘレン既ニメネロト婚ヲ結ビテ後トロイ王プリ
 アムノ太子パリス(即チ前ニ記セル)パリス斯巴爾達王ヲ訪ヒシガ皇后
 ノ窈窕タルヲ見テ大ニ悦ビ之ヲ奪ヒ去レリ是ニ於テ斯巴爾達王憤怒
 ニ堪エズ希臘列國ニ向ヒテトロイ征討ノ軍ニ一臂ノ力ヲ貸サレント
 ナ乞フマイセチア王アガメンノンハ斯巴爾達王ノ請ニ應シ是レ等ノ
 求婚者ト其他ノ首長トヲ希臘各地ヨリ召集シ數艘ノ船舶ヲ率テト
 ロイ征討ニ赴クサテ此ノ戰爭ハ十年ノ久シキニ渉ルモトロイ猶降ラ
 ズ時ニ希臘ノ軍中ニ一人ノ英雄アリトロイ第一ノ勇士ヘクタート雖
 モ此英雄ニハ辟易スルホドナリシカバ况シテ其他ノ者共ハ之ヲ恐ル

ト鬼神ノ如ク、トロイ全軍中、一人モ肯テ出テ戰フモノナカリキ。此英雄ノ名ヲエキリスト云フ。海津女神セナストセサリト王、ペレアス二人共ニ前ニ出トノ間ニ生レタル子ナリ。然ルニ、十年間ノ攻圍ノ後、アガメンノン王ハ、エキリスノ捕獲シタル處女、プリセースヲ奪ヒ去リシカバ、エキリス大ニ怒リテ言ヘラシク、「予カ希臘ノ爲メニ戰フモ、最早只今限リナリト」軍ヲ去リテ、我カ天幕ヘト歸リヌ。

トロイ軍ハ、勁敵、エキリス敵陣ヲ去リタリト聞キテ、忽チ勢力ヲ恢復シ出テ、戰ヲ挑ム。是ニ於テ兩軍復々干戈ヲ交ユルコ、互ニ勝敗アリテ更ニ決セズ。既ニシテ希臘軍ハ、敵軍ノ爲メニ激シク迫ラレテ、進退殆ソド谷マリシカバ、エキリスノ友、パトロクラスハ、エキリスニ説キテ言ヘラシク、「今ヤ吾子出デズンバ、我カ希臘軍ヲ如何セン。且ツ吾子若シ希臘軍ノ敗則チ傍觀シツ、猶強テ出ルヲ拒ミタランニハ、吾子ハ將來必ラズ神罰ヲ免カレザルベシト」。エキリス猶出テ、戰フヲ好マズ。只パトロクラ

スニ我カ甲冑ヲ貸シテ、敵ニ我レナリト誤想セシメ、又我カ從者ミルミドンスヲ從ヘシム。然ルニ、パトロクラスハ、ヘクタイノ爲メニ殺サレシニツ、エキリス之ヲ聞キテ大ニ驚キ、是ニ於テ始メテ自カラ突進シテ、トロイ軍ヲ其胸壁内ニ驅逐シ、其維一ノ柱石ヘクタイヲ殺シ、屍ヲ我カ車ニ載セテ船ニ歸ル。希臘羅馬文學史

既ニシテ希臘軍ノ一將ユリツセス、木馬ノ戰略ヲ用ヰテ、トロイノ首府ヲ陷レ將士ヲ殺シテ、全ク之ヲ亡セリ。

ヘレンス種族ノ祖先ナルヘレンノ長子チドラスト呼ベル事ハ、上文既ニ之ヲ叙述シタリ。此ノドラスノ子孫タルドリアン人ハ、元來エクス山ノ南麓、即チ希臘ノ北方ニ住スル少數ノ種族ナリシガ、一千百年ノ頃南進シテ、ペロポネサスナルアケアン諸國ヲ征服シ、拉哥尼亞ヲ占領シ、漸ク近隣ヲ蠶食セリ。

ヘレンノ孫アケアスノ子孫タルアケアン人ハ元來ベロポントサス半島ノ東南ニ住セシガ斯クテドリアン人ノ爲メニ逐ハレケレハ北海岸ニ退キテアイオニア人ヲ逐ヘリアイオニア人ハアケアスノ兄アイオンノ子孫ナリサテアイオニア人ハアケアン人ニ逐ハレタルヲ以テ亞的加ニ於ケル同種族ノ許ニ退キ而シテ中央希臘ヲ領シ兼テアイオンアン海中ナルシラデス諸島ノ大半ヲ領セリ。是ノ時ニ當リテ希臘諸人種中ノ重モナルモノヲアイオニア人及ビドリアン人ト爲ス此兩人種ハ全ク其性質ヲ異ニシ古往今來希臘人ノ二大標本トハ爲レリ而シテ雅典人ハ實ニアイオニア人ノ代表者ナリ又斯巴爾達人ハドリアン人ノ代表者タルナリ辭ヲ換ヘテ言ハバアイオニア人ハ平民的精神ヲ有シ活潑敏捷ニシテ文明的快樂ヲ好ミ美術ヲ嗜メドモドリアン人ハ之ニ反シテ質朴ヲ旨トシ貴族的政治ヲ尊ビ奴隸ヲ養ヘリ。

希臘史傳ノ徵スベキハ紀元前七百七十六年^{我々神代}第一オリムピア祭ヨリ始マル。

オリムピア祭ハ希臘ニ於テ每四年ニ一回行ハル所ノ大祭ニシテ各種ノ競技アリ勝者頗ル名譽ヲ博ス。

當時希臘ニ於テハ政府ノ性質上ニ一大變化ヲ生シタリソモ「英雄時代」ニ在リテハ希臘各種族共ニ上ニ國王ヲ戴キシガ茲ニ至リテ各國悉ク共和政治ニ變更シ獨リ斯巴爾達ノミ只名義上ニ於テ國王ヲ有セリ其ノ頃希臘列國ノ中ニ於テ重モナルハ斯巴爾達及ヒ雅典ナルガ故ニ左ニ聊カ兩國ニ就テ述ベシ。

(甲) 斯巴爾達

斯巴爾達ハベロポントサス半島ニ碁布セル希臘列國中ノ最大ナル者ナリ初メドリアン人ガベロポントサス半島ヲ征服スルヤアイオニス

ツセニア、拉哥尼亞ノ三國ヲ建設シテ茲ニ一定ノ住宅ヲ構ヘタリ。然ルニ歲月ノ經過スルニ從ヒ、斯巴爾達人即チ拉哥尼亞ノ人民獨リ勢力ヲ擅ニシ、他ノ二國ハ其ノ下風ニ立タザルヲ得ザルニ至レリ。

夫レ斯ノ如ク、斯巴爾達ガ、ペロポネサス半島ニ權勢ヲ得シ原因ヲ尋ヌルニ、畢竟ライカinalgas附註ニガ一種特別ノ制度ヲ建設シタルニ由ル。

ライカinalgasト云ヘルハ如何ナル人物ナリヤ、得テ詳ナラザレド、或ハ、斯ル人物ハ世ニ在ラザリシト論スル者スラアレド、願フニ紀元前八百五十年、即チ書契以前凡ソ一百年頃ノ人ニシテ、既存ノ法規慣習ヲ更ニ一層明瞭ニ確定セシ賢者ナラン。

斯巴爾達ノ制度ニ於テハ、貴賤ノ區別最モ嚴重ニシテ、毫モ之ヲ犯スナサズ、ライカinalgasノ時ニ當リ、政權ヲ有スル市民ハ凡ソ九千人ニシテ、其ノ他其ノ十倍以上ノ人民ハ、悉ク「ヘロット」ト稱シ、政權ヲ有セズ。全ク奴隸ノ境遇アリシナリ。

ライカinalgasガ立法ノ主眼ハ、強壯清廉ナル人物ヲ養成シ、且ツ常ニ強壯清廉ナラシムルニ在リ。故ニ此ノ立法ハ、専ラ私行上、及ヒ体育上ニ關シ、政務上ニハ關セザルナリ。此ノ制度ニ據レバ、男子七歳ニ達スレバ、家ヲ出テ、國ノ教育者ノ手ニ薰陶セラレ、ナ法トス。然ル後ハ、公共ノ會食場ニ於テ粗食ヲ食シ、常ニ体操ヲ習ヒ、六十歳ニ至ルマデ、之ヲ怠ルコト能ハズ。又故サラニ寒暑ニ曝ラサレ、飢渴ニ苦メラレ、屢々烈シク鞭撻セラレザルヲ得ズ。故ニ強壯ノ者ハ生活シ、成長スルヲ得レドモ、虛弱ノ者ハ、多ク夭折スルナリ。又權謀ニ長シ、秘計ニ熟シムルガ爲メニ、往々竊盜ヲ行ハシメ、而シテ巧ニ之ヲ行フモノニハ、激賞ヲ與フレドモ、之ニ反シテ半途ニ發覺スル者ハ、嚴罰ヲ蒙ムラザルヲ得ズ。世ニ傳フル所ニ據ルニ、斯巴爾達ノ一少年曾テ狐ヲ盜ミテ之ヲ素肌ニ隠セシニ、狐ハ逃レント欲シテ、彼レノ膚ヲ裂キ、鮮血淋漓タリシモ、少年ハ發覺センコトヲ恐レテ、遂ニ能ク隠シ得タリト云フ。女子モ亦殆ント男子ト一樣ナル体操ヲ

習ハシメ、活潑強壯ナル母ヲラシメタリ。史傳ニ載スル所ニ據ルニ斯巴爾達ノ一母曾テ其ノ子ノ戰場ニ出ルニ臨ミ、之ヲ戒メテ曰ク。汝ハ此ノ楯ヲ用キテ勝利ヲ得ヨ。否ラズンハ、死シテ此ノ楯ニ載セラレテ歸レト。他ハ推シテ量ルベキナリ。

斯巴爾達ノ教育ハ、勇士勇婦ヲ生スレドモ、其ノ他何者ヲモ産スルイ能ハズ。今世ノ人、文學技藝ヲ言ヘバ、必ラズ古代ノ希臘ヲ稱スレドモ、ソハ雅典等ノ事ニシテ、斯巴爾達ニハ更ニ文學者ナク、更ニ美術家ナシ。斯巴爾達人ハ、又哲學ヲ厭ヒ、雄辯ヲ賤ミ、貿易ヲ禁シ、通用金ニハ銀貨ノミヲ許シテ、故サラニ不便ナラシメタリ。美術ハ文弱ヲ來ズモノトシテ之ガ發達ヲ妨ゲ、農業ハ特ニ『ヘロット』即チ奴隸ノミニ從事セシメタリ。左レハ、斯巴爾達人ハ都會ノ地ニ住シテ武士的生活ヲ爲シ、而シテ文明的事業ハ凡テ奴隸ノ手ニ一任セリ。此ノ教育ハ、固ヨリ驍勇大膽ノ武人ヲ生スルニ相違ナシト雖モ、人民トシテハ、魯鈍ニ、嚴刻ニ、又殘酷ニ失スルヲ

免レス。

斯巴爾達ノ政体亦一種特別ニシテ、上ニ二王アリ、共ニ軍兵ヲ指揮シ、祭務ヲ司ル。然レドモ毫モ權力ヲ有セズ。常ニ元老及ヒ代議士ノ爲メニ掄束セラル。代議士院ハ、毎歲相會シテ、『エフナルス』ト名クル官吏五名ヲ撰擧ス。左レハ斯巴爾達ハ、名義上ニ於テ君主政治ナルモ、其ノ實ハ、寡人共和政治ヨリシナリ。

斯巴爾達ハ、ライカガスノ制度ニ薰陶セラレタルヲ以テ、遂ニ攻撃的武斷國ト爲リ、而シテ紀元前七百四十三年乃至同二十四年ノ戰ト、六百八十五年乃至同六十八年ノ戰トノ二戰ニ於テ、メツセニアニ勝チ、又紀元前五百四十七年ニ於テハ、アイゴスヲ征服シ、斯クテドリアン諸國ノ盟主ト爲リ、漸ク大チ致シテ、紀元前六世紀ニ及ヒテハ、ペロポソニサス以外ニ於ケル希臘諸國ノ内治ニモ干涉スルニ至レリ。波斯王ガ大軍ヲ率キテ希臘ニ侵入シタルハ、正サニ此ノ時ニ在リ。

乙 雅 典

斯巴爾達人ト相並ビテ成長シタル一國民アリ。之ヲ雅典人ト名ク。其ノ國ヲ亞的加即チ雅典ト云フ。雅典ハ斯巴爾達ト全ク其ノ趣チ異ニシ。管ニ平民的自由ノ行ハル。トノ他國ニ優レルノミナラズ。智力モ亦他國ニ優レリ。

雅典人ハアイオニア種族ノ粹タリ。而シテ其ノ建國ハ遠ク神代ニ遡ラザルヲ得ズ。初メ雅典ハ他ノ希臘諸國ト同シク上ニ國王ヲ戴キシガ書契ノ始メテ作ラレシ頃。ゴドラス王ヲ最後トシテ共和政治ニ改メタリ。然レドモ當時ハ猶純平タル平民政治ニハアラズシテ「アアイコン」ト名クル官職ヲ以テ國王ニ代ヘタリキ。「アアイコン」ノ職ハ當初之ヲ王族ニ限リ而シテ終身其ノ職ニ在ラシメシガ既コレヲ十年ヲ以テ任期ト定メ、又一變シテ貴族ハ皆之ニ任スルヲ得ヘキトシ、定員ヲ増シテ九人ト改

メ、任期僅ニ一年ヲ限レリ。

「アアイコン」ノ外コ又元老アリ。貴族ヲ以テ其ノ員ニ充ツ。故ニ平民ハ毫モ政治ニ與カルヲ得ズ。從テ寡人政治ノ体裁ヲ爲シ、諸種ノ弊害ナキコアラザリキ。

爾來文明ノ進ムニ從テ、平民ノ不平ハ日々益々多キヲ加ヘ、且ツ其ノ法律ハ貴族ニ寛ニシテ平民ニ嚴ナリトノ議論頻リニ起リシガハ、紀元前六百二十四年、ドラコト呼ヘル一政治家出テ、法典ヲ編制シ、苟クモ罪ヲ犯ス者ハ、其ノ大小輕重ニ論ナク、悉ク死刑ニ處スルヲト定メタリ。噫々苛刻モ亦甚シカラズヤ。左レハ世人ハ稱スラク。ドラコノ法律ハ墨汁ヲ以テ記セズシテ、鮮血ヲ以テ書セリト。

是ヲ以テ此ノ法典編制ノ結果タルヤ、更ニ不平ヲ慰ムルノ効驗ナク、徒ニ貴族ノ心ヲ激シ、國內ヲ鼎沸セシメ、無政府ノ悲境ニ陥ラシメシガ、紀元前六世紀ノ初ニ及ヒ、シロン附録ニ傳アリト呼ヘル豪傑出テ、希臘ヲ此ノ悲

境ヨリ救ヘリ。是レヨリ先キ、ソロン選ハレテ「アikon」ノ職ニ昇リシガ、
國內ノ平和ヲ恢復セント欲シテ、屢々意見ヲ陳述シ、同五百九十四年衆
人ノ委任ヲ受ケテ雅典憲法編制ノ事ヲ司リ、功成リテ、非常ノ好成績ヲ
得タリ。此ノ憲法コソ實ニ雅典繁榮ノ根本ト稱スベキナレ。
ソロンノ憲法ノ主眼ハ、彼ノ壓制ナル貴族政治ヲ廢シ、温和ナル平民政
治ヲ以テ之ニ代ヘ、而シテ雅典一般人民ヲシテ政治ニ參與スルヲ得セ
シメタルニ在リ。

既ニシテ、ピシトラタスト呼ベル豪傑出テ、總裁ノ職ニ就キ、擅制ノ
權ヲ壟斷セリ。然レドモソロンノ憲法ヲ廢セザリキ。紀元前五百十年ピ
シトトラタス放逐ノ刑ニ處セラレテ後、クリスセニスト呼ベル人代リ
テ總裁ノ職ニ就ク。此ノ人ハ、人民ノ味方ニシテ、住民ニ悉ク選舉權ヲ與
ヘ、憲法ニ改良ヲ加ヘタリ。爾來雅典ハ眞箇ノ平民政治ト爲リ、人民ノ愛
國心一時ニ喚發シテ、雅典忽チ中央希臘ニ頭角ヲ見ハセリ。左レバ、波斯

戰下文ニ就ノ時即チ紀元前五百年ニ當リテハ、雅典ノ文明遂ニ天下ニ冠
タルニ至レリ。

(二) 第二期 自波斯戰(紀元前五百年) 至フキリツノ王勝利(紀元前三百二十八年)

(甲) 波斯ノ襲來

紀元前五百二十一年、ダリアス一世、波斯王ノ位ニ即キテ四方ヲ征服シ
版圖ヲ擴ム。是レヨリ先キ、先王シラス始メテ波斯國ヲ建設シ、嗣王カム
ビセス益々近隣ヲ蠶食セシガ、今ヤダリアスノ世ニ至リテ、世界多ク有
ラザルノ大國トハ爲レリ。會々小亞細亞ナルアイオニアノ各府ハ、曩キ
ニ波斯ノ爲メニ併吞セラレテヨリ、不平ノ念常ニ絶エザリシガ、茲ニ至
リテ叛旗ヲ舉ゲ、而シテ雅典人ハ、同族ノ好ミヲ以テ、兵若干、船二十艘ヲ
送リテ之ニ應援シ、小亞細亞ノ海岸ニ上陸シテ、リーデアノ首府サーヂ
スヲ燒ケリ。實ニ紀元前四百九十九年ナリ。

メリアス之ヲ聞キテ大ニ怒リ、速ニ兵ヲ出シテ叛徒ヲ鎮定セシガ、猶未
マ其ノ心ヲ慰ムルヲ能ハズ。依リテ大舉シテ雅典ヲ征服セント欲セリ。
(紀元前四百九十四年)是ニ於テメリアス、矢ヲ天ニ放チテ、雅典ノ降伏ヲ
神ニ祈リ、且ツ從者ニ命ジテ三日間、我が前ニ反復セシムラク、王ヨ、陛下
ハ雅典ヲ忘レ給フヲ勿レト。

準備既ニ整ヒケレバ、皇婿マロニアスヲ征討總督ニ任シ、軍ヲ率ヰテ
發セシム。マロニアス、スレースヲ經テ馬塞頓ニ進ムニ、到ル處皆風靡
シテ、兵乃ニ劔ヌルヲ要セス。然レドモ兵士漸ク疲レテマヲ進ム能ハズ
殊ニ艦隊ハ、アプス山麓ノ半島沖ニ於テ、颶風ノ爲メニ破壊シケレバ、マ
ロニアス茲ニ如何トモ爲シ難ク、紀元前四百九十二年ヲ以テ、小亞細
亞ニ歸レリ。

メリアス此ノ失敗ニ逢フテ益々雅典征服ノ決心ヲ固ウシ、既ニ軍隊ノ
整フヤ、希臘ノ重モナル諸都府ニ使節ヲ送り、服從ノ徵候トシテ、土ト水

トヲ貢納スベシト求ム。然ルニ使節ノ到ル處多ク恐怖シテ、メリアスノ
命令ニ從ヒ、サシモ文化ヲ以テ誇レル希臘列國モ一朝ニシテ、波斯ノ爲
メニ併呑シ盡サレントス。然レドモ雅典、及ヒ斯巴爾達ノ兩國ノミハ、斷
然此ノ要求ヲ拒絕シ、相聯合シテ、波斯ニ抵抗セントス。希臘小邦ノ中ニ
モ、此ノ決心ヲ聞キテ、再ヒ波斯ニ抵抗ノ色ヲ顯ハスモノ少ナカラザリ
シト云ヘリ。

紀元前四百九十年ノ春、波斯王メリアス、大將軍ダサスヲシテ、軍艦六百
艘ヲ率ヰテ、サモスヨリ、イオン海ヲ渡リ、途ヅカラシラダス諸島
ヲ征服シ、又ユーベア島中ノエレトリアヲ占領シタル後、亞的加ノ東岸
ナルマラトン灣ニ上陸セシム。雅典ヲ距ルヲ僅ニ一步ナリ。

是ノ時ニ當リテ、雅典ハ一万ノ兵ヲ出シテ、マラトンノ原野ヲ守ラシム。
應援ノ兵ハ、單ニアラテアヨリ來レル六百人アルノミ。然レドモ將軍ミ
ルチアデスハ、剛毅ニシテ憂國心ニ富ミ、正直ニシテ能ク士心ヲ得タル

ガ故ニ、瞬時ノ間ニ十倍ノ波斯軍ヲ敗レリ。
 波斯王言ヒ甲斐ナクモ、ミルチアデスノ爲メニ敗績シケレバ、更ニ大舉
 シテ之ヲ破リ、會稽ノ耻ヲ雪ガントス。然レドモ國家多事ナルヲ以テ、兎
 角光陰ヲ過セシガ、偶々病ニ罹リテ崩セリ。實ニ紀元前四百八十五年ノ
 夏ナリ。太子セルセス位ヲ嗣ギ、父王ノ遺志ヲ繼ギテ復タ希臘ヲ伐テ、前
 日ノ怨ヲ報セントス。是ニ於テマラトンノ戰爭後十年、即チ紀元前四百
 八十年二百五十万ノ兵ヲ率ヰ、ヘルレンスボントヲ海峡ヲ架シテ之ヲ
 渡リス。スレ、及ヒ馬塞頓ヲ經、又セサリト南ニ過ギテ、更ニ北方ニ向
 ヒ、潮ノ涌クガ如キ勢ヒヲ爲シテ亞的加ノ方ニ進メリ。
 希臘人ハ、岷々クル、エタ山ト、マリヌ灣ニ瀕セル一沼トノ間ナル狹路ニ
 敵ヲ擁シテ戰ヲ交エントス。此ノ狹路ヲセルモビレト名ク。
 幾モナクシテセルセス北希臘ニ入レリトノ報ニ接シケレバ、斯巴爾達
 王リオニダスハ、七千ノ兵内三百人ハ、斯巴爾達人ヲ率ヰテ之ヲセルモ

ビレニ遊フ。波斯軍既ニセルモビレニ達スルヤ、希臘軍死力ヲ盡シテ之
 ニ抵抗シ、二日ノ間敵ヲシテ進ムヲ能ハザランメタリ。然ルニ第三日ニ
 至リ、希臘軍ノ中ニ内應者アリ、波斯軍ニ敵ヘテ間道ヨリ希臘軍ノ背後
 ニ出デシム。事不意ニ出テケレバ、流石ノ希臘軍モ今ハ其ノ位置ヲ保ツ
 能ハズ、然レドモ、リオニダスハ、固ヨリ留マリテ死セント決セリ。抑モ斯
 巴爾達ノ法タルヤ、奇クモ戰場ニ出ルモノハ、敵ニ勝ツカ否ラザレバ、其
 ノ場ニ於テ討死セザルベカラズ。左レバ三百名ノ斯巴爾達人ハ、悉ク留
 マリテ王ト共ニ死セント望ミ、七百名ノセサリト人モ亦同シク死ヲ決
 セリ。是ニ於テ是レ等一千名ノ勇士ハ、必死ヲ極メテ激シク、波斯ノ大軍
 ニ抵抗セシガ、如何セン四面悉ク敵ナルヲ以テ奮激突戰ノ末、リオニダ
 ス王以下一千名ノ希臘軍悉ク戰死シケルヲ憐レナル。
 希臘艦隊ハ、是レヨリ先キ、ユーベア島ノ北岸ニ位置ヲ占メタリシガ、既
 ニシテ茲ニ波斯ノ艦隊ト戰ヲ交エ、勝敗未ク決セズ。偶々暴風起リテ、波

斯ノ艦隊破壊シケレバ、一時休戦ノ姿トハ爲レリ。
此ノ瞬時ニ際シ、雅典ノ海將セミストクリヌハ、希臘軍既ニセルモヒレ
ノ戦ニ敗レ、波斯軍合同シテ雅典ニ近ヅキ來ルト聞キシカバ、直ニ艦隊
ヲ南ノ方雅典附近ナルサラミス灣ニ退カシメリ。
雅典ノ市民ハ、セルセスノ到着近キニ在ルヲ知リテ恐惶爲ス所ヲ知ラ
ズ。之ヲ巫祝ニ諮ルニ、巫祝ハ神託ヲ下シテ言ヘラク「須ソ、木家」ニ退キテ
安全ヲ求ムベシト。市民判シテ曰ク「所謂『木家』トハ船舶ノ意ナラシト。依
リテ全民悉ク京城ヲ去リケレバ、波斯軍忽チ之ヲ占領シ、火ヲ注ギテ全
城ヲ灰燼ニ附シ去レリ。

サラミス灣ニ於テハ、希臘ノ艦隊三百六十艘悉ク集合シテ波斯艦隊ト
戦ハシトス。波斯艦隊ハ、曩キニ暴風ノ爲メニ若干艘ヲ損傷シタルニモ
拘ハラス、尙一千艘ノ艦隊ヲ有シケレバ、セルセス王必勝ヲ期シテ、海角
ニ塵ヲ擄ヘ、戰場ヲ瞰下シ、意氣頗ル壯ナリ。豈圖ラシヤ、希臘軍ハ全

捷ヲ博シ、波斯軍二百艘以上ノ艦隊ヲ失ヒシカバ、セルセス周章狼狽シ
テ本國ニ逃レ歸レリ。實ニ紀元前四百八十年十月ナリ。

セルセスノ逃レ歸ルヤ、大將軍マードニアスニ命シ、三十万ノ兵ニ將ト
シテ留リテ希臘軍ニ對セシム。翌年此ノ兵ト、希臘ノ兵七万ト、プラテア
ニ一大決戦ヲ爲ス。紀元前四百七十九年九月二十五日、希臘軍ハ、雅典ノ
將アリスタトプス、斯巴爾達ノ將ポルサニアス之ヲ率キテ、全捷ヲ得シ。
波斯軍逃レテ本國ニ歸ル。希臘ノ艦隊モ亦之ト同日ニ、小亞細亞ナルミ
ケールニ於テ波斯ノ艦隊ヲ破レリ。

夫レ斯ノ如ク、希臘軍ハ、ガラミス、プラテア、ミケール三回ノ戦ニ、一トシ
テ全勝ヲ博セザルハナカリシカバ、波斯軍大ニ恐レテ再舉ノ念ヲ絶チ
希臘ノ文明ハ、爲メニ未開人ノ妨害ヲ免レタリ。

(乙)

ペリクリスノ時代

サラミスノ海戦後凡ソ五十年ノ間(即チ紀元前四百八十年ヨリ、同四百三十年ニ至ル迄ノ間)雅典史中全盛ノ時代ニシテ、世界史中亦最モ有名ナル時代ナリ。世ニ此ノ時代ヲ稱シテ、ペリクリスノ時代ト云フ。此ノ時代ノ大半ハ、ペリクリスガ雅典ニ勢力ヲ有セル時代ナレバナリ。ソモ雅典ガ此ノ昌盛ヲ致シタル所以ハ、畢竟波斯戦ニ大勝利ヲ得タルニ由リテナリ。而シテ希臘列國ハ外敵ヲ防ガンガ爲メニ同盟ヲ結ビ海岸及ヒ島嶼ノ諸國ハ、疊キニ雅典ガ海戦サラミスノ海戦ニ勝利ヲ得タルヲ感賞シテ之ヲ霸主ニ戴キ、又内地ニアル諸國ハ、斯巴爾達ヲ霸主ニ戴ケリ。然ルニ雅典ハ、其ノ勢力ノ己レニ歸シタルヨリ、漸ク他國ヲ輕侮シテ之ヲ屬國視シ、彼レ等各自ニ同盟ヲ結フヲ許サズ。只雅典トノミ同盟ヲ結ハシメ、同盟諸國ノ船舶及ヒ金錢ヲ擧ケテ、皆之ヲ自國ヲ増大スルノ用ニ供セリ。蓋シ此ノ政畧ノ如キハ、先見ニ乏シキノ政畧ト謂ハザルベカラズ。然レドモ一時雅典ヲシテ殆ンド獨裁君主ノ地位ニ立タシメ、其ノ

權勢ハ世人ノ耳目ヲ驚カスバカリナリキ。雅典ノ文學最モ隆盛ノ域ニ進ミ、技藝最モ精緻ヲ極メ、戯曲ニ彫刻術ニ、建築術ニ、演說ニ、一トシテ卓絶セザルハナカリシハ、實ニ此ノ時代ニ在リ。左レド又一方ヨリ觀察ヲ下スニ、内乱ノ兆候漸ク顯ハレ、衰微ノ種子ノ漸ク萌芽ヲ生セントシタルモ亦正サニ此ノ時ニ在リ。サレバ、識者ハペリクリスノ生前ニ早クモペロポニチサス戦ノ到底免カルベカラザルヲ前知シタリ。ペリクリスハ、古今第一流ノ政治家ニシテ、其ノ雅典ニ盡セシ功績ハ頗ル大ナリシガ、紀元前四百十三年時疫ニ罹リテ死セリ。其ノ病大漸ナル時、朋友及ヒ感服家等病床ノ周圍ニ集リテ、頻リニ氏ノ功績ヲ賞讃シタリシニ、氏ハ之ニ答フラシク、否々、予ハ微力ニシテ諸君ニ賞讃セラルベキホドノ功ナキヲ耻ツ、只聊カ誇ル所ハ、在職ノ間、予ノ事業ノ爲メニ、雅典人ヲシテ喪服ヲ着用セシメタルヲナキノ一事ノミト、此ノ一言以テ氏

ノ大功ヲ徵スベキナリ。

(丙) ペロポネチサス戰

ペロポネチサス戰トハ、雅典ヲ盟主ニ戴キタル同盟ト、斯巴爾達ヲ盟主ニ戴キタル同盟トノ戰爭ヲ云フ。此ノ戰ハ、紀元前四百三十一年ヨリ起リテ、二十七年ノ間連續シ、而シテ其ノ結果、タルヤ、希臘全体ヲ衰弱セシメ、殊ニ雅典ヲシテ全ク振フコト能ハザラシメタリ。

此ノ戰爭ノ近因ハ、同盟諸國ガ雅典ノ權勢ノ強大ナルヲ妬ムニ在リ。然レドモ深ク其ノ遠因ヲ尋ヌルニ、アイオニア人ト、ドリアン人トノ爭乱、即チ平民政治ト、寡人政治トノ爭乱ノ破裂シタルニ在リ。何トナレバ雅典ハ、アイオニア諸州、共和政治諸州ノ領袖ニシテ、斯巴爾達ハ、ドリアン諸州、寡人政治諸州ノ領袖ナレバナリ。

初メコリンス其ノ殖民地ノ一タルコルシラト、葛藤ヲ生シ、干戈ヲ交ヘ

シニ、雅典、後者ニ應援シテ前者ヲ攻撃シケレバ、ドリアン同盟ノ怒ル所ト爲リ、斯巴爾達軍遂ニ亞的加ヲ襲ヘリ。實ニ紀元前四百三十一年ナリ。交戰ノ初ヨリ十年ノ間、即チ同四百二十一年ニ至ルマテノ間ハ、雅典ガ海軍ノ強キト、斯巴爾達ガ陸軍ノ強キトニ依リテ、互ニ勝敗アリ。同年ニ至リ、ナイシアスノ媾和條約ニ由リテ、五十年ノ間、平和ヲ維持スヘキヲ誓ヘリ。然レドモ同盟國多ク此ノ條約ニ不滿ヲ懷ケルヲ以テ、未ダ久シカラサルニ、復テ戰ヲ交ユルニ至レリ。

此ノ時ニ當リテ、雅典ニ、アルシバイアデスト呼メルモノアリ。ソクラテス附録ニ傳アリノ門人ニシテ、尙妙齡ノ才子タリシガ、政治上ニ勢力ヲ有セルヲ以テ足レリトセズ、竊カニ大望ヲ懷キ、戰爭ヲ誘起シ、其ノ機ニ乘シテ功名ヲ博セント企テタリ。是レ則チ一旦戡マリタル干戈ノ未ダ幾モナクシテ再ヒ起リシ一原因ナリ。

アルシバイアデス今ハ西々里ノ一都ニシテ、キユースヲ征服セント欲シ

テ其ノ計畫ヲ運テセリ。此ノ事タル極メテ大業ニシテ、成敗固ヨリ必ト
スベキコアラズ。然レドモ若シ幸ニシテ効ヲ奏シタランニハ、雅典ハ一
躍シテ斯巴爾達ニ優リタル權力ヲ得ベキヲ以テ、雅典人ハ喜ヒテ、アル
シハイアデスノ計畫ヲ採用シ、紀元前四百十五年陸海兩軍ヲシラキユ
ロスニ送リテ之ヲ攻撃セリ。是ニ於テ斯巴爾達モ亦援兵ヲシラキユロ
スニ送リテ、ペロポソニサス戰再ヒ起レリ。此ノ設計ノ最中ニ、アルシハ
イアデスハ、瀆神ノ告訴ヲ受ケテ雅典ニ召還セラレタリ。然レドモアル
シハイアデスノ伶俐ナル、早クモ其ノ罪ニ陷レラル、ヲ知リテ斯巴爾
達ニ逃レ、同四百十三年シラキユロス攻撃ノ戰ハ、全ク雅典ノ敗北ニ歸
シ、大ニ其ノ威信ヲ損セリ。
爾來凡ソ八年ノ間、ペロポソニサス戰ハ、重モニ海軍ノ戰ト爲リ、亞細亞
近海ニ於テ雌雄ヲ爭ヒシガ、斯巴爾達ハ、波斯ト同盟ヲ結ヒテ、其ノ金力
ヲ借ケレバ、軍資餘リアリテ、能ク雅典ニ抵敵スルヲ得。雅典モ亦大

胆ヲ之上、拮抗シ、アルシハイアデス(今ハ再ヒ雅典ニ歸リテ司令官タリ)
能ク戰ヒテ屢、敵艦ヲ塞クセリ。
既ニシテ斯巴爾達ノ將軍ライサンダーベルレス、ボント海峽ナルニ、ゴ
ス、ボスモスニ於テ、突然雅典ノ軍艦ヲ襲ヒケレハ、雅典ノ艦隊ハ周章狼
狽シテ全ク敗衄セリ。其ノ翌年雅典遂ニ斯巴爾達ノ圍ム所ト爲リテ、城
下ノ盟ヲ爲シ、茲ニペロポソニサス戰ヲ終レリ。

ペロポソニサス戰ノ結果トシテ、斯巴爾達ハ、希臘第一ノ強國ト爲リ、雅
典ハ第二流國ニ下リテ、遂カニ其後ニ隱若クナリ。然レドモ雅典ハ其ノ政
權ヲコソ失ヒタレ、文學、技藝、哲學ニ於テハ、益、他國ニ超絶スルニ至レリ。

(丁) 斯巴爾達及ヒ齊武全盛ノ時期

雅典衰弱シテヨリ、斯巴爾達ノ勢ハ宛ナガラ旭日ノ昇ル如ク、希臘列國
之ト比肩シ得ベキモノナシ。斯クテ凡ソ三十四年ノ間(即チニ、ゴス、ボタ

モスノ勝利ヨリ、リユークトラノ敗績ニ至ル。紀元前四百零五年乃至同
三百七十一年(希臘列國ヲ總裁シ、頗ル擅制苛刻ノ處置ヲ行ヘリ。是ニ於
テ、希臘キニペロポネサス戰ノ初ニ、斯巴爾達ヲ以テ已レ等ヲ雅典ノ稱
輒ヨリ脱セシムルモノトシテ之ニ左袒シタル諸國モ、今ハ斯巴爾達ヲ
恐レ惜ム。前日ノ雅典ニ數倍シ、早晚機會モアラハ、之ニ叛カント企
テ、
此ノ時、齊武希臘列國ノ一ハ、漸ク勢力ヲ得テ、第一流國ヲラントス。今其強大ヲ致
シ、原因ヲ尋ズルニ、全クニバミノンダス附録ニ傳アリ及ビペロビダスト名ク
ル二人ノ豪傑アリシニ由レリ。二人類リニ齊武人ヲ薰陶シテ其ノ傾眠
ヲ挽回シケレハ、齊武人モ漸ク勇氣ヲ發揮シテ、斯巴爾達ノ侮辱ヲ憤リ、
報復ノ念ヲ生スルニ至レリ。是ニ於テ二人ヲ大將ト爲シテ、斯巴爾達ト
久シク勝敗ヲ爭ヒ、紀元前三百七十一年リユークトラノ戰ニエバミノ
ンダス全ク斯巴爾達ヲ敗レリ。爾來斯巴爾達ハ、遂ニ滅亡セリ。

是ニ於テ齊武ハエバミノンダスノ下ニ、希臘第一ノ強國ト爲リシガ、其
ノ後、雅典及ヒ斯巴爾達ヲ敵トシテ戰ヲ交ニ、連戰勝ヲ得タルモ、名將、エ
バミノンダスヲ陣頭ニ失ヘリ。是レヨリ齊武復々振ハズ。
夫レ斯ノ如ク、希臘ニ於テハ、ペロポネサス戰ニ次テ、斯巴爾達、齊武戰
起リ、多年ノ交戰ニ、列國悉ク疲弊衰弱シケレバ、馬塞頓王フサリツプ、其
ノ時ニ勃興シ、漁夫ノ利ヲ占ムルヲ得タリ。

(三) 第三二期 自フサリツプ勝利(紀元前三百二十八年)至羅馬人希臘併呑(紀元前百四十六年)

(甲) 馬塞頓王フサリツプ、無上ノ權力ヲ得

抑モ馬塞頓國ハ、希臘ト密着ノ關係ヲ有スルニモ拘ハラズ、從來百般ノ
事ニ於テ、遙カニ其ノ後ニ瞻若タリシガ、紀元前四世紀ノ中葉ニ、英明ノ
主出テ、ヨリ、始メテ旭日ノ勢ヲ爲セリ。此ノ英明ノ主ヲ誰トカスル。ア
ミンダス二世ノ子フサリツプ王是レナリ。

フキリツプハ、紀元前三百五十九年ヲ以テ、馬塞頓王ノ位ニ即キシガ、
 テ久シク齊武ニ質アリシヲ以テ、細カニ希臘ノ政況ヲ觀察シ、王ト爲ル
 ニ及ヒテ、切ニ馬塞頓國ノ地位ヲ高ムルヲ勉メリ。當時フキリツプノ
 意ハ、希臘ヲ征服セント欲スルニアラズ。先ツ希臘列國ノ一ニナルヘキ地
 位ヲ占メ、然ル後列國ノ盟主タルヲ宛ナガラ前時ノ雅典、斯巴爾達、及ヒ
 齊武ノ如クナラシメテ望ミナリシナリ。
 是ヲ以テ先ツ第一着手トシテ、巧ニ希臘ノ事件ニ交渉シ、久シカラズシ
 テ「アムフキリツプ」公會ノ一員ト認メラレタリ。
 (アムフキリツプ)公會ハ、ヘラス人種ガ宗教上ノ大會ニシテ、馬塞頓
 王ガ此ノ會員ト認メラレタルハ、取リモ直サズ、馬塞頓國ガ希臘列國
 ノ一ト認メラレタルニ同シキナリ。
 既ニシテ、フキリツプノ野心漸ク增長シ、希臘全体ヲ征服スルニアラザ
 レバ、満足スルヲ能ハザルニ至レリ。

雅典有名ノ雄辯家デモステニス夙ニ此ノ野心ヲ看破シ、屢々辯舌ヲ振
 ヒテ雅典人ヲ警戒ス。然レドモ雅典人ハ既ニ舊時ノ愛國心ヲ失ヒテ、優
 游不斷ノ間ニ衰亡ヲ招キツ、アリシテ淺マシキ。
 デモステニスハ、紀元前三百八十四年(或ハ云フ、三百八十五年)生ル。雅
 典ニ最モ有名ナル雄辯家タルニ論ナシ、實ニ古今無双ノ雄辯家トシ
 テ世ニ頌讚セラル。其ノ頃馬塞頓王フキリツプ希臘ヲ一統セントノ
 大望ヲ有シ、威ヲ以テ嚇シ、利ヲ以テ誘フナド百方手段ヲ盡シテ類リ
 ニ人心ヲ収攬セント勉メナリシカハ、雅典人ノ中ニモ、之ニ瞞着セラ
 ル、モノ少ナカラザリシガ、デモステニスノ炯眼ハ早クモ之ヲ看破
 シ、屢々公衆ノ前ニ得意ノ雄辯ヲ振ヒテ、其ノ注意ヲ促カシケレバ、流
 石ノフキリツプモ、氏ヲ恐ル、一ニ雅典ノ陸海軍ヨリモ甚シク、爲メニ
 凡ソ十五年餘ノ間、雅典ニ意ヲ逞フスルヲ能ハサリキ。又雅典ガ齊武
 ト共ニ同盟軍ノ盟主ト爲リテ、フキリツプニ抵敵シタリシモ、氏ガ雄

辯ノカニ由レリト云フ。紀元前三百二十二年。享年五十九歳ナリ。
紀元前三百五十八年ノ頃、フキリツプ始メテ雅典ヲ襲撃シ、爾來凡ソ二
十年ノ間、戰略權謀ノ二者ヲ用キテ、希臘ヲ一統スルコトニ勉メ、同三百三
十八年、雅典及ヒ齊武ノ軍ト、ホーシア國チエロチアニ戰テ大ニ之ヲ破
リ、希臘全國ヲ吞滅シテ、悉ク馬塞頓ノ屬地ト爲セリ。

フキリツプガ此ノ偉功ヲ奏シタルハ、左ノ二策ニ依レリ。

(第一)其ノ兵制ノ完備セル事。(ソモ馬塞頓ノ陣法ハ、當時最モ世ニ稱
セラル、所ニシテ、百戰百勝ノ法ナリシト云ヘリ。)

(第二)其ノ政略ノ確固タリシ事。(當時希臘列國互ニ相妬ミテ團結セ
ズ。人心悉ク腐敗シタリシカバ、フキリツプ其ノ虛ニ乘シテ、國ト國
トヲ離間シ、政治家ト政治家ト相憎マシメ、威嚇利誘外交上ニ、戰
争上ニ、秘術ヲ盡シテ、遂ニ併吞ノ目的ヲ遂ゲタリ。)

フキリツプ既ニ希臘ヲ一統シタリシカバ、往時波斯王ダリアス及ヒセ

ルセスガ希臘ニ來襲セシ罪ヲ鳴ラシ、其ノ復讐ヲ名トシテ波斯王ヲ擊
テ、斯クテ希臘ノ人心ヲ一和結合セシメント欲セリ。然ルニ之ヲ實行ス
ルニ及ハズシテ、一臣民ノ爲メニ弑セラレタリ。實ニ紀元前三百三十六
年ニシテ、フキリツプ享年四十六歳ナリ。

(乙) 歴山大王ノ出身

フキリツプ王崩シテ、其ノ子歴山位ヲ嗣グ。時ニ年二十。有名ナル歴山大
王是レナリ。歴山ハ、不世出ノ人傑ニシテ、其ノ才能遙カニ父王ニ超絶セ
リ。其ノ位ニ即クヤ、直ニ父ノ遺志ヲ繼ギテ波斯征討ノ計畫ヲ運ラシ。紀
元前三百三十四年征討軍ノ大元帥トシテ出發セリ。

是ニ於テ僅々三万五千ノ兵ヲ率キテ、ヘルレ。スホントノ海峽ヲ渡リ、小
亞細亞ナルガラコカスニ進ミ、茲ニ波斯ノ大軍ト戰テ大ニ之ヲ破ル。尋
テ小亞細亞ノ各波斯領ヲ蹂躪シテ、叙利亞ニ入り、叙利亞ト、シリシアト

ノ境ナリイササスニ於テ波斯軍ト會戰ス。波斯軍ハ多勢ニシテ、ダリア
ス三世親ラ之ヲ率キタリ。然レドモ地利惡シカリシガ爲メニ任意ノ運
動ヲ爲スヲ能ハズ。紀元前三百三十三年、歴山大ニ波斯軍ヲ破ル。ダリア
ス僅カニ身ヲ以テ逃レ、太后及ヒ皇后ハ、馬塞頓軍ノ爲メニ擒コセラレ
タリ。

歴山暫ラシ波斯軍ヲ追撃スルヲ中止シ、イスサスヨリ、タイアガザ及
ヒ埃及ニ進メリ。此ノ三地ハ、當時波斯ノ配下ニ屬スルモノナリ。二十ヶ
月コシテ三地ヲ征服シ、アレキサンドリア府ヲ建設セリ。

既ニ波斯國ニ屬スル沿海地方ヲ悉ク占領シケレバ、紀元前三百三十一年
年更ニ同國ノ中心ニ進ミ、亞西里亞ナルアルベラニ於テ、激シクダリア
スト戰ヲ交ユ。此ノ時ニ當リテ波斯ノ軍ハ、一百万人、馬塞頓ノ軍ハ僅ニ
五万ニ過ギズ。然レドモ馬塞頓軍大ニ之ニ勝テ、波斯ノ三都會即チ巴比
倫、シニール、ペルセポリス悉ク馬塞頓ニ降リ、波斯王ダリアス三世ハ、逆

臣ノ爲メニ弑セラレタリ。

斯クテ歴山大王ハ、二十五歳ノ時、西亞細亞ヲ一統セリ。左レドモ未ダ其野
心ヲ満足セシムルニ至ラズ。更ニ自餘ノ諸國ヲ征服セントス。波斯ノ東
隣ニ大國印度アリ。富裕多ク其ノ比ヲ見ズ。大王終ニ之ヲ征服シ、更ニ東
方ニ進マントス。然レドモ士卒既ニ疲倦シテ西歸ヲ望ミケレバ、止ムヲ
得ズシテ歸國ヲ決セリ。左レド猶一策ヲ按出シ、本來シ道ヲ歸ルヲ止
メテ、更ニ道ヲ他ノ地方ニ取り、海軍ハ、ハイダスベス河及ヒ印度河ヨリ
歸途ニ就カシメ、陸軍ハ、其ノ沿岸ヨリ歸途ニ就カシメタリ。既ニシテ印
度洋ニ到リケレバ、歴山其ノ海軍大將ニ「アカス」ニ命シ、諸ノ艦隊ヲ率
キテ、ユーフラチス河ニ進マンメ、大王親ラ陸軍ヲ率キテ、沙漠タルゲド
ロシア俾路芝斯坦ニ在リ、カルマニアヨリ波斯ニ歸リ、其ノ一部ヲ率キ
テ、更ニ近國征討ノ師ヲ起サント欲シ、其ノ準備ニ着手セリ。
準備既ニ整ヒケレバ、將ニ進テ征討ニ從事セントス。俄然大王ノ巴比倫

ニ崩スルニ會シ、事遂ニ止ミヌ。時ニ紀元前三百二十三年ニシテ、大王享年三十三歳ナリ。大王病大漸ナル時、群臣王ニ向テ、何人ヲ後嗣ト定メラルベキヤヲ問ヒシニ、大王答ヘテ言ヘラク、最モ強キ者ヲシテ嗣ガシムベシト。大王既ニ崩ズ、而カモ所謂最强者ノ繼嗣タルヘキナジ。是ニ至リテ、サシモ廣大ナル版圖ハ、忽チ四分五裂セリ。

(丙) 歷山大王ノ後嗣

前既ニ述ヘシ如ク、歷山崩シテ其ノ廣大ナル版圖悉ク四分五裂シ、其ノ麾下ノ將軍互ニ相争フ。凡ツ二十年、紀元前三百一十年ニ及ヒテ、フリシアナナルイプサスニ於テ一大決戰ヲ爲シ、其ノ結果トシテセリユーカス

ハ叙利亞ト印度トヲ得、トレミトハ埃及ヲ得、リシマカスハ、スレースヲ得、カツサソナルハ、馬塞頓ヲ得テ事始メテ平ラギタリ。此ノ數者ニ就テ、歴史上ニ最モ關係ヲ有スルハ、埃及ニ於ケルトレミトノ王國、及ヒ印度ニ於ケルセリユーカスノ王國トス。左レド茲ニ必要ナキヲ以テ之ヲ略ス。

(丁) 馬塞頓、及ヒ希臘ノ晩年

歷山大王ノ崩スルヤ、希臘諸國ハ、馬塞頓ノ羈絆ヲ脱セント欲シ、而シテデモスセニス、及ヒハイペリデスノ兩雄ハ、雅典人ヲ誘導シテ、希臘列國ノ同盟ヲ組織セシメ、紀元前三百二十三年乃至二十一年、馬塞頓人トラミアンノ戰ヲ爲ス。然レドモ不幸ニシテ同盟軍敗績シ、馬塞頓ノ羈絆ハ更ニ一層ノ堅固ヲ加ヘタリ。此ノ時ニ當リテ、希臘列國中ニ緊要ノ地位ヲ占メタルハ、馬塞頓、アケア。

エトリア、斯巴爾達ノ四國ナリキ。中ニモアケア及ヒエトリアノ兩國ハ相合シテ、一ノ同盟ヲ組織セリ。其ノ性質ハ、恰カモ今ノ瑞西諸州ノ同盟若クハ北米合衆國ノ聯邦ノ如ク、各國共ニ其ノ權力ノ一部、就中宣戰媾和ノ權力ヲ大政府ニ委任セリ。此ノ同盟ノ最モ世ニ知ラレタルチ、アケアン同盟及ヒエトリアン同盟ト爲ス。アケアン同盟ハ、紀元前二百八十年ニ之ヲ結ビタルモノナリ。

此ノ同盟ハ、能ク馬塞頓ノ蠶食ヲ防ギ、獨立ヲ保ツヲ得タルノミナラズ、紀元前二百四十五年乃至十三年、アフラタス及ヒフサロニアメソナル兩愛國者ノ時ニ及ヒ、頗ル強盛ニ達セリ。左レド、斯巴爾達ノ猜忌ヨリ、茲ニ葛藤ヲ生シ、止ムヲ得ズシテ、其ノ調停ヲ馬塞頓王ニ託セシカバ、馬塞頓復テ、厥尾跳梁スルニ至レリ。

然レドモ馬塞頓其國スラモ久シク獨立ヲ維持スルヲ能ハザリキ。此ノ時ニ當リテ、羅馬新コガルセーワニ勝チテ、其ノ勢益赫ノ如ク、漸ク東方

ニ向テ爪牙ヲ逞クセントシ、紀元前二百年馬塞頓ト干戈ヲ交ユ。爾來互ニ勝敗アリテ久シク決セザリシガ、同百六十八年、ピドナノ戰ニ、馬塞頓軍大敗シ、羅馬終ニ馬塞頓ヲ亡ボシ、馬塞頓王ベルシアスハ、擒ニセラレテ羅馬ニ送ラレタリ。此事起リシ後、希臘共和國ハ姑ラク獨立ヲ維持スルヲ得タリシガ、既ニシテ又相互ノ間ニ争ヲ生シ、其ノ極、遂ニ羅馬ノ爲メニ吞滅セラレタリ。爾來アカイアヲ稱シ、羅馬ノ屬地ト爲レリキ。

第三章 土耳其古來ノ略史

史家アブールガッ、バールツール汗ノ說ニ據ルニ、土耳其人ハ、ジャフエツトノ子ノ長男トルクノ子孫ニシテ、韃靼人及ヒ蒙古人ト其種チ一ニスト云ヘリ。然レトモ果シテ然ルヤ否ヤハ今之ヲ詳ニスルヲ能ハズ。土耳其人ハ、五牧畜種族ノ一ニシテ、チユラ小亞細亞ニ在リノ地ヨリ、漸ク北ノ方

レナニ蕃殖シ、黒海、オクサス河、又ハ裏海以外ニ及ホシ、小亞細亞一圓ニ
蔓延セリ。當時支那人ハ之ヲ匈奴ト稱セリ。紀元前二百六年我カ人皇第八代孝
元天皇ノ第九年乙未匈奴始メテ支那ノ西方ニ一帝國ヲ建設シ、凡ソ三百年ノ間ハ無事ニ
之ヲ治メシガ、既ニシテ支那ノ爲メニ襲ハレテ大敗シ、別レテ南北兩帝
國ト爲レリ。

南帝國ハ、其ノ後支那人ト合從シテ、北帝國人ヲ阿爾泰山間ノ地ヨリ逐
ヘリ。土耳其人ガ始メテ歐羅巴ニ侵入シタルハ、願フニ此地ヨリ逐ハレ
タルニ由リテナラン。而シテ彼ノ匈牙利人及ヒアザア人ノ祖先ハ則
チ彼レ等ナルベシ。

三世紀ノ初葉ニ、蒙古人及ヒダシアン人相共ニ南帝國人ヲ其地ヨ
リ逐フ。是レ土耳其人ガ西方移轉ノ第二回ナリ。此種族ハ、今各所ニ散在
セリ。裏海ノ東西ナルトルコマン、布加利ノユースベツクス、黒海ノ北、及
ヒ裏海ノ西ナルノガイ、高加索ナルバシアンズ、及ヒカミュックス、西伯

利ナル所謂「韃靼人」露西亞ナルバスクキルス、カシギルナルキルギス、小
亞細亞、及ヒ歐羅巴土耳其ナルユイラツクス、及ヒオスマンリスハ、皆此
種族ノ後裔ト知ルベシ。

南匈奴既ニ驅逐セラレテ後、若干ノ土耳其種族ハ、奴隸トセラレ、鑄鐵工
トシテ、又ハ武器製造人トシテ、阿爾泰山ニ使役セラレタリ。歐羅巴土耳
其人ハ、今現ニミヅカラ稱シテ此奴隸ノ子孫ナリト云ヘリ。サテ此奴隸
ハ、武器製造人タルヨリ、漸ク其用法ニ熟達シ、其中ノ英雄ハ、ルテセマナ
ルモノ、其他ノ奴隸ヲ率キテ、干戈ニ訴ヘ、壓制者ノ羈絆ヲ脱シ、彼レ等ヲ
驅逐シテ、阿爾泰山間ニ陣營ヲ建設セリ。

此土耳其人ガ國土維持ノ策タル、其牧畜的生活ヲ利用シテ滅亡ノ災ヲ
避クルニ在リ。バルテセマガ後嗣ノ世ニ至リ、宰相ノ二人、彼レヲ諫メテ
曰ク、決シテ支那ヲ擊ツコ勿レ。又曰ク、土耳其人ノ數ハ、支那人ノ百分ノ
一ニモ當ラズ。然ルニ吾人ガ能ク國勢ヲ平均ヲ保チ、且ツ能ク其銳鋒ヲ

避クルヲ得ル所以ノモノハ、一定ノ住宅ヲ構ヘズシテ、戰鬪狩獵ノ際ニ各地ニ移轉スルニ由リテナリ。吾人若シ強キカ進テ征服スベシ。若シ弱キカ退テ隠ルベシ。是レ吾人ニ取リテノ最良法ナリ。然ルニ若シ之ニ反シテ、一定ノ住處ヲ構ヘ、都城ノ中ニ籠居センカ。不幸ニシテ一敗地ニ塗ル、ハ忽チ滅亡セザルヲ得ザルベシ。彼ノ佛教徒ハ忍辱屈辱遁世ヲ説ケドモ、斯ノ如キハ、英雄ノ宗教トスベキニアラザルナリ。土耳其人種ノ真正ノ精神ハ茲ニ在リ。土廷ノ漂泊的性質モ亦茲ニ存スルナリ。主耳其人ガ未ダ回教ヲ奉セザリシ以前ニ奉シタル宗教ハ、ゾロアスター波所ノ教義ト、已レ等ガ祖先ノ口碑トヲ混合シタル者ナリキ。當時既ニ僧侶アリテ、空氣、火、水、土ヲ拜スルニ粗野ナル讚美歌ヲ詠ヒ、又上帝ニ犧牲ヲ供セリ。又其法律ハ不文律ニシテ、梗槩ヨリ言ヘバ、盜賊ハ十倍ノ賠償ヲ要シ、姦淫、叛逆、謀殺ハ之ヲ死刑ニ處シ、怯懦ハ如何ニ嚴罰ニ處スル

モ可ナリトシタリ。前既ニ述ベシ如ク、ヘルテセマ始メテ土耳其帝國ヲ建テシガ、其子孫ノ世ニ至リ、漸ク膨脹シテ遂ニ三國ニ分カレタリ。而シテ其一ハ阿爾泰山ニ在リテ、其周圍ヲ管轄セリ。吾人ガ今叙述セントスル所ノモノ是レナリ。抑モタラニア人及ヒアリアン人ガ其々種族ヲ伴フテ大移轉ヲ爲スヤ、サイシア、及ヒ高加索ノ間ニ雜居セリ。プリニノ吾人ニ傳フル所ニ據ルニ、ダイオスキュリアス府ニ於テハ、少ナクトモ百三十種以上ノ國語ヲ話スト云フ。波斯王コスロース六二八年ニ崩セリノ時、コスロース二世ハ羅馬東帝國ハ、土耳其人ト相聯合シテ共同ノ敵波斯ヲ防グリ、左レド東帝國ノ人ハ決シテ土耳其人ヲ同等視シタリシニ非ズ。只一時有用ナル兵器トシテ使用シタリシノミ。十七世紀ノ中葉ニ有名ナル預言者マホメット世ニ出テ、干戈ニ由リテ宗教ヲ弘布シ、其ノ子孫相繼テ、又其ノ主義ヲ襲用シタリシカバ、其ノ弘

布ノ速ナルヲ水ノ下キニ就クカ如ク、東西南北改宗スルモノ頗ル多シ。殊ニ其ノ改宗者ノ大半ハ土耳其種族ナリキ。

マホメットハ、五百七十一年我カ欽明天皇ノ第三十一年庚寅ニ以テ、亞利伯ノメツカニ生ル。少時貿易ノ爲メニ叙利亞ニ旅シ、猶太教及ヒ基督教ニ就テ稍々見ル所アリ。二教ヲ斟酌シテ別ニ一門ヲ建テ、之ヲ回教ト名ケ、可蘭ト云ヘル書ヲ著ハセテ之ヲ經文ト爲シタリ。四十歳ニ至リテ始メテ説教ニ從事シ、ミツカラ上帝ノ遣ハセル預言者ナリト稱ヘ、偶像教ヲ撲滅シ、アラハムノ宗教ヲ再興スルガ爲メニ此ノ世ニ來レルモノナリト述ベタリ。然ルニ、メツカノ人民ハ、彼レヲ信セズ、數年ノ間彼レヲ害シメシガ、六百三十二年我カ推古天皇ノ第三十年壬午、彼レ辛クシテ、メソナニ逃ガル。コナ得タリ。此ノ逃亡ノ日ヲ「ヒシラ」ト名ク、「ヒシラ」トハ、避難ノ義ナリ。回教國ニ於テハ、同日ヲ以テ紀元第一日ト爲スナリ。マホメットノメソナニ到ルヤ、稀世ノ預言者トシテ頗ル勢力アリ。刀

劍ヲ以テ弘教ノ方便ト爲シテ漸ク不信ノ徒ヲ壓服シ、メツカニ在ル偶像ヲ毀テ、遂ニ回教國ヲ創立シテ、ミツカラ其ノ王位ニ昇レリ。彼レノ教旨ニ云ク「凡テ回教ヲ信奉スルモノハ、死後樂園ニ行クヲ得ベク、之ヲ信奉セザルモノハ、地獄ニ墜ツベシト。又信徒ニ向テ飲酒ヲ禁シ、隨意ニ多妻ヲ娶ルヘシト命セリ。但シ四人ヲ過クベカラズト爲シ、且ツ未信徒ト婚姻ヲ結フヲ禁セリ。

マホメットハ、六百三十二年我カ舒明天皇ノ第四年壬辰ニ死セリ。其ノ後嗣、即チ累代ノ回教王亦政治上ニ於テハ國王トシテ服從セラレ、宗教上ニ於テハ法王トシテ尊崇セラレタリ。而シテ教祖マホメットノ教ヲ以テ唯一ノ遺訓ト爲シテ漸ク版圖ノ擴張ヲ謀リ、西方ニ於テハ、北部亞非利加、西班牙ヲ征服シ、又東方ニ於テハ、叙利亞、波斯及ヒ中央亞細亞ヲ征服セ

十世紀ノ末葉ニ、土耳其種族最強酋長ノ一人ガズィノマムードナルモ

ノ始メテ回教王ノ位ニ即キ、波斯ノ東部ニ住シテ、遙カニ版圖ヲ印度ニ
據ゲタリ。

ガズニノマムードハ、九百六十七年我カ村上天皇ノ廣保三年丙寅生レ、一千三十年我カ後一條天皇ノ長元年死ス。有名ナル支丹ノ一人ニシテ、土耳其人ト波斯人トノ間ニ生マ
レタルモノナリ。其ノ版圖、布加拉、加布爾、波斯ニ跨レル一大帝國ヲ建
設シ、十二マヒ或ハ云ク十六マヒ築若及ヒ温都斯坦ヲ襲ヘリ。

是ノ時ニ當リテ、アラビヤニテスノ土耳其朝ト、アクシマイズノ土耳其朝
トハ、パレスティン、叙利亞、埃及ニ君臨シ、セルロヤツク大種族ハ、其ノ牧
畜勇者ト共ニ「チヌルコマン」ト稱シテ布加拉ノ諸地ニ住セリ。而シテ是
レ等ノ諸種族ハ、皆強大ニシテ戰闘ヲ好メルガ故ニ、ガズニノマムード
王及ヒ其ノ子マソード王并ニ其ノ麾下ノ騎兵ト雌雄ヲ争ヒ、遂ニ大ニ
之ヲ敗レリ。

セルロヤツク種族既ニ全捷ノ功ヲ奏シケレバ、直ニ王ヲ選ハント欲シ

テ大集會ヲ開ク。然ルニ會員各々我カ好ム所ヲ選ハント欲スルガ故ニ、
議論久シク決スルコト能ハズ。是ニ於テ更ニ一策ヲ按出シ、若干ノ弓ニ各
々候補者ノ名ヲ記シテ之ヲ一束ト爲シ、諸種ノ嫌疑ヲ避ケンガ爲メニ、
一人ノ小兒ヲシテ之ヲ引カシメタリ。

サテ此ノ抽籤ノ結果トシテ當選シタルモノハ誰ナリヤト云フニ、トグ
ラル、ベグト云ヘル人ナリキ。トグラル、ベグハ、ミツナエルノ子、セルロヤ
ツクノ孫ニシテ、チヌラ帝大アラサイブ三十四世ノ苗裔ナリ。祖父セル
ルヤツク曾テサマルカンド附近ニ陣スルニ當リテ回教ヲ奉シ、トグ
ラル亦熱心ナル信徒トシテ名ヲ知ラル。

トグラル崩シテ嗣子ナカリシカバ、皇姪アルプ、アルスラン、帝位ヲ繼グ。
アルプ、アルスラン崩シテ、其ノ子マレツク、シヤイ嗣ギ、マレツク、シヤイ
崩シテ、四皇子及ヒ皇弟、帝位ヲ争ヒ、遂ニ分カレテ、ケルマン、シール、ア、及
ヒカト、ムノ三朝ト爲ル。實ニ一千零七十四年我カ白河天皇ノ承保元年甲寅ノ事ナリ。左レド

茲ニハ、只ローマ朝ノ事ヲ叙述スベシ。
ローマ朝ハ、小亞細亞ヲ領シ、アルプ、アスタノ帝ノ一族ソリマン支丹之
ガ君主ヨリ、ソリマンハ、不世出ノ英雄ニシテ、巧ニ同族ノ心ヲ収攬シ、相
聯合シテ希臘襲撃ノ手段ヲ運テセリ。

土耳其軍ガ始メテ歐羅巴ニ上陸シタルハ、ソリマン帝ノ治世ニ在リ。今
其ノ次第ヲ聞クニ左ノ如シ。

當時羅馬東帝國ノ歐羅巴候補者ト、亞細亞候補者トヲ代表スルブリエン
ニアス、ボトニエテス、ト君士但丁堡ニ争ヒ、ソリマンノ援ヲ求ムルニ至
リシガ、ソリマン其ノ請ニ應ジテ、ボトニエテスヲ援ケ、十字ノ旗ハ、半月
ノ旗ト、相聯合シテ戦争ニ從事セリ。ボトニエテス東帝ノ位ニ即クニ及
ヒ、ソリマン帝ヲボスフナラス海峽ノ上ナルスラリニ招請シテ、帝ノ
禮ヲ以テ之ヲ饗シ、而シテソリマンハ、東帝國軍援助ノ爲メ、二千ノ土耳
其軍ヲ送レリ。

小亞細亞ニ於ケル土耳其ノ勢力逐日強キヲ加ヘ、回教ノ弘布亦逐年多
キヲ加ヘケレハ、歐洲基督教國ハ大ニ驚キテ、彼ノ有名ナル十字軍ヲ起
シ、歐洲各國ヨリ屈竟ナル武人ノ潮ノ如クニ涌キ來リ、テ、ボスフナラス
海峽ヲ渡レルモノ勝ゲテ數フベカラス、而シテ其ノ大半ハ、生命ヲ鴻毛
ノ輕キニ比セル死士ナリシカバ、君士但丁堡ニ住スル希臘人ハ其ノ軍
容ノ盛ナルニ恐レテ周章狼狽シ、竊カニ土耳其人ト謀テ通シテ、十字軍
人ヲ陷レタリ、カクテ十字軍人ノ生キテ歸ルモノハ僅々少數ニ過ギズ
シテ、他ハ悉ク死亡シタリキ。

其ノ後、希臘帝國東帝ニ内乱起リ、且ツ外國ノ侵襲ヲ蒙ルニ當リテ、小亞
細亞ニ於ケル土耳其帝國ハ益々隆盛ニ赴キシガ、十三世ノ初葉ニ、成吉
斯汗ガ韃靼ノ大軍ヲ率ヰテ、四隣ヲ蠶食シ、支那、印度、露西亞、匈牙利、ブル
ガリア、及ヒ小亞細亞等悉ク風靡スルニ及ヒテ、ローマナルセルロヤツ
ク朝モ亦之ガ爲メニ征服セラレタリ。左レド全ク滅亡スルニハ至ラザ

リキ、
 既ニシテ國力漸ク舊時ニ復シ、屢々希臘ト干戈ヲ交エシガ、イコニアム
 支丹アラヂンノ時ニ至リテ、全ク舊時ノ勢力ヲ恢復セリ。
 一千二百九十九年我カ後伏見天皇ノ正安元年巳亥アラヂン帝崩シ、太子オスマン嗣グ。オスマ
 ン帝ハ、最モ軍略ニ長シタル英雄ニシテ、歐羅巴土耳其ノ創建者ナリ。土
 耳其帝國チ一ニオスマン帝國ト稱スルハ、此ノ帝ノ名ニ取レルナリ。オ
 スマン帝ハ、昔ニ武人ナリシノミニ止マラズ、亦政治家トシテ、頗ル才幹
 ナ顯ハセリ。今其ノ一例ヲ舉レバ、敵地ヲ侵略スル毎ニ、直ニ乱後ノ整理
 ニ着手シ、善政ヲ施シテ民心ヲ悅服セシムルガ如キ是レナリ。帝又、到ル
 處ニ義勇兵ヲ募リテ、之ヲ數軍ニ編制シ、未信徒、廢德ノ神聖軍ヲ起スト
 稱シテ、士卒ノ熱心ヲ喚起セリ。又正兵ヲ編制シテ、各都府ヲ衛ラシメ、忽
 ナニコマチア、及ヒヒシニアノ殆ント全部ヲ領有セリ。太子オルチヤン、
 父帝ヲ助ケテ各地ヲ征服シ、ブルサヲ陷レテ、其ノ老年ヲ慰メヨリ、ブル

サハ、土耳其帝國亞細亞部ノ首府ト爲リタルモノナリ。
 オスマン帝、基督教地ヲ征服スル毎ニ、其ノ人民ニ信教ノ自由ヲ許シ、崩
 スルニ臨ミテ遺命シテ、永ク此ノ自由ヲ守ラシメタリ。其ノ遺命ニ云ク。
 噫々我カ子ヨ、朕今死ニ瀕セリ。然レトモ後嗣卿ノ如キアリ。朕マタ何
 ナカ憾ミン。我カ子ヨ、朕死スルノ後ハ、須ラク正道ヲ守リ、善良ヲ愛シ、
 恩惠ヲ施スベシ。普チク一般ノ臣民ヲ保護シテ、偏頗アルコトナク、以テ
 教祖ノ遺法ヲ弘布セヨ。是レ則チ天命ヲ受ケテ國土ニ君臨スルモノ
 ノ本務ナリ。
 一千三百二十六年我カ後醍醐天皇ノ嘉慶元年丙寅オスマン帝崩ス。帝能ク人心ヲ収攬シタル
 ナリテ、崩後ト雖モ臣民ハ其ノ恩威ヲ追懷シテ、敢テ法ニ背クモノナシ。
 朝廷ニテハ帝ガ戰場ニ帶ビタル刀劍ヲ尊崇シテ、神器ト爲シ、子々孫々
 永ク即位ノ式ニ佩用スルコト爲セリ。
 (オスマン帝ノ遺命ハ、土耳其人最モ之ヲ崇敬シ、之ヲ稱シテ「帝約聖書」

「ロヤル、テスタメント」ト云ヘリ。

是レヨリ先キ、一千三百年我カ後伏見天皇ニ、イコニアム支丹ノ殂スルヤ、オス

マン其ノ號ヲ繼ギテ支丹ト稱シ、子々孫々相繼ギテ支丹ト稱セリ。是レ

則チ今ノ歐羅巴土耳其帝、即チ歐羅巴土耳其支丹ノ濫觴ナリ。

オスマン帝崩シテ、太子オルチャン嗣ク。オルチャン位ニ即クヤ、父帝ノ

兵制ヲ用キテ益々之ニ改良ヲ加ヘ、正兵ヲ増シ、攻撃隊ヲ編制シ、其ノ版

圖ヲ擴メテ、ボスフナラス海峡ノ兩岸ニ至レリ。又副王ウサフアノ官

ヲ設ケテ、各州ヲ鎮撫セシメ、學術宗教ヲ獎勵シ、始メテ海軍ヲ編制シ、三

百艘ノ軍艦ヲスミルナ灣ニ設ケタリ。是レ將來其ノ海軍ノ強盛ニ至リ

タル濫觴ナリ。

是ノ時ニ當リテ、希臘帝國ニ於テハ内亂絶ユル間ナク、土耳其ヲシテ其

ノ聲ヲ窺ハシムルニ至レリ。此ノ時ノ希臘帝チアンドロニコス、パレオ

ロガスト稱シケルガ、皇孫少アンドロニコス、帝位ヲ奪ハント欲シテ叛

旗ヲ舉ゲ、皇孫ノ親友ニシテ議政員タルジョアンチス、カンタキユゼナ

ス亦皇孫ヲ援ケシガ、必勝ノ期シ難キヲ憂ヒテ、愚カニモ我カ親友タル

アムール、ペーニ援テ乞フ。アムール、ペーハ、アイデンニ住スル土耳其ノ

皇族ナリ。是ニ於テアムール、ペー陸軍二万八千人、艦隊三百八十艘ヲ率

ヰテ、ジョアンチス、カンタキユゼナスニ應援シ、歐羅巴ニ侵入シテ、ヘブ

ラスヨリデモナカニ進メリ。デモナカハ、當時ブルガリア人之ヲ圍ミ、ア

イレシ皇后之ヲ守レルモノナリ。アムール、ペーノデモナカニ達スルヤ、

直ニブルガリアノ軍ヲ破リテ之ヲ逐ヘリ。アムール時ニ、郭外ニ陣ス。皇

后ハ使ヲ遣ハシテ慰勸ニ其ノ應援、逐敵ノ功ヲ謝シ、丁寧ナル禮物ヲ贈

リテ、且ツ彼レヲ招請セリ。アムール以爲ラシク、父帝ノ在ラザルニ、皇后ヲ

訪問スルハ禮法ノ許サハル所ナリト。是ヲ以テ時正サニ嚴寒ニ際シ、陣

營ノ寒冷堪エ難キニモ拘ハラズ、終ニ辞シテ陣中ニ宿セリ。

アムール其ノ後二千ノ精兵ヲ率ヰテ塞爾維ニ進ム。然レドモ寒氣酷烈

ナルヲ以テ引キ歸レリ。
世ニ傳フル所ニ據ルニ、アムールハ更ニ其ノ友カンタキユゼナスヲ援
ケテ希臘國內ニ進攻セントセシニ、希臘帝彼レニ多額ノ金ヲ贈リタレ
バ、アムール俄カニ心ヲ變シテ引キ退キタリト云フ。左レド又一説ニ據
ルニ、コハ全ク無根ノ虛説ナリ。アムールハ、羅甸人ノ爲メニ我カ領内ヲ
侵サレタルヲ以テ急ニ歸國シタルナリト。
カンタキユゼナス今ハアムールノ頼ミ難キヲ知リテ、更ニ一層有力ナ
ル應援ヲ得ント欲シ、土耳其帝オルチャンニ援テ乞フ。但シアムールノ
紹介ニ由リテナリ。是ニ於テオルチャンハ、兵ヲ出シテ、カンタキユゼナ
スト同盟ヲ結ビ、且ツカンタキユゼナスノ女セオドラヲ娶リテ皇后ト
爲シ、斯クテ益々好ミテ固ウセリ。左レド此ノ盟約、此ノ姻親ノ存スルア
ルニモ拘ハラズ、オルチャン帝ハ其ノ後君士但丁堡ナル熱那人ニ左祖
ヤテ舅氏ニ敵セリ。後又媾和成リテ、土軍ハ歐羅巴ヨリ退ケリ。

既ニシテオルチャン帝位ヲ愛子ソリマンニ讓ル。ソリマン帝位ニ即ク
ニ及ヒテ、更ニ希臘帝ト親密ナル盟約ヲ結ビ、軍ヲ送リテ、スレースヨリ
上陸セシメタリ。爾來土耳其ノ軍、常ニ歐羅巴ニ翩翩タリ。
ソリマン帝馬ヨリ落チテ崩シケレバ、上皇オルチャンノ愁傷一ト方ナラズ、落
膽ノ極終ニ亦崩セリ。實ニ一千三百六十年我カ後村上天皇ノ正平十五年庚子ナリ。
ソリマン帝ノ弟アミユラス嗣ク。資性剛勇ニシテ、兄帝ニ讓ラス。スレ
ースノ全部ヲ征服シテ、アドリアノールニ其ノ首府ヲ定メタリ。土耳其
ガ歐洲ニ領地ヲ有シタルハ之ヲ嚆矢ト爲ス。
アミユラス帝又進ンテ、バルカンノ北方ヲ征服シ、多瑙河ヨリ、アドリア
チツシ海ニ至ル迄ノ地ヲ畧シ、塞爾維人、ボスニア人、ブルガリア人、アル
バニア人ト、コルソヴァニ激戰シテ、悉ク之ヲ服從セシメタリ。
アミユラス帝以下累代ノ土帝亦皆干戈ニ由リテ、小亞細亞ヨリ歐羅巴
ニ其ノ版圖ヲ擴張シ、馬塞頓、スレース、希臘等ヲ領有シタリシカバ、東帝

國ノ所領ハ漸ク中心ナル君士但丁堡ニ縮小シ其ノ周圍ハ凡テ土耳其領ヲ以テ環繞セラルヽニ至レリ。

コルノヴァ及ヒニコホリスノ兩役ニ塞爾維、ブルガリア共ニ土耳其コ服從シケレバ君士但丁堡ノ危キヲハ累卵モ當ナラズ其ノ滅亡ノ期旦夕ニ迫リシガ偶々韃靼ノ主帖木兒成吉斯汗ノ遺志ヲ繼ギテ四方ヲ征服シタリシカバ土耳其モ亦其ノ禍ヲ防グニ汲々トシテ他ヲ顧ミルコ暇アラズ君士但丁堡暫ラク吞噬ノ災ヲ免カルヽヲ得タリ。

是ノ時ニ當リテ韃靼軍破竹ノ勢ヲ以テ小亞細亞ニ侵入ス土耳其帝ハウヤゼット全軍四十万人ヲ集メテ之ヲ禦ギ兩軍アンゴラニ戰フ土耳其軍大ニ敗ル帖木兒世界ヲ併呑スルノ大志アリ故ヲ以テ直ニボスヲヲラス海峽ヲ渡リテ歐羅巴ニ侵入スルヲ爲サズ先ツ埃及并ニ其ノ他亞非利加ノ諸地ヲ征服シシヲラタルノ海峽ヲ渡リテ歐洲ニ入り大陸全地ヲ征服シテ然後露西亞ヲ經テ波斯ニ歸ラント計レリ其ノ設

計ノ大ナル後世ノ拿破崙ト雖モ遠ク之ニ及バサルナリ然ルニ天之ニ年ヲ假サズ其支那ヲ征服スルニ際シテ俄ニ殞シケレバ彼レノ大望半途ニ功去空ウシ其ノ征服シタル諸國モ亦再ヒ之ニ叛ケリ。土耳其人ハ依然トシテ歐洲ニ其ノ版圖ヲ擴クルヲニ從事セリ然レドモ未タ充分ニ其ノ素志ヲ逞フスルヲ能ハズ東帝國ハ尙君士但丁堡ニ餘焰ヲ保テリ。

第四章 土耳其人希臘ヲ併呑ス

本編第二章ニ於テ既ニ叙述シタル如ク紀元前百四十六年希臘ハ羅馬ノ爲メニ全ク吞滅セラレ爾來凡ソ四百餘年ノ間常ニ羅馬ノ屬國タリキ然レドモ政治上ニ於テ隸屬者ノ地位ニ在ルニモ拘ハラズ文學技藝上ニ於テハ依然トシテ本國ノ上ニ位シ苟クモ貴顯紳士ノ少年トシテ雅典ニ遊バザルモノハ其ノ社會ニ齒セラレザルノ風情アリキ彼ノ有

名ナル雄辯家シセロ及ヒ其ノ他ノ人々ノ如キ皆雅典ニ行キテ高等ノ教育ヲ受ケタルモノナリ。左レハ希臘ガ世界ノ文明ニ間接ノ勢力ヲ有スルヤ頗ル大ナリキ。只惜ムラシハ他國ノ名士ヲ養成シタルノミニヨシテ、自國ニ豪傑ヲ出スル能ハサリシナリ。

紀元後三百三十年コンスタンチン大帝ガ羅馬帝ノ位ニ即クヤ、都ヲ羅馬ヨリ君士但丁堡ニ遷シ、希臘ヲシテ本國タルノ思ヒヲ爲サシメタリ。
(コンスタンチン帝ガ都ヲ定メタルニ由リテ之ヲ君士但丁堡ト名ケタルナリ。)

然レトモ此ノ遷都アリテヨリ、羅馬帝國漸ク二分シ、一ヲ東帝國(又希臘帝國)ト名ケ、又一ヲ西帝國ト名ク、東帝國ハ君士但丁堡ヲ以テ京城ト爲シ、西帝國ハ羅馬ヲ以テ京城ト爲ス。

東帝國ハアカイア屬地即チ希臘ヲ包含セリ。而シテコンスタンチン大帝ミヅカラ基督教徒ト爲リタルヲ以テ、漸ク希臘人ヲ風化シテ亦同教

徒ト爲ラシメ、歐洲諸國モ亦漸ク之ニ感染セリ。

既ニシテ、獨逸種族即チゴツス、オストロゴツス、ヴヰンゴツス、ヴァンダルス、ハンス等諸種族ノ勢漸ク強大トナリ、屢々羅馬ニ寇シ、而シテ羅馬兩分ノ後、未タ久シカラズシテ、ヴヰンゴツス王アラリック大ニ西帝オノリアスノ軍ヲ破リ、羅馬ノ京城ヲ圍ミテ之レヲ陷レタリ。實ニ四百十年我カ反正天皇ノ第五年度成ナリ。

左レド此ノ時ニハ、西帝國未タ全ク滅亡セサリシガ、幾モナクシテ、蠻族王ノ一人ナルオドアセル遂ニ全ク之ヲ亡セリ。實ニ四百七十六年我カ雄年丙辰ナリ。

是ノ時ニ當リテ、東帝國モ亦是レ等ノ蠻族ト常ニ干戈ヲ交エシカドモ、幸ニシテ未ダ滅亡スルニ至ラズ。六世紀ノ頃シヤスタニアン帝ノ時、ヴァンダルス及ヒ其ノ他ノ諸種族亦屢々來リテ君士但丁堡ヲ侵ス。然レドモ將軍ベリサリアスノ盡力ニ由リテ之ヲ防禦スルヲ得タリ。不仁ナ

ル東帝ハ、毫モ將軍ヲ徳トセズ之ヲ冷遇シケレバ、將軍ハ老年ニ及ヒテ乞兒ト爲リ、殊ニ盲目ト爲リテ困難ヲ極メタリ、六世紀ヨリ十一世紀ニ至ル迄、累代ノ諸帝常ニ君士但丁堡ニ都セリ。此ノ際内外ノ戦争絶ユルコトナク、其ノ慘狀筆紙ニ盡シ難シ。希臘國、希臘人、及ヒ希臘ノ紀念物ナド皆甚シキ損害ヲ被ムレリ。只其國內ノ各地ニ基督教會ノ設ケアルヲ以テ、稍々文學上ノ遺物ヲ保存シ、且ツ文學ヲシテ全ク地ニ落チザラシムルコトヲ得タリ。其ノ頃亞刺伯人即チサテセン人ハ、教祖マホメットノ嚮導ニ由リテ、漸ク亞細亞ニ勢力ヲ振ヒ、亞細亞、及ヒ亞非利加ニ散在セル東帝國ノ所領ヲ掠奪シ、殊ニ基督ノ降誕地ニシテ、聖墓所在ノ地タル耶路撒冷ヲ攻畧セシカバ、基督教國ノ君民大ニ怒リテ師ヲ起セリ。之ヲ十字軍ト爲ス。十字軍ノ結果タル、東帝國、即チ希臘帝國ニ大ナル損害ヲ被ラシメタリ。而シテ十字軍同盟君主ノ一人ナルフランドルス伯ポールドヅヰンハ、

一千二百九十四年、我カ後宇多天皇ノ永仁二年甲午以テ、君士但丁堡ヲ陥レ、自立シテ皇帝ト爲レリ。爾來東帝國內争亂止ム時ナカリキ、彼ノ土耳其人ガ漸ク吞噬ノ慾ヲ逞ウシタルハ正サニ此ノ時ニ在ルナリ。前章既ニ叙述シタリシ如ク、初メ英國ハ、土耳其帝オルチヤンノ援ヲ假リテ内亂ヲ鎮定シタリシヨリ、土耳其帝ハ始メテ歐羅巴征伐ノ根據地ヲ得、其ノ子ソリマン帝亦英王ト親密ナル盟約ヲ結ビテ、土耳其ノ軍旗ヲ永ク歐羅巴ニ建テシメ、アミユラス帝ニ及ヒテ、スレーヌ全州ヲ征服シテ、歐羅巴部ノ都チアドリアノールニ定メ、爾來累代ノ諸帝漸ク希臘ヲ蠶食シタリ。土軍漸クスレーヌノ地方ヲ蠶食スルニ從テ、東帝國ノ軍ハ、漸ク京城ノ方ニ退キ、其ノ版圖次第ニ縮小セリ。然レドモ猶飽ク迄モ土軍ノ激シキ攻撃ニ抵抗シ、京城ヲ維持シタリキ。

一千四百五十一年我カ實德三年辛未即チ足利八代將軍義政ノ時モハムド二世位ニ即クニ及ビテ東帝國ヲ全ク併呑セント欲セリ。是レヨリ先キ皇祖父ハフヤセツト一世ホスフナラス海峽ノ東即チ今ノ亞細亞土耳其ノ地ニ一箇ノ堅城ヲ築キシガ今ヤモハムド二世ハ其ノ對岸即チ今ノ歐羅巴土耳其ノ地ニ更ニ一層堅固ナル城ヲ築キテ以テ君士但丁堡ヲ攻撃スルノ根據地ト爲サント欲ス。是ニ於テ翌春ヲ以テ一千人ノ煉瓦工ヲ君士但丁堡ヨリ凡ソ五哩ヲ距リタルアソマトント名クル地ニ召集シ以テ築城ニ從事セシム。希臘帝コンスタンチン十一世希臘帝トハ東帝チ云フ。以下做之。之ヲ聞キテ大ニ驚キ痛ク之ヲ争フ。モハムド二世ハ管ニ之ヲ聽カザルノミニ止マラス却テ希臘帝ニ向テ開戦ヲ宣告セリ。

（因コ云フ。初メ羅馬帝コンスタンチンコンスタンチン大帝ト云フ三百三十三年我カ仁德天皇ノ第二十年君士但丁堡府ヲ創設シ己レノ名ヲ取リテ之ニ與ヘタリシガ爾來凡ソ一千百年ノ星霜ヲ經過シ東羅馬國即チ希臘國ナルコンスタン

チン帝ノ時ニ至リテ國亡ビテ君士但丁堡ハ敵ノ爲メニ奪ハル。辭ヲ換ヘテ言ヘバ其ノ創建者モコンスタンチン帝ニシテ最後ノ君主モ亦コンスタンチン帝ナリシトハ偶合トハイ一奇事ニアラズヤ。モハムド二世ハ不世出ノ英雄ニシテ壓制ノ君主ナリ。兵馬ノ如キハ其ノ最モ長所コシテ敵ヲ攻ムルニ當リテハ殊ニ深謀遠慮ヲ旨トシ敢テ輕々シク兵ヲ用サズ。其ノ君士但丁堡府ヲ擊ツヤ豫メ大宰相及ヒ諸將諸建築師ヲ集メテ密ニ之ニ諮問シ同府ノ明細圖ヲ得テ之ヲ研究シ各處ニ砲臺ヲ築クニ當リテモ亦最モ注意ヲ嚴ニセリ。其ノ他百般ノ事悉ク目撃シテ然後之ヲ定メ毫モ僥倖ニ一任セズ。愈々同府ヲ圍ムニ臨ミテハ當時未ダ孰レニ於テモ用サザリシ所ノ大砲ヲ使用シアドリアノールニ其ノ鑄造所ヲ設ケテ重サ六百斤ノ石彈ヲ放ツベキモノヲ鑄造セリ。

史家ギツボンノ吾人ニ傳フル所ニ據ルニ東帝國征討ノ土軍ハ總數二

十五万八千人ニシテ、内六万人ハ騎兵、二万人ハ正歩兵、其ノ他ハ凡テ補助兵ナリシト云フ。此ノ外ニ、海軍ハ、船舶三百二十艘、内十八艘ハ軍艦ニシテ、其ノ他ハ、小軍艦、及ヒ運送船トス。

東帝國、即チ希臘帝國ノ方ニ於テモ、防禦ノ準備整頓セザルニアラズ。故ニ若シ其ノ人心ニシテ、一和シタランニハ、土軍如何ニ驍勇ナリト雖モ、容易ク亡ボサルベキニアラズ。然ルニ希臘人ノ流弊タル、常ニ不和、陰謀、猜忌ノ爲メニ惱マサレ、獲キニ此ノ三癖アルニ由リテ、羅馬人ノ爲メニ亡ボサレシガ、今ヤ又三者ハ其ノ勢ヲ逞フシ、終ニ希臘ノ呼吸ヲ絶チタルコソ痛マシケレ。サテコンスタンチン帝ハ、己レノ暗弱ト、臣民ノ陰謀トヲ悟リタルガ故ニ、他ニ援助ヲ仰ギテ以テ危難ヲ免カレント欲シ、進退維谷ノ末、希臘教信徒一同ニ羅馬教ニ屈服シテ、其ノ庇蔭ニ依ラントセリ。然レドモ諺ニ云ク「鍍金ハ剝ケ易ク、僞信ハ變シ易シト。屈服ノ極、漸ク失望ト憤怒トヲ生シ、未タ久シカラザルニ、熱那人ヲ憎ムノ念復タ土

耳其人ヲ憎ムノ念ニ滅セサルニ至レリ。是ヲ以テ曩キニ國家ノ滅亡ヲ防カント欲シテ企テタル計策却テ國家ノ滅亡ヲ早カラシメ、心ニ期シタル國外ノ援助ハ、適、國內ノ紛争ヲ招キ

マリ。土軍ノ方ニ於テハ、戰備既ニ整ヒケレバ、一千四百五十三年我カ後花園天皇ノ享徳二年癸酉四月六日ヲ以テ、軍ヲ進メテ君士但丁堡ノ郭外ニ到リ、先ツ勝利ヲ天ニ祈リ、サテ信號ヲ與ヘケレバ、砲兵一同ニ砲ヲ放ツニ、其ノ聲、百雷ノ一時ニ落ツル如ク、衆軍之ガ爲メニ聳セラレントス。初メ希臘人ハ、敵襲ヒ來ルト聞キ、勇往猛進シタリシガ、未ダ幾モ經ザルニ、勇氣忽チ阻喪シ、第二軍ノ進マントスルニ臨ミテ、第一軍ハ既ニ退却セントス。左レド中ニモ驍勇ナル人々ハ流石ニ尙止マリテ激戰シタリシガ、戰未ダ決セザルニ、日既ニ暮レヌ。爾來數日ノ間ハ戰爭相繼ギ互ニ勝敗アリ、然レドモ希臘軍中糧食漸ク

匿レク、士氣漸ク振ハズ。偶々希臘ノ大船五艘、マルモラ海上ヲ駛リ來ル
トノ報ニ接シケレバ、勇氣少シク加ハレリ。此ノ時ニ當リテ、土耳其ノ軍
艦三百艘ホスフナラス海峽ノ中ニ羅列シ、艦中皆兵士ノ充滿セザルナ
ク、腕ヲ撫シテ日夜戰鬥ヲ付望セルニ、城中ノ高塔ニ於テハ、飢餓ニ迫レ
ル希臘人ハ、領ヲ延ベテ日夜應援ノ來ルヲ待ツ。多少ノ勇氣アルモ心身
已ニ疲倦シテ、タトヒ敵來ルトモ、容易ク戰ヒ得ベクモアラザリキ。
俄然海戰起レリトノ報ハ、土軍ニ聞エヌ。而シテホスフナラス海峽一帯
ハ忽チ戰場ニ一變セリ。是レ外ナラズ。彼ノ五艘ノ希臘船ガ土耳其無數
ノ船艦ト戰ヲ交エタルナリ。希臘軍ハ固ヨリ少數ニシテ、土耳其ノ海軍
ト比較スベクモアラズ。然レトモ、船中悉ク死士ナルガ故ニ、奮闘激戰シ
テ、毫モ屈スル色ナク、數日ノ久シキニ、渉ルモ、勝敗更ニ決セザリシコソ
勇マレケレ。

土耳其帝モハムド二世以爲ラク、土艦若シゴールデン、ホルンニ入リク

ラノコハ、敵ノ弱點ヲ攻撃スルヲ得ベシト。但シ敵ノ戰線極メテ堅固ニ
シテ横斷シ難シ。而カモ横斷セザレハ以テゴールデン、ホルンニ入ルヘ
カラズ。且ツヤ之ヲ横斷センコハ必ズ同夜ニ於テセザルベカラズ。是ニ
於テ臂力屈強ノ士ヲ擇ビ、暗夜ニ乘ジテ、竊カニ八十餘艘ノ小船ヲ地上
ニ曳カシメ、山谷ヲ超エテ拂曉ニ、ゴールデン、ホルンニ達シケレバ、希臘
軍ハ之ヲ見テ大ニ驚キ、爲ス所ヲ知ラズ。モハムド二世又工兵ヲ集メテ
重キ大砲ヲ海岸ニ運搬セシメ、豫メ海中ニ備ヘタル舢舨中ニ之ヲ乗セテ
以テ臨時ノ砲臺ニ充テタリ。此ノ大砲非常ニ巨大ナルヲ以テ、一日僅ニ
七發ヲ放チ得ベキノミ、兎角スル間ニ五十三晝夜ヲ過シケレバ、希臘人
ハ益々飢餓ニ迫リテ、勇氣沮喪シ、殊ニ土耳其ノ浮砲臺ヲ見、戰備ノ嚴整
ニシテ侵スベカラザルヲ知リケレバ、失望ノ極、希臘帝ニ向テ城下ノ盟
ヲ爲サンヲ乞ヘリ。然レドモ勇猛ナル希臘帝ハ斷然此ノ要求ヲ拒絶
シ且ツ言ヘラク、「汝等努力セヨ。一死以テ國ニ報セヨ」ト。

既コシテ五月二十九日ニ至リ、浮砲臺ノ築造全ク竣功シケレバ、モハム
ド帝ハ士卒ニ勅シテ突進ノ準備ヲ整ヘシム。噫々憫ムベシ。威名世界ヲ
歴セシ大東帝國モ、今ハ其ノ滅亡眉目ノ間ニ迫レリ。
是ニ於テ土帝ハ明日ヲ期シテ、激シク敵城ヲ攻撃セントス。土軍ノ中コ、
シエロクヌ及ビイモームスト呼ベル二人ノ回教宣教師アリ。士卒ヲ鼓
舞スラク、明日ノ戰ニ名譽ノ死ヲ遂グルモノハ、必ラズ樂園ニ往キテ快
樂ヲ極ムルヲ得ベシ。生レテ功ヲ顯ハスモノハ、恩賞心ノ儘ナルベシ。
ト、已コシテ、太陽西山ニ没シケレバ、二十萬ノ土耳其兵ハ、一同ニ神ニ祈
リテ然後眠コ就ケリ。

翌日昧爽モハムド帝ミツカラ麾下ニ令シテ烈シク敵城ヲ砲撃セシム。
爆聲終日斷エズ。雷轟電激、凄マシナド言フヨリナシ。希臘帝コンスタン
チンハ、潔ク國家ノ爲メニ一命ヲ賭セント決シ、馬ヲ陣頭ニ立テ、指揮
セリ。如何セン士卒ノ間ニハ、往々猜忌ノ念ヲ挾ミ、稍々銳氣ヲ傷ヘルカ

如シ。勇將ギウスチコニアニハ、此有様ニ憤激シ、ミツカラ率先シテ士卒ヲ
獎勵シ、兵線中ノ最モ薄弱ナル點々ヲ擇ビテ、茲ニ剛勇ナル羅甸兵ヲ排
置セリ。

希臘帝コンスタンチンモ亦同シク、防禦ニ心身ヲ専ラシ、身ヲ以テ士
卒ニ先シテ、彼レ等ヲ鼓舞シテ奮闘ノ念ヲ起サシメ、斯クテ準備漸ク整
ヒ、命令能ク通シケレバ、帝ハ究竟ナル二三ノ將校ヲ隨ヘテ、セントソフ
キアノ大寺院ニ詣リ、戰時ノ漸ク接近スルヲ知リツ、モ悠々トシテ本
堂ニ入り、供奉ノ人々ト共ニ帽ヲ脱シテ十字架ノ前ニ立テリ。此ノ時ニ
當リテ、心ニ滅亡ノ明日ニ迫レルヲ知リシカバ、思ハズモ涕ヲ流シテ十
字架前ニ跪キ、朕ヲシテ潔ク死シテ、基督敎信仰ノ武士タルニ耻チザラ
シメヨト祈リ、最後ニ救世主ノ聖像ニ向テ恭シク拜謝シ、朕若シ思想ニ
於テ、或ハ事業ニ於テ、何人ヲカ害セシナラバ、願ハシクハ寬宥ノ恩典ヲ垂
レテレヨト祈レリ。

禮拜既ニ畢リ去リテ門戸ニ至リケルニ、茲ニハ乘馬ハ領ヲ延ベテ帝ノ
來ルヲ待テリ。帝乃チ兜ヲ戴キ、鞍ニ跨リテ再ビ城中ニ向フ。從順ナル士
卒ハ一同ニ敬拜ヲ施シテ王ニ從ヒ、戰場ニ出テ、一命ヲ抛ツノ覺悟ヲ爲
セリ。

既ニシテ太陽西天ニ没レ、ヤガテ深夜ト爲リシカバ、基督教信仰ノ武士
等ハ、星天ノ下ニ座シツ、萬感禁ズル能ハズ。或ハ老母ヲ懷ヒ、又ハ妻子
姉妹ヲ想テ、哀別離苦ノ情轉々切ナリ。斯クテ死期ノ次第ニ切迫スルヲ
思考シツ、眠ニ就キシガ、コンスタンチン帝ハ猶寐スルヲ能ハズ。高塔

ノ上ヨリ、回教陣中夜陰ノ狀ヲ熟視シツ、時刻ヲ遷シケリ。
驪テ東天漸ク白ミゲレハ、兵士ハ回教徒ト死生ヲ決スヘキノ準備ニ着
手シ、帝ハ彼レ等ニ向ツテ出陣ヲ命セリ。兎角スル間ニ、一天ノ衆星、光輝
ヲ失ヒテ青白色ニ變シ、驍勇ナル士卒ハ早ヤ歩武ヲ揃ヘテ出陣セリ。俄
然吶喊ノ聲ハ雷霆ノ如クニ起リヌ、鏗鏘タル武器ノ響、轟々タル大砲ノ

音、將ヲ嗽々タル號令ノ聲、相混シテ、其ノ喧シキヲ宛ナガラ、人耳ヲ聳セ
シム。是レナン、回教軍ガ海ニ陸ニ、四周ヨリ激シク希臘軍ニ向テ攻撃シ
來ルニテアリキ。

回教軍ハ潮ノ如クニ涌キ來リシガ、希臘軍モ固ヨリ死ヲ決シテ防戦ス
ルヲナレバ、少數ト雖モ、容易ニ當リ難ク、見ル々々回教軍ハ死人ノ山ヲ
爲シテ城壕ニ充滿シ、壕水之カ爲メニ流レヌ。偶々希臘軍少シク疲弊ノ
色ヲ呈スレバ、コンスタンチン帝親カラ馬ヲ進メテ行間ニ來リ身ヲ以
テ士卒ニ先ンシ、戦死ノ決心ヲ示ス。帝ノ到ル處氣勢ヲ恢復セザルハナ
シ。

血戰既ニ二時間ニ涉リ、而カモ希臘人及ヒ羅甸人ハ、剛勇ニモ踏ミ止マ
リテ一步モ退カズ。回教軍モテアグミテ暫ラシ休息セリ。此ノ瞬時ニ在
リテハ、勝利ハ殆ント基督教軍ノ方ニ在ルカ如クナリキ。
適々烟ヲ吐キ、砂ヲ飛シ、鯨波ヲ揚ケ、喇叭ヲ鳴ラシテ、セント、ローマナス

ノ大門ニ攻メ來ルモノアリ。希臘軍之ヲ熟視スルニ、勇猛ナルセルヲヤ
キアン支丹ノ一隊ナリキ。支丹ハ手ニ鐵笏ヲ握リ、シヤニザリノ勇兵
一万人ヲ從ヘテ、一直線ニ大虧隙ヲ指シテ進メリ。
此ノ一隊漸ク希臘軍ニ接近スルヤ、大喝一聲シテ「アラ、ア、ハルト」ト叫
ビ、遂ニ大虧隙ニ突入セリ。希臘帝ハ硝烟馬塵ノ間ニ、諸軍ノ前鋒ニ立チ
テ必死ノ勇ヲ奮ヘリ。時ニギユニスナニアニハ、既ニ重傷ヲ被リテ後陣
ニ退キタリ。

此ノ戰爭ノ激烈ナルハ、殆ント古今無双ト稱シテ可ナリ。而シテ土軍ハ
希臘軍ト互ニ相死戰シ、眼中血ヲ注ギタル將校ガ士卒ヲ指揮スル聲、敵
味方相絶叫スル聲又ハ呻吟ノ聲ハ、相混合シテ喧騒言フベカラズ。希臘
軍ハ固ヨリ少數ナルガ上ニ、數回ノ戰ニ疲倦困弊シタリト雖モ、猶毅然
トシテ固ク其ノ位置ヲ保チテ毫モ屈撓ノ色ヲ顯ハサズ。少遷アリテ、土
軍鯨波ノ聲先ツ正面ニ聞エ、次テ四面ニ聞エケレバ、希臘帝コンスタン

チンハ之ヲ聞キテ、万事既ニ畢レルヲ知り、左右ヲ顧ミテ叫ブラシ。誰レ
ツアル、來リテ朕ガ生命ヲ奪ヘト。斯クテ叫フコト數度ニ及ビケレド、何
人モ敢テ累代ノ主君ヲ弑セントスルモノナカリシカバ、今ハ是レ迄ナ
リト心ヲ決シ、群ガル敵ノ中ニ入りテ、死ニ物狂ヒニ斬リ廻ハリツ、遂
ニ數ヶ處ノ重傷ヲ負ヒテ、亂軍ノ中ニ崩シケル。詩人帝ト其ノ麾下諸將
トノ事ヲ詠ヒテ曰ク。

Go, stranger, and in Lacedamon tell

That here obedient to her laws we fell.

斯クテ東帝國ハ脆クモ亡滅シタリケリ。

是ニ於テ支丹ハ直ニセント、ソフキアノ寺院ニ進ミ、燭ヲ点シテ内ニ入
リ、副王、パシヤ、護衛兵等之ニ從ヘリ。支丹、從者ノ一人ニ命シテ熱心ナル
基督教徒數名ヲ召喚セシメ、之ニ迫リテ回教ニ改宗セシメ、ミヅカラ祭
壇ニ昇リテ回教風ノ祈禱ニ着手セリ。噫々昨日迄基督教ノ寺院タリシ

モノ今ハ變シテ回教ノ寺院ト爲レリ。時勢ノ變遷亦奇ナラズヤ。
祈禱畢ルヤ、支丹ハ百方手術ヲ盡シテ希臘帝コンスタンチンノ死屍ヲ
搜索シ、其ノ首ヲ斬リテ、之ヲアウガスタンノ地ニ送り、同處ニ在ルシヤ
スタニコアン帝ノ銅像ヲ載セタル銅馬ノ兩足ノ間ニ安置シ、其ノ後又此
ノ首ニ香油ヲ灌ギテ、亞細亞土耳其ノ各都府ヲ渡セリ。
爾來希臘ハ全ク土耳其ノ領地ト爲レリ。

第一編 希臘獨立戰史

(其一)獨立未成ノ時

第一章 希臘獨立ノ原因——愛國者希臘ノ

獨立ヲ謀ル

希臘人ガ土耳其ノ配下ニ屬シテヨリ以後ノ苦惱ハ、之ヲ東帝國ノ配下

ニ屬シタリシ時ノ境遇ニ比スルニ、固ヨリ同日ノ論ニアラズ。抑モ東帝
國ハ久シク希臘人ヲ支配シタリト雖モ、其累代ノ皇帝ハ、希臘人ト言語
ヲ同ウシ、宗教チ一ニシ、且ツ希臘人ノ苗裔ナリト云フヲ以テ、ミヅカラ
榮トスル人ナレバ、之ガ配下ニ屬スル希臘人モ亦實際上并ニ感情上ニ
於テ、オノヅカラ苦痛ヲ受クルコト少ナカリキ。然ルニ土耳其ノ配下ニ屬
シテヨリ、全ク其趣ヲ異ニシ、治者ト被治者トハ、人種、言語、宗教、一モ同シ
キモノナク、百般ノ事凡テ異ナルガ故ニ、土耳其人ガ君士但丁堡ヲ陷レ
テヨリ以來、三百年以上ノ久シキ、常ニ征服者、被征服者ノ關係、奴隸ト其
持主トノ關係ヲ有テ、到底調和シテ一國民ト爲ルコト能ハズ。加フルニ、土
耳其政府ハ、希臘人ニ對シテ生殺與奪ノ權ヲ有シ、各州ノ副王ハ、部下ノ
人民ヲ支配スルト言ハシヨリモ、寧ロ之ヲ壓制シタリシカバ、希臘人ハ
一旦モ其ノ堵ニ安ニスルヲ得ズ。且ツ希臘人ハ、當時コソ回教王ノ脚下
ニ屈服スルナレ、其古キ回想スル所ハ、縱令ヒマラトシ又ハサラミスノ

激戰ニ大敵ヲ擊破シタル人々ノ純粹の子孫ニアラストスルモ其血統ハ尙幾分ノ存スルナキニアラズ。往昔ニ於ケルヘレンス人即チ希臘人ノ特質トシテホーマーノ「イリアッド」「オヂセー」ニ載スルガ如キ高尚卓越ノ氣象ハ、今尙人民ノ胸裏ニ存積セリ。左レハ日夜土耳其ノ羈絆ヲ脱セント欲スルノ念切ナルモ、未タ好機ヲ得ザリシニ、拿破崙滅亡以後自由ノ空氣ノ全歐ニ充滿スルニ及ビ、希臘人ハ獨立ノ念愈々勃興シテ禁スルヲ能ハズ。殊ニ普佛諸國ニ留學セル青年ノ如キ、若クハ數多ノ商船ヲ有シテ希臘海王ト自稱セル商業家ノ如キハ、其念最モ深ク、今ニモ羈絆ヲ脱スルノ舉ヲ起サント欲シテ日夜心ヲ苦メケリ。是レヨリ先キ歐洲各國ノ君相(英國ヲ除ク)維也納ニ會シテ、彼ノ有名ナル神聖會盟ヲ組織スルニ當リ、伊太利ニ於テハ、獨立ヲ希圖セル愛國者相謀リテ「カーボナリ」黨ヲ組織シ、獨逸ニ於テハ學生同盟會ヲ結ビ、西班牙ニ於テハ、自由同盟會ヲ結ビシガ、希臘ニ於テモ亦各種ノ秘密會ヲ結

ヒテ獨立ノ目的ヲ達セシメテ謀リ、又數多ノ協會ヲ建テ、之ガ資本ヲ給セント企テリ。然レドモ土耳其政府ノ爲メニ干涉セラレ、其志ヲ果サザリキ。
一千八百二十一年^{我カ文政四年辛巳}愛國者相集リテ更ニ「ヘタリスツ」ト名クル秘密會ヲ組織シ、而シテ陽ニ學術研究ヲ目的トスト稱スレドモ、其ノ實ハ希臘ノ自主獨立ヲ以テ唯一ノ目的トシ、内外ニ住スル希臘ノ諸名士多ク之ニ加盟セリ。是時ニ當リテ、土耳其アルバニア州ノ首府シヤニナノ副王アリ、パシヤハ、竊カニ大志ヲ懷キ、エピラス、又ハ希臘ヲシテ本國ノ羈絆ヲ脱セシメ、已レ其國王ヲラント欲スルヨリ、英露及ヒ其他ノ諸國ト謀ヲ通シ、遂ニ叛旗ヲ翻ヘシタリ。是レツ希臘人ヲシテ獨立ノ軍ヲ起サシムルノ第一機會ナリキ。

アリ、パシヤト云ヘルハ、有名ノ猛將ナレハ、左ニ其小傳ヲ掲グベシ。

アリ、バシヤハ、一千七百五十年、我カ寛延三年庚午テベレンニ生ル。十四歳ノ時母ハ殘酷ニモ父ニ迫リテ、其財産ヲハ悉クアリニ與ヘシメタリ。アリハ盜賊ノ中ニ生レテ、性質慄悍、夙ニ冒險ニ從事シ、運命常ニ消長セリ。然カモ剛勇ヲ以テ名ヲ顯ハシ、富鉅萬ヲ累テ、威權日ニ加ハリキ。既ニシテ君土但丁堡ニ在リテ陰謀ヲ運ラシ、密カニデルヴヰノ副王セリムヲ陥レテ、死刑ノ宣告ヲ受ケシメ、因テ新任ローミリ副王ノ副官トナル。盜賊社會亦皆、舌ヲ捲キテ驚嘆セリ。但シ此際ト雖モ、アリハ猶盜賊ト結ヒテ、其贖品ノ利益ニ與カリツ。當時、土耳其國內、到處盜賊横行シ、アリシカバ、アリノ權力日チ遂フテ増大セルニモ拘ハラズ、土廷ハ甚彼レヲ憎ミ、依リテ新任副王ヲ免シ、併セテアリヲ京城ニ召喚セリ。アリ以爲ラク、今若シ召ニ應シテ京城ニ至リタランニハ、再ヒ生キテ還ルヲ得サルヤ必セリト。是ニ於テ内閣大臣ニ賂ヒテ、任地ニ在ルノ許可ヲ受ケ、遂ニ生チ全ウスルヲ得タリ。

幾クモナクシテ、又秘術ヲ盡シ、土廷ノ歡心ヲ買ヒ、次デセサリ。州ナルツリカラ副王ニ任シ、尋テローミリ副王ニ任セリ。アリ固ヨリ強盜ナルガ故ニ、アルバニア四千人ヲ率キテ、當時土耳其國內ニ横行スル他ノ強盜ヲ驅逐シ、之ニ由リテ益々土廷ノ歡心ヲ得タリ。尋テ南アルバニア即チ、エピラスノ首府シヤンコナチ取り、副王ノ職ヲ篡奪シ、漸ク領地ヲ擴ゲ、エピラス全部ヲ奪ヒテ、アカリナニア、エソハ、即チ南希臘ニ及ホセリ。既ニシテスリオ人ヲ撃チテ之ヲ敗リ、アルマ灣上、及ヒアドリア海岸ノ諸府ヲ陥レ、北ニ進ミテ、アルバニア本部ニ侵入シ、又謀ヲ運ラシテ、ベラツト副王ノ職ヲ得、上アルバニアナルオクリダノ政府ヲ奪ヒ、又土廷ノ命令ニ從テ、スカタリ、即チスコドラノ副王ヲ撃チテ之ヲ破リ、凡テ斯ル冒險ノ事業ヲ企ツルモ、土廷ハ事情止ムヲ得ズシテ、之ヲ默許スルノミナラズ、アリヲ帝國要部ノ監督官ニ任シ、二万四千ノ兵ヲ率キテ、モナスナルニ駐在セシメタリ。

其後アリノ勢力益々盛ナリシガ、其權變騙誦ハ終ニ土帝ノ逆鱗ニ觸レ、而シテ破門ノ罰ヲ蒙リシノミカ、帝ハ歐羅巴土耳其ノ諸副王ニ命シテ、アリーヲ征討セシメタリ。アリー止ムヲ得ズシテ、シヤンニナ城ヲ捨テ、土帝ヨリ助命ノ約束ヲ得テ、之ニ降レリ。然ルニアリーガ反復詐誦ノ報酬ハ忽チ其一身ニ集マリ、今ヤ土帝ノ爲メニ欺カレテ、死刑ニ處セラレ、君士但丁堡ノ宮門ニ梟首セラレタリ。時ニ一千八百二十二年^{我カ文政五年壬午}アリノ三子モ亦同シシ、梟首セラレタリト云フ。土耳其政府ハ、一千八百二十年^{我カ文政三年庚辰}チャルシツト、バシヤニ命シ、精兵ヲ率キテ、シヤンニナ府ヲ撃テ、アリー、バシヤヲ攻メシム。アリーノ勢猖獗ニシテ屈セザル、凡ソ二年、偶々城中ニ内應スルモノアリ。城遂ニ陷レリ。

第二章 希臘ノ愛國者始メテ義兵ヲ起ス

土廷殘虐ヲ恣ニス

是レヨリ先キ同二十一年^{我カ文政四年辛巳}土耳其ノ精兵シヤンニナニ在ルヤ、南部及ヒ北部ニ於ケル希臘ノ愛國者ハ、其ノ虛ニ乗テ始メテ義兵ヲ起ス。是時ニ當リテ、アレキサンダー、イプセラントナルモノアリ。選ハレテ「ヘタリスツ」會長タリ。此人ハ、フアナリオト呼ベル舊門閥家ノ一族ニシテ、今ハ露國ノ歴山一世ノ參謀官タリ。露帝ハ、彼レガ閥閥ヲ重シク、深ク之ヲ信任シ、彼レニ依リテボスフナラス沿海ノ地ヲ併吞スルニ意アリ。希臘人ハ頻リニ希望ヲ露帝ニ屬シ、帝ノ庇蔭ヲ仰ギテ獨立ノ大業ヲ成就セント企テ、殊ニ露國ノ大臣ニシテ、露帝ノ寵臣タルカボデストリアス伯ハ、元來希臘人ナルヲ以テ、希臘人ハ此人ノ援ヲモ借ラント望メリ。希臘ノ愛國者既ニ義兵ヲ擧グルヤ、アレキサンダー、イプセラントハ腹心ノ從屬數名ヲ隨ヘ、プラヌ河ヲ渡リテ、モルダヴァニアノ首府シヤセー

ニ到リ、府民ヲ會シテ宣言スラク、今ヤ我カ希臘ハ土耳其ノ羈絆ヲ脱セ
ント欲シテ獨立ノ戰ヲ起セリ、而シテ露國既ニ我レヲ援助スルアリ、其
ノ目的ヲ達スルヤ疑ヒナシ、足下等宜シク奮起シテ此義舉ヲ助クベシ、
ト斯クテ羅馬尼塞爾維孟的內哥羅、ブルガリア等、於ケル基督教徒ヲ
シテ悉ク我レニ左袒シ、同盟ヲラシメント期シタリシニ、豈國ランヤ、事
凡テ意外ニ出テ、到ル處人民ノ爲メニ冷遇セラレシカバ、情々トシテ辛
クモ軍ヲワラシヤ州ニ進メ、其首府ブツカレストニ達シ、土耳其ノ軍ト
相對峙セリ、土耳其軍ハ、七月十九日諸所ヨリ羅馬尼ニ集マリ來レルモ
ノナリ。

カクテイブセラントテガ部下ノ軍ハ、其着手ノ初ヨリ、事頗ル齟齬シタリ
ト雖モ、尙全ク成功ノ望ナキニハアラザリシガ、偶々ワラシヤ人ウラジ
スレスコナルモノ半途ヨリ革命軍ニ叛キテ土耳其軍ニ内應シ、シカノ
ミナラズ、露帝ハ、ライバツク府ニ在リテ、埃相メタルニコツク公ノ好策ニ

陥リ、イブセラントテノ計策ヲ非トシテ、大ニ之ヲ譴責シ、其官職ヲ剝ギ、軍
籍ヲ削リシニ、此報會々ウラジスレスコノ内應ト同時ニイブセラントテ
ノ許ニ達セシカバ、革命黨ノ氣燄ハ爲メニ大ニ滅殺セラレタリ、ソレサ
ヘアルニ、兩軍始メテドラガトシヤン村ニ干戈ヲ交ユルヤ、多勢ナル革
命黨ハ少勢ナル土耳其軍ノ爲メニ敗ラレシカバ、『ヘタリスツ』會員(即チ
革命黨)ノ氣力全ク沮喪シ、其他ノ黨類ハ悉ク潰散セリ。

アレキサンダー、イブセラントハ、トランシルヴァニアニ逃レシガ、同
地ニ於テ埃人ノ爲メニ捕ヘラレ、マンガツ、又ハテレシ、ソノスタツト
等ノ獄裏ニ呻吟スル、凡ソ六年半、一千八百二十七年我カ文政十年丁亥露國ノ
要求ニ依リテ免サレシカド、其翌二十八年我カ文政十一年戊子遂ニ維也納ニ於テ
死セリ、此人元來愚ナルニアラズ、惜カナ徒ニ大志ヲ懷キ、想像ニ富ミ
テ、而カモ政略軍略ニ短ナリシカバ、百事ミナ意ノ如キ能ハズ、空シク
恨チ吞デ死セリ。

又シヨージスト呼ベルモノアリ、オリムピアノ人ニシテ、當時ヘタリ
スツ會ノ部長アリ、戰敗レテ後、殘兵ヲ率井テ、モルダヴ州ニ逃レ、
三百五十人ノ兵卒ト共ニセツカノ一寺院ニ籠居セシガ、一千五百ノ
土軍來リテ三匝ニ圍ミ、激シク攻メケレバ、シヨージス死力ヲ盡シテ
防戰スルモ、到底衆寡敵スベキニアラズ。士卒多ク戰死シ、殘ル所僅ニ
數十名ニ過ギザリシカバ、復々爲スベカラザルヲ知リテ、十二人ノ腹
心ノ徒ト共ニ鐘塔ニ昇リ、火ヲ放チテ焚死ス。
此戰ニ、土軍ノ殘忍苛虐ナリシ事ハ、筆紙ノ能ク盡スベキニアラズ。シヨ
ーシストガ部下ノ殘兵數十名ハ、進退谷マリテ土軍ニ降リシニ、土軍ハ
管ニ之ガ生命ヲ助ケザルノミナラズ、目ヲ抉リ、鼻ヲ削ギ、耳ヲ切り、手足
ヲ截テ、臟腑ヲ擲ミ出スナド、實ニ目モ當テラレサル有様ナリシト云フ。
當時ノ俚諺ニ云ク、「土耳其人ハ一夜ノ間ニ一州ヲ荒涼ノ地ト爲シタリ」
ト、以テ其一人ヲモ許サザリシヲ徵スベシ。

此土軍ハミナ近衛軍ニシテ、其虐殺ハ内命ニ出デタリト傳フ。土廷ノ
殘忍モ亦甚シカラズヤ。

アツカレストノ戰亂ト同時ニモレニアニ於テモ亦義兵ヲ起セシカ、土帝
マムード二世附録ニ傳アリハ、酷刑以テ希臘人ヲ懲ラシメ、再ヒ兵ヲ起スノ氣力
ナカラシメント欲スルヨリ、其嚴令從來ニ數倍シ、土耳其ノ人民モ亦益
々特得ノ殘暴虐殺ヲ恣ニシケルコソ痛マシケレ。左レハ老年ニシテ德
望アル希臘教ノ教長グレゴリーガ教會ヲ脱シタリト云フヲ口實トシ
テ、教會ヨリ市街ニ曳キ出シ、捕ヘテ絞殺ニ處シ、二日間街上ニ曝ラセ
リ。其他希臘教及ヒ天主教ノ大僧正併セテ三名、及ヒ兩教ノ僧侶ヲモ亦
絞刑ニ處セリ。マムード二世ハ、教長グレゴリーノ死、体ヲ見テ滿面喜色
ヲ呈シ、二日ヲ過ギタル後、引キ下ロシテ猶太人ヲノ市中ヲ引キ廻サシ
メ、然後之ヲ海ニ投セシメタリ。土耳其ノ官職ニ在ルフアナリヲテ舊家

ニ屬スル一族ハ、老少トナク悉ク之ヲ虐殺セシメ、基督復活祭ノ當日、恰
カモ市中ニ網ヲ張りテ、通行ノ基督教徒ハ、男女トナク悉ク之ヲ統殺セ
リ。爾來管ニ君士但丁堡ノミニ限ラズ、凡ソ土領到ル處虐殺ヲ恣ニシ、荷
クモ希臘人タルモノハ、瞬時モ心ヲ安ゾズルヲ能ハズ。各國公使ハ、其不
法殘忍ヲ傍觀スルニ忍ビズ。土廷ニ向テ頻リニ之ヲ論争スルト雖、土
廷ハ馬耳東風毫モ之ヲ聞カザルノミカ、利ヘ益々虐殺ニ勉メ、婦人幼稚
者ニ至ルマデモ此厄運ニ逢フモノ夥多シク、就中婦女子ノ如キハ、飽ク
迄モ之ヲ辱カシメ、之ヲ玩弄シテ、然ル後之ヲ酷刑ニ處シタリト云フ。
同年一八二五年土廷ハ復々希臘、天主兩教僧正ノ虐殺ニ着手シ、遂ニ露國
ト一場ノ葛藤ヲ生セリ。今其理由ヲ尋ヌルニ、元來露國ハ、信教上ヨリ、并
ニ政略上ヨリ、希臘教徒ノ保護者ヲ以テミツカラ任セルヲナルガ、今ヤ
露帝歴山一世ハ、希臘獨立ノ計畫アルヲ聞キテ、時節到來セルヲ喜ビ、竊
カニ希臘ヲ煽動シテ、土耳其ト鵝蚌ノ争ヲ起サシメ、已レ漁夫ノ利ヲ罔

セント謀レル折柄、會々僧正虐殺ノ報ニ接シケレバ、君士但丁堡駐劄露
公使ストロガノツフニ命シテ、痛ク土廷ト論争セシム。然ルニ土廷ハ更
ニ聞ク所ナカリシカバ、ストロガノツフ大ニ怒リテ、君士但丁堡ヲ引キ
拂ハントス。是レ他日露國ガ希臘軍ニ應援シタル所以ナリ。
英佛等諸國モ亦深ク土耳其ノ處置ヲ惜ミ、希臘ニ同情ヲ懷キケレバ、希
臘土耳其ノ間ハ益々憎惡ノ念ヲ深クシ、到底調和スベキヤウハナカリ
ケリ。

第三章 土耳其軍、希臘軍、希臘ニ戰フ

トリポリツザノ攻圍

南希臘即チモレアニ於テハ、革命黨ノ勢力頗ル盛ニシテ、土軍屢利ヲ失
ヘリ。一千八百二十一年我カ文政四年辛巳四月四日大僧正セルマノスハ、パトラス
寺院ノ前ニ十字架ヲ建テ、茲ニ希臘人ヲ集メテ言ヘラシク、足下等須ラク

國家ノ爲メニ、將ヲ宗教ノ爲メニ、死戦セザルベカラズト。一同ナシテ誓約ヲ立テシメタリ。是ニ於テミヅカラ斯巴爾達人斯巴爾達人ノ強カリシノ苗ハ附録ニ就テ知ルベシ裔ナリト誇レルメトテス人等ハ、コロコトロニ、ペトロハイ本名ペドロス、モロミカリス等ヲ將トシテ、メツセニア州ノ首府カラマヲ陷レ、茲ニ臨時政府ヲ建設ス。然ルニ此ノ風聞忽チモレア全半島ニ擴カリシカバ、到ル處相競フテ兵ヲ起シ、遂ニ北ノ方セルモビレ、及ヒ希臘諸島ニ至ルマデ悉ク戦亂ノ地トハ爲レリ。

夫レ斯ノ如ク、革命ノ熱度ハ日チ逐フテ烈シキヲ加ヘタルガ中ニモ、希臘諸島ニ於テ、アゴリスト相對スルハイドラ島、并ニスベシア島、又ハケオス島ノ南ニ當レルプサラ島ノ如キハ、人心殊ニ激昂ヲ極メ、軍用船百七十六艘ヲ織裝シタリキ。又スベシア島ノ一寡婦ボ、リナト呼ベルハ、猶妙齡ノ婦人ナレド、變キニ土耳其政府ノ爲メニ君士但丁堡ニ於テ良人ヲ虐殺セラレ、加フルニ、アルゴス島ニ於テ其ノ子ヲ殺サレケレバ、

怨恨骨髓ニ徹シ、依リテ軍艦三艘ヲ備ヘテ、ミヅカラ之ガ指揮ヲ司レリ。其有様昔ノアルタミシア女王モ斯クヤアラント思ハル、バカリナリキ。

アルタミシアハ、紀元前五世紀ノ人ナルカリアナルハリガ「ナサス」ノ女王ナリ。サラミスノ海戦ニ、波斯王セルセスヲ援ケテ希臘ニ抗シ、ミヅカラ出テ戦テ衆人ノ眼ヲ驚カセリ。軍敗レ、船ニ乗シテ逃レシ時、途ニカリア公ニ屬スル一艘ノ船アリ。女王ハ之ヲ避ケントハ爲サズシテ、故サラニ撃テ之ヲ覆ヘシ、水兵ヲ沈没セシム。希臘軍此跡ヲ見テ、彼レ我レニ内應セリト誤想シ、之ヲ許セリ。波斯王モ亦此舉動ヲ目撃シツ、敵船ヲ覆ヘシタリト誤想シ、其ノ勇ヲ賞シテ、噫々朕ガ麾下ノ男子ハ婦人ニ變シ、婦人却テ男子ニ變セリト云ヒタリトツ。雅典人ハ賞ヲ懸ケテ彼レヲ捕縛セント求メ、斯巴爾達人ハ彼レノ爲メニ肖像ヲ建テタリ。皆其勇ニ感シタルナリ。

開戰ノ第一年ニ、土耳其ノ艦隊ハ、希臘人ヲ如何トモスルヲ能ハズ。其ノ陸軍モ亦北希臘ニ進入セント欲シテ能ハザリキ。コハ西方ヨリ北希臘ニ進入セントスレバ、愛國者マルコ、ボツザリス附録ニ傳アリガ麾下ノ驍勇ナルザリオテス人ニ妨ケラレ、又々東方ヨリ進入セントスレバ、狡猾ナルオプツサ人ニ妨ケラレバナリ。

ソモモレアナルトリボリツザ府ハ、土耳其ニ屬スル一大市都ニシテ、ペロポネチサス半島ノ中央ニ位シ、大臣等ノ住處ナリ。今ヤ希臘人ノ爲メニ逐ハレタル土耳其ノ兵卒、及び其ノ他ノ土耳其人等ハ、多ク此地ニ遁逃シタリ。同市ノ人口ハ凡ソ三万アリテ、其ノ一万ハ兵器ヲ執ルニ堪エタリシガ、七千ノ希臘軍ハ、コロコトロニスノ令ヲ奉シテ名ハ、ペトロバイノ部下タルモ、其ノ實ハ、コロコトロニスノ令ヲ奉シテ、同地ニ進入シ、其ノ附近ナル山上ニ位置ヲ占メ、凡ソ六ヶ月ノ間同府ヲ圍ミケレバ、土軍糧食漸ク盡キテ飢餓ニ苦ミ、加フルニ惡疫流行シテ斃ル者日々ニ

數百人アリ。其ノ慘狀實ニ酸鼻ノ至リナリキ。

十月五日希臘軍ハ、虛ニ乘シテ激シク之ヲ攻撃シ、三日ノ間虐殺、放火、暴掠ヲ恣ニシ、以テ彘キニ君土但丁堡府、クレイト島、サイアラス島ニ於テ被ムリタル災害ノ警ヲ報セリ。土軍ハ進退谷マリテ遂ニ敵ノ軍門ニ降リ、使者トシテ同府ノ最富人數名ヲ送レリ。使者ノ中ニ一人ノ猶太人アリ。帶ニ一對ノ拳銃ヲ着ケシガ、此ノ拳銃ハ、執レモ黄金ヲ鍍シ、金剛石ヲ鍍メタルモノナリ。コロコトロニスハ、是レ等ノ拳銃ニ眼ヲ注ギテ絶叫スラク。咄猶太人。予ハ汝ノ拳銃ヲ分捕品ト爲サント欲スト。直ニ行キテ之ヲ奪ヒ、正當ノ分捕品トシテ腰間ニ着ケタリ。

サテ希臘軍ノ領袖、ペトロバイ、及ヒコロコトロニス等ハ、土耳其ノ使節ト數日間ノ休戦ヲ約シ、尋テ和ヲ講セントノ前約ヲ爲シタリシガ、休戦ノ約ヲ結ヒテヨリ、第三日、希臘軍ハ巡行シテ土軍ガ城壁ノ一部ヲ見ルニ、一人ノ之ヲ守ルモノナシ。希臘軍大ニ喜ビテ、直ニ壁上ニ軍旗ヲ翻ヘ

シ、諸方ヨリ一時ニ進ミテ各處ノ城門ヲ開キ、洪水ノ如クニ亂入シテ當ル所悉ク之ヲ殺害セリ。土軍亦必死ノ勇ヲ奮ヒテ之ヲ防グト雖モ、敵軍ガ破竹ノ勢ニ勝ツコト能ハズ。城遂ニ陷レリ。茲ニ至リテ土軍ノ戰死者及病死者ヲ合ハセテ、其ノ數一萬五千人ノ多キニ及ベリ。
希臘人ハ勝ニ乘シテ猶諸方ヲ征服セント欲シ、苟クモ機會ノ許スアレバ、忽チ征討ニ從事シケレハ、モレニア沿海ノ要地ハ概チ其ノ攻略スル所ト爲リ、土耳其ハ、モレニアニ於テ僅ニ六箇所ノ要塞ヲ保ツノミ。而シテ此ノ六塞スラ尙日ナラズシテ希臘軍ノ手ニ入ラントセリ。

第 四 章

希臘人、政府ヲ建設ス——土耳其

人ノ殘虐——希臘、土耳其兩軍戰

漸ク酣ナリ——英相カンニング

希臘軍ヲ援ク

一千八百二十二年^{我カ文政五年壬午}希臘人エビドラス附近ナルピアタニ於テ始メテ國民議會ヲ開キテ、憲法制定ノ事ヲ議シ、創メテ政府ヲ建設シテ、五人ノ宰相ヲ選ビ、アレキサンダー、モイロコルタトスナルモノヲ舉ケテ之ニ大統領ノ任ヲ委ヌ。モイロコルタトスハ、博學ニシテ時務ニ通曉シ、兼テ愛國心ニ富メリ、今ヤ希臘人ノ棟梁ト爲リテ、之ヲ主宰スルノ地位ニ立チタリシカバ、同國人民ハ恰カモ第二ノオクセンスチールナチ得タルカ如クニ喜ヒ合ヘリ。

オクセンスチールナ伯ハ、一千五百八十三年^{我カ天正十一年癸未}生レ、一千六百五

十四年^{我カ承應三年甲午}死ス。瑞典國有名ノ宰相ナリ。獨逸ニ於テ教育ヲ受ケ、業

成リテ才文武ヲ兼ヌ。其ノ瑞典ニ歸ルヤ、チャールス九世ニ事ヘテ外

交官ヨリ、一千六百十一年^{我カ慶長十六年辛亥}有名ナルガスタヴアス、アドルフス

ガ瑞典王ノ位ニ昇ルヤ、オクセンスチールナチ舉ケテ之ヲ總理大臣

ニ任シ、之ニ國政ヲ委ヌ。オクセンスチールナ、王ノ爲メニ國事ニ盡瘁

シ頗ル功アリ。同三十二年我カ寛永九年壬申ガスタヴアス、アドルフス王ルツツ
 エンニ於テ戰没スルノ後、ガクセンスチールナミツカラ基督新教同
 盟ノ首領ト爲リ、其ノ敏腕ニ依リテ、二年ノ間、同盟ノ勝利ヲ續ケタリ。
 同三十四年我カ寛永十一年甲戌ノルドリゲンノ戰後、オクセンスチールナ去リ
 テ、巴里ニ行キ、佛相レセリ。ウニ面シテ、謀ル所アリ。同四十八年我カ慶安元年戊子
 ストツクホルムニ在リテ、居ナガラ、各國ノ商議ヲ左右シ、ウエストフ
 アリアノ媾和條約ニ由リテ、彼ノ三十年戰ノ局ヲ結ハシメ、其子ハ媾
 和使節ノ一人ト爲リテ、條約締結ニ與カレリ。
 (伯ガ有名ノ書翰ヲ認メタルハ正ニ此ノ時ニ在リ)
 瑞典女王クリスチナガ位ニ即クヤ、猶幼冲ナルヲ以テ、オクセンスチー
 ルナ伯攝政會ノ元首ニ任シ、女王既ニ十年ニ達スルノ後、更ニ總理大
 臣ニ任セリ。後職ヲ辭シテ、閑日月ヲ送レリ。
 『瑞典獨逸戰史』ノ第二卷ハ、伯ノ筆ニ成レリト云フ。

モイロコルヲトスハ、斯ノ如キ重任ヲ負擔スト雖モ、猶彼レニ服セサル
 モノモ少ナカラズ。現ニコロコトロニスノ如キハ、其ノ反對黨ノ一人ヲ
 リキ。コロコトロニスハ、元來守舊主義ノ人ニシテ、所謂「文明開化的」ノ風
 俗ヲ嫌忌スルガ故ニ、彼ノ燕尾服ヲ着ケ、佛國風ニ模擬シテ以テ天晴レ
 流行紳士ノ体面ヲ裝フ者ノ如キハ、之ヲ憎ミテ、其ノ面ニ唾セント欲ス
 ルノ傾向アリ。左レバ、曩キニデメトリアス、イブセンタガ大統領タラン
 ト欲シ、且ツ大元帥タラント望ミテ、モレアニ來レルニ當リ。コロコト
 ロニスハ、飽ク迄モ之ニ抵敵シ、之ヲ阻碍シタリシガ、今又モイロコルタ
 トスト軋轢シテ、始終調和スルヲ能ハズ、噫々兩雄並ヒ立タザルハ、古今
 ノ通弊ナリトハイヘ、希臘獨立ノ舉ノ迅速ニ功ヲ奏スル能ハザリシハ、
 職トシテ之ニ由ラズンハアラザルナリ。

此ノ年(即チ一千八百二十二年)ニ於ケル大事件ハ、土耳其人ノ暴虐ト、希

臘人ガ驍勇以テ能ク之ヲ禦キタルトノ二ツニ在リ。
抑モキオス島ト云ヘルハ、氣候溫和、地味膏腴ニシテ物産ニ富ミ、殊ニ多
ク菓物、絹布、乳香等ヲ産シ、而シテ住民ハ、希臘人、十萬ニ餘リ、土耳其人ハ
僅ニ五六千ニ過キズ。往年サモア人ノ叛スルヤ、叛徒ハキオス島人ヲ其
ノ共謀ニ加ヘント欲シテ頻リニ之ヲ教唆セリ。然レトモ島人更ニ之ニ
應セズ。只僅々少數ノ賤民ノミ之ニ加ハリタリキ。然ルニ暴虐ナル土耳
其人ハ、暗ニ是レ等ノ事ヲ口實トシ、四月十日、土耳其ノ海軍大將ハ、艦隊
大小合セテ四十六艘、水兵七千ヲ率ヰテ、不意ニ同島ヲ襲撃シ、火ヲ放テ
テ住民ヲ虐殺シ、又ハ捕ヘテ之ヲ奴隸ト爲スナド亂暴一ト方ナラズ。既
ニシテ大赦ノ令ヲ發シ、叛徒ノ罪ヲ許スト稱ヘテ以テ僻地野樸ノ民ヲ
欺キ、未ダ幾モアラサルニ、又兵ヲ遣ハシテ更ニ一層ノ虐殺ヲ行ヒ、男女
トナク、老少トナク、悉ク之ヲ屠リ、病院ニ在ル病人ト雖モ、之ヲ殺シテ塞
モ假貸スル所ナカリキ。只領事館、又ハ船中ニ在ルモノ、ミ辛フシテ死

ヲ免カル、ヲ得タリ。此ノ際ノ虐殺モ亦例ノ如ク、可及的ノ殘酷ヲ極
メ、婦女ヲ辱カシメタルガ如キモ例ノ慣手ナレバ茲ニ詳叙セズ。後ニ至
リテ之ヲ調査スルニ、虐殺ニ逢フタルモノ無慮二萬五千人、君士但丁堡、
チユニス、アレキサンドリア、及ヒ其ノ他ノ諸地ニ奴隸トシテ賣ラレタ
ルモノ四萬七千人、辛フシテ生命ヲ助カリタルモノハ、僅々五千ニ滿タ
ザリシト云フ。
獨リキオス島民ノミ此ノ不幸ヲ蒙リタルニアラズ。其ノ他ノ諸島ニ
於テモ稍々同一ナル不幸ニ陥ラントセシ者多カリシ。否ラザルモ土軍
ハ今之ヲ襲ハントノ準備中ナレバ、希臘人此ノ暴舉ヲ聞キテ痛ク其ノ
暴惡ヲ憤リ、且ツ島民ヲ憐ミ、可及的大數ノ海軍ヲ送リテ之ヲ援ハント
ス。此ノ海軍ハ、軍艦五十六艘ト火船八艘トヨリ成リテ、ハイドリオテ、ミ
ナーリス之ガ指揮ヲ司リ、速ニブサラ島ニ集マレリ。ミナーリスハ夙ニ
父ニ從ツテ、航海ニ從事シ、今ヤ其道ニ妙ヲ得タル達人ナリ、カクテミナ

リスハ、七月十八日ノ夜ヲ以テ、アサラ島ノ人コンスタンタン、カナリス（附録ニハイドラノ人セナルヲ、ビビノス等三十二名ノ死士ト相會シテ聖餐ノ禮ヲ行ヒ、生別ノ盃ヲ汲ミ、一死以テ國ニ報ヒンヲ誓約シ、夜半ニ及ヒテ二艘ノ火船ニ乘リ込ミ、土耳其ノ艦隊ノ海上ニ輻輳セルヲ物トモセズ、竊カニ其ノ中間ヲ横斷シテ漸ク艦隊長及ヒ副艦隊長ノ乘リ込ミタル軍艦ニ接近セリ。是時ニ當リテ、土耳其ノ艦中ニ於テハ、恰カモ回教絶食祭日ノ終ヲ告ケタル當夜ナルヲ以テ、艦隊長盛ニ宴會ヲ開キテ麾下一同ヲ饗シ、酒酣ニシテ二千餘人ノ士卒各々酔ヲ帶ビ、十二分ノ歡ヲ盡シテ、舞ヒ且ツ踊レルガ故ニ、希臘人近ヅキ襲フト雖モ、何人モ之ヲ悟ルモノナシ。カナリス元來膽略無双ノ人ナレバ、今ヤ生命ヲ鴻毛ヨリモ輕ンシ、名譽ヲ呂鼎ヨリモ重ンシテ、速ニ我カ火船ヲ指揮シテ土耳其艦隊長ノ船腹ニ接近シ、火ヲ放テテ之ヲ燒ケリ。ビビノスモ亦同時ニ副艦隊長ノ乗船ニ火ヲ放テテレドモ、火勢微弱ニシテ之ヲ燒クニ至ラ

ズ。只土耳其艦隊ノ喫驚狼狽シツ、アル間ニ駛リ去レリ。土耳其艦隊長ハ、流石ニ剛毅ノ人ナレハ、毫モ此ノ襲撃ニ驚カズ、速ニ砲手ニ命シテ大砲ヲ連發セシメタリ。然レドモ此ノ時早シ、彼ノ時遅シ、艦隊長ノ乗船ハ、數發ノ轟聲ト共ニ、艦体忽チ破裂シテ空中ニ飛散シ、艦隊長ハ、帆檣ノ顛倒セルニ打ダレテ即死シ、死屍海中ニ漂漾セリ。左レバ土耳其艦隊ハ益々周章狼狽ヲ極メ、我レ勝チニダレズ、海峡ニ逃レ去リキ。

日頃ロ残酷ナル在キオス島ノ土耳其兵ハ敗報ニ接シテ忿恚ノ念ニ堪エズ。復讐ヲ爲シテ腹癢セントテ、難キニ殘害セザリシ島中ノ部分ヲ殘害スルニ、其ノ乱暴前日ニ倍蓰シ、可及的残酷ナル手段ヲ用井テ住民ヲ屠戮シ、可及的羞耻ヲ被ムヲシムベキ手段ヲ用井テ婦女ヲ辱シメ、又屠戮セザル者ハ概チ奴隸ニ販ギケレバ、ツイ近日マデモ十萬ニ餘リタル人口、一朝ニシテ一千八百未滿ニ減少シタリト云フ。

彼ノ剛毅ナルカナリス等ハ萬死ヲ出テ、一生ヲ得、フランスニ無事歸若シタリシカバ、島人競フテ之ヲ歡迎シ、且ツ教會ニ到リテ、勝利ト無事トヲ神ニ謝セリ。

是ノ時ニ當リテ、土耳其政府ハ既ニ叛徒ノ首魁アリ、本編第一章ヲニ傳アリバシヤ

誅シテ、シヤンニナ府ヲ陷レ、全力ヲ擧ケテ希臘征討ニ從事スルヲ得ルニ至リシカバ、乃チ一擧シテ之ヲ勦滅セント欲シ、其ノ陸軍ヲ希臘ニ送リヌ。君士但丁堡府駐劄ノ各國公使ハ、各自急報ヲ本國政府ニ送リテ、愈々戰爭ノ大事ニ至ルベキヲ報セリ。

希臘征討ノ土耳其軍ハ、之ヲ數隊ニ部署シテ、其ノ本隊ハ、東方ヨリ進ミ、ヘラスヲ經、コリンス地峽ヲ過ギテ、モレアニ入ルベク、アルバニア軍隊ハ、西方ヨリ、ヘラスヲ征服スベキ計畫ナリ。又ドリマリ、バシヤハ、三萬ノ兵ヲ率非テ、セルモビレヨリ、ポトシヤヲ經テ、亞的加ニ進ミ、ソレヨリモ

レアニ入リテ、アゴス及ヒノイブリヤニ守兵ヲ配置シタリ。然レドモ糧食ノ足ラザルヨリ、止ムヲ得ズシテ、コリンスニ退ケリ。

希臘ノ方ニ於テハ、大總督コロコトロニス、一千ノ兵ヲデルベナツク道ニ伏セ、突然起リテ敵兵ヲ攻撃シタリシカバ、敵兵狼狽シテ進退其度ヲ失ヒ、一擧ノ下ニ戰死スル者數千人。遂ニ大敗シテ其ノ近傍ノ地悉ク希臘ノ有ニ歸セリ。コロコトロニス勝ニ乘シテ益々敵兵ヲ破リ、遂ニノイブリヤヲ攻略セリ。

土耳其ノ艦隊ハ、疑キニ剛勇無双ナルカナリスノ爲メニ苦メラレテヨリ、恐怖戰慄シテ再ヒ戰フベキ勇氣ヲ失ヒシガ、今ヤ漸ク勇氣ヲ恢復シタリシカバ、更ニ進ンテ復讐ノ戰ヲ起セリ。然レドモ事豫想ニ反シテ、更ニ効ヲ奏スルヲ能ハザルノミカ、カナリス復タセオドス附近ニ於テ之ヲ邀ヘ撃テケレバ、土軍、カナリスノ名ニ畏怖シテ忽チ再生ノ勇氣ヲ失ヒ、敢テ戰ヲ交エントスルモノナシ。兎角スル間ニ、カナリスハ例ノ放火

ノ法ヲ試ミケレバ、土其耳副艦隊長及ヒ其ノ部下ノ水兵六百名ハ、船艦ト共ニ爆裂燒失シテ痕迹ヲ留メズナリス。
西方リヨ進ミタル土耳其ノ陸軍ハ、西ヘラスニ於テ希臘軍ト會戰シ、雄未ダ孰レトモ決スルヲ能ハズ。斯ル處ヘ希將ノイマン數千ノアキルヘレテ軍ヲ率テ來援シケレバ、希臘軍一時ニ氣餒ヲ吐キ、勢頗ル強盛ナリキ。左レドゴルゴ一人、土軍ニ内應シタリシカバ、忽チニシテ勢力ヲ失ヒ、遂ニアルク附近ナルベタニ於テ敗績シタリ。既ニシテ年漸ク暮レテ、基督降誕祭(十二月二十五日)ト爲リケルニ、同日土軍ハ、ミソロンシテ襲ハント欲シテ進ミ來レルヲ、希軍遊ヘ撃テ大ニ之レヲ破リ、土軍潰散シタリシカバ、希軍ハ其ノ兵器大砲ヲ奪ヒ、以テ前敗ノ耻辱ヲ雪ケリ。負ケ惜ミナル土軍ハ傲然トシテ稱スラシ。天我カ回教徒ノ勇氣ヲ奪ヒテ之ヲ異教徒ニ授ケ給ヘリ。天命ナレバ是非モナシ。戰ノ罪ニアラザルナリト。噫々何ソ其語氣ノ支那人ニ類スルヤ。

一千八百二十二年 我が文政五年壬午 モ茲ニ暮レテ、明クレバ同二十三年 我が文政六年癸未 ナリス、而カモ堂々タル一大帝國土耳其ハ、赫爾タル希臘ノ「叛徒」ヲ鎮定スルヲ能ハズ。遅々トシテ持テ餘マシツ、アリ。是レソモ何ニ由ルカ。自由ノ向フ所容易ニ敵スヘカラザレバナリ。
ソハ兎モ角モ、希臘愛國者ハ、百折不撓以テ素志ヲ徹底セシメテ求ムルト雖モ、如何セン土軍ト衆寡相敵セザルヲ以テ、速ニ目的ヲ達スルヲ能ハズ。或ハ事ノ成ラヌシテ空シク幾万ノ精靈ヲ犠牲ニセシメテ恐ル。是ニ於テ英國及ヒ自餘強大國ノ保護ヲ仰カンコトニ勉メ、先ツ露國ノ援ヲ假テシカ爲メニ、メタクサス伯ト、佛人ヨゴルデトトチ同國ニ遣ハセリ。是レ(第一)露帝歴山一世ハ戰ヲ好メルニ由リ、(第二)露土正サニ干戈ヲ交エントスルニ由リテ、其ノ援ヲ得ルコトノ容易ナルヲ察シタレバナリ。カ、リケレハ露帝タルモノ須ラシ喜ビテ之ニ應スヘカリシニ。當時埃

相メテルニツク公ナルモノアリ。「伊太利獨立戰史」中ニ小傳アリ拿破崙ノ敗滅後ヨリ、歐洲ニ勢力ヲ有シケルガ、此ノ人非常ノ守舊家ニシテ、痛ク民權自由ノ說ヲ嫌忌シ、彼ノ神聖會盟ヲ利用シテ、歐洲一般ニ專制主義ヲ行ハシメント熱望シケレバ、今ヤ希臘ガ土耳其ノ羈軛ヲ脱セントスルヲ見テ、是レヨリ伊太利獨立ノ痛ヲ作ランコト恐レ、伊太利ハ當時埃國ノ配下ニ居セリ露帝ヲ欺キテ曰ク、希臘革命ノ乱ハ、恰カモ拿破崙及ヒ西班牙ノ乱ト其性質ヲ同クス。此ノ革命黨ヲシテ志ヲ得セシメタランニハ、埃露諸國ノ政府ハ枕ヲ高クスルコト能ハザルベシト。露帝說ヲ聞キテ忽チ之ニ感服シ、革命黨ヲシテ志ヲ得ザランメンコト望ミシカハ、希臘ノ使節ニ答ヘシメテ曰ク、歐洲各國ノ帝王ハ、凡テ方法時機ノ如何ニ論ナク、斷乎トシテ臣民叛亂ノ主義ヲ排斥セザルベカラズト。噫々メテルニツクノ奸ヤ憎ムベク、露帝ノ愚ヤ憐レムベシ。臣民ノ叛亂ト希臘ノ獨立トハ固ト同日ノ論ニアラザルナリ。

希臘ノ愛國者ハ、露帝ニ拒絕セラレテ大ニ望ヲ失ヒ、更ニ英國ニ向テ保護ヲ要求シケリ。是レヨリ先キ英國ニ於テハ、狹量淺見ナルロンドンデリー侯久シクリヴァプール内閣ニ勢力ヲ有シ、弊政甚多カリシガ、幸ナルカナ、侯ハ一千八百二十二年我カ文政五年壬午ヲ以テ自殺シ、其ノ讐敵タルカンニング入りテ外務大臣ノ地位ヲ占メ、言トシテ行ハレザルハナク、說トシテ聽カレザルハナシ。實際ニ於テハ全ク總理大臣タリ。
(ロンドンデリー侯ハ、初メカストラレー卿ト云ヒタル人ナリ。下文ニ記スガ如ク、曾テカンニングト決闘ヲ爲シタルコトアリ。又當時ノ總理大臣ハ、リヴァプール卿タリシナリ。)
 カンニングハ活眼達識ノ人ナリ。夙ニ希臘獨立ノ真相ヲ看破シ、年尙若カリシ時ニ深ク希臘ノ不幸ヲ哀ミ、其ノ土耳其政府羈絆ノ下ニ呻吟スルヲ憐ミテ、哀悼ノ歌ヲ詠セシコトアリ。今ヤ外交ノ要路ニ當ルニ及ヒテ、ミヅカテ任スルニ正ト弱トヲ助ケテ、邪ト強トヲ抑ユレヲ以テシ、英國

ノ助ニ由リテ希臘ノ獨立ヲ遂ゲシムルヲ、彼ノ南亞米利加ニ於ケル諸國ノ如クナラシメント欲セリ。左レハ一千八百二十三年我カ文政六年癸未三月希臘人ガ土軍ノ圍ム所ト爲リテ飢饉ニ迫ルニ際シ、カンニングハ希臘ヲ獨立國ト認メ土耳其ト同等ナル交戰國ト見做シタリキ。氏ガ將來ノ運動ハ、一ニ此認定ニ基ケルモノナリ。

カンニング名ハジョーロ。一千七百七十年我カ明和七年庚寅倫敦ニ生ル。英國有名ナル政治家兼雄辯家ナリ。父カンニングハ華族ノ長子ナレドモ、兩親ノ許可ヲ受ケズシテ下等社會ノ婦人ト婚ヲ結ビタルヲ以テ、父祖ノ家ヲ繼グヲ得ザリキ。此ノ父初メ愛蘭ヨリ倫敦ニ出デ、「ミッドル、テムプル」法學校ノ名ニ入り、業ヲ卒ヘテ後辯護士ト爲リシカ、拙劣ニシテ依頼者少ナキヲ以テ、更ニ文學ニ從事ス。左レド又一家ヲ維持スル能ハザリシカバ、方向ヲ一轉シテ酒商ト爲レリ。而カモ猶意ノ如キ能ハ

ザルヨリ、失望ノ極、發狂シテ死セリ。是ニ於テ其未亡人、即チジョーロ、カンニングノ母ハ、俳優ニ嫁シ、女優ト爲レリ。

後俳優モ亦死シケレバ、カンニングノ母ハ、更ニ麻布商ニ嫁セリ。此女長壽ヲ保チ、生前ニカンニングガ志ヲ遂グルヲ見ルヲ得タリ。

カンニング初メウヰンナエスターナルハイド、アツピー學校ニ入り、尋デエトン大學ニ轉シテ専門ノ業ヲ修メ、又オックスフォード大學ニ移ツリテ嶄然頭角ヲ見ハセリ。既ニシテ「リンカン、イン」法學校ノ名ニ入り、氏幼時ヨリ母ノ薰陶ヲ受ケテオノヅカラ演説ヲ好ミケレバ、夙ニエトン大學ニ在リシ日、専ラ雄辯法ヲ研究シ、同學生ノ組織セル討論會ニ入りテ衆耳ヲ驚カセリ。氏ノ演説ヲ爲スヤ、必ラズ先ツ稿ヲ草シ、又充分ニ之ヲ練リテ後演壇ニ登レリ。而シテ晩年ニ至ルマデ、此ノ習慣ヲ改メザリシト云フ。左レバ、コソ不世出雄辯家ノ名ヲ博スルヲ得タリシナレ。

一千七百九十三年我カ寛政五年癸丑カンニンク二十二歳ノトキピットノ推薦ニ由リ、辯護士ヲ止メテ衆議院議員ニ選ハレ、專ハラ政治學ノ研究ニ従事セリ。同九十六年我カ寛政八年丙辰内務次官ニ任シ、一千八百年我カ寛政十二年庚申コット將軍ノ女ヲヨアンナト婚チ結ビタルヲ以テ、十萬磅ノ財産ヲ受ケ、同四年我カ文化元年甲子海軍會計官ニ轉任シ、同七年我カ文化四年丁卯即チピットノ死後一年ニ、外務大臣ニ任シ、同九年我カ文化六年己巳カスラレー卿ト決闘チ行ヘリ。同十二年我カ文化九年壬申リヴァプール選出ノ國會議員ト爲リ、爾來同十四年我カ文化十一年甲戌十八年我カ文化二十年庚辰常ニ同地ヨリ議員ニ選ハレタリ。

同十六年我カ文化十年丙子會計検査院長ニ任シ、同二十二年我カ文化五年壬申印度太守ニ任シ、將ニ赴任セントス。偶々ロンドンアリ候即チ癡キニカスラレー卿ト云ヒタル人自殺チ行ヒタルヲ以テ、カンニンクハ印度太守ヲ辞シテ復タ外務大臣ニ任セリ。

同二十七年我カ文政十年丁亥カンニンク總理ニ任セリ。是レゾ氏ガ久シク渴望シタル所ノ目的ナリケル。左レド總理大臣ト爲リテヨリ、僅ニ三箇月ヲ隔テ、同年八月八日ニ遠逝シ、六月二十九日ニ於ケル長演説ハ恰カモ其遺言ト爲リタルゾ口惜シキ。總理大臣ト爲リタルハ同年四月一日ノ事ナリ氏ハ終生常ニ自由主義トセリ。而シテ希臘獨立ニ至リテハ、力ヲ盡シテ之ヲ援ケタリキ。

第三編 希臘獨立戰史

(其二) 外國應援ノ時期

第一章 愛國者マルユ、ボツザリスノ戰死

— 西歐諸國希臘ヲ援ク

抑モ希臘人が義旗ヲ舉ケテ土耳其ニ抗シテヨリ茲ニ三閱年、互ニ勝敗

アリテ斷乎タル決戰ニ及ブナク、彼我共ニ疲弊シ。左レハ外國ノ其ノ
間ニ交渉シテ一方ヲ援クルアルニアラザレハ、到底其ノ局ヲ結了スル
コトヲ得ザルベシ。然レドモ土耳其ハ流石大國ナレバ、其ノ疲弊ト云ヒ、
困難ト云フモ、堪エ難キホドノ甚シキニハ至ラザレド、希臘ニ至リテハ
則チ決シテ然ラズ。最爾タル小國、愛國者各自ノ衷情ノミチヲ循甲トスル
ヲ以テ、其疲弊困難ハ固ヨリ土耳其ト日チ同ウシテ語ルベキニアラズ。
加フルニ、近日國內ノ兩黨互ニ反目疾視シ、一方ニ於テハ、コロコトロニ
「チ首領トシテ、保守主義ノ人々、旗幟ヲ立ツレバ、又一方ニ於テハ、ノ
アリアノ人ゴソリオムスチ首領トシテ、立憲主義ノ人々之ニ反對抵
敵シ、相結ンテ容易ニ解クベクモアラズ。然ルニ立憲黨ハ、數艘ノ艦長ト
數千ノ水兵トチ有シテ、兵力頗ル強キガ故ニ、保守黨遂ニ之ニ屈服シテ、
コロコトロニス等十三名ノ領袖ハ、ハイドラノ寺院ニ幽閉セラレ、西ヘ
ラスニ於ケル無頼剛愎ナル將校等モ亦モコロコトルダトスノ説得スル

所ト爲リテ立憲黨ニ從ヘリ。又オチシアスト呼ベルハ、癡キニ愛國者ノ
一人ナリシガ、元來奸猾ニシテ節操ニ乏シキチ以テ、中ゴロ土耳其ノ爲
メニ啗ハサレテ之ニ降り、土耳其政府ハ、彼レニ向テ、東ヘツスノ副王ニ
任スベキチ約セリト云フ。今又迫ラレテ希臘ニ降りシガ、立憲黨ハ彼レ
チ以テ賣國ノ賊ト爲シ、雅典ニ於テ絞刑ニ處セリ。
是ノ時ニ當リテ、土希兩軍ハ猶互ニ勝敗アリテ、結局ノ勝利未ク孰レト
モ決セザリシガ、一千八百二十三年我カ文政六年癸未西ヘラスナルスキタリ
副王オームル、プリオン、パシヤハ、一万五千ノ土軍ヲ率ヰテ、ミッロン
ヲ攻メタリ。時ニ希臘ノ愛國者マルコ、ボツザリスナルモノアリ。附録ニ傳
アルバニア州スーリノ人ナリ。剛氣熱心ノ二者ヲ以テ國民ノ指南車
ト爲リ、之チ鼓舞作興セシメシガ、八月二十日或ハ云フ廿二日ノ夜、五百
名或ハ云フ、三百五十名ノスーリ人ヲ率ヰテ、不意ニ、カイベニシスナ

ルオームル、プリオーン、パシヤノ陣營ヲ襲フ。パシヤノ兵ハ、一万五千人ノ多キアレドモ、夢ニダモ敵軍ノ襲ヒ來ルヲ知ラズシテ熟睡セリ。夜半ニボツザリスハ、其ノ部下ノ兵ヲ勵マシテ急ニ之ヲ襲撃セントス。部下ノ兵固ヨリ皆熱心ノ愛國者ナレバ、直ニ其ノ指揮ニ應シテ之ヲ攻撃セリ。左レバ、オームル、プリオーン、パシヤガ麾下ノ兵ハ、事意外ニ出テタルヲ以テ、周章狼狽シ、其ノ先鋒五千人、或ハ殺サレ、又ハ逃レテ全ク敗績シ、ボツザリスハ意ノ如ク全捷ヲ博セリ。

此ノ戦捷ニ由リテ、ボツザリスハ、今世ノレオニダスト稱讃セラレタリト云フ。

レオニダスハ、昔ノ希臘列國斯巴爾達ノ王ナリ。波斯王セルセスカ百万ノ軍ヲ率テ希臘ヲ撃ツヤ、レオニダス僅々二三千ニ滿タザル小勢ヲ以テ波斯軍ヲセルモビレノ道ニ邀ヘ撃テ之ガ進行ヲ妨ゲ、其豪膽敵味方ヲ驚カシケリ。既ニシテ波斯ノ將トラチニアノ人エフサ

ルテスナル者一隊ノ兵ヲ率キテ、竊カニ間道ヨリ、レオニダスノ背後ヲ衝キシカハレオニダスノ兵或ハ死シ、或ハ逃レテ僅々三百人ト爲レリ。左ルモ、レオニダスハ更ニ屈スル色ナク、遂ニ亂軍ノ中ニ激戦シテ、三百名ノ人々ト共ニ名譽ノ戰死ヲ遂ケタリケル。實ニ紀元前四百八十年ナリキ。

左レド、ボツザリスハ、勝利ノ最中、亂軍ノ間ニ重傷ヲ被ムリテ死去セシコソ惜ミテモ尙餘アレ。ボツザリス死ニ臨ミテ左右ニ言ヘテ「噫々予ハ今幸ニシテ怯懦ノ名ヲ免ル、予ヲ得、死シテ餘榮アリ」ト。詩人ハイロマイロンハ後ニ評ナリ、ボツザリスヲ吊シテ語テ曰ク。

They fought like brave men, long and well,

They piled that ground with Moslem slain.

They conquered, but Bozaris fell,

Bleeding at every vein.

His few surviving comrades saw,

His smile when rang their proud hurrah,

And the red field was won.

They saw in death his eyelids close,

Calmly, as to a night's repose,

Like flowers at set of sun,

(譯スレバ味ヲ失フ故ニ原文ノマヽ載ス)

パイロンハ曩キニ一千八百九年我カ文化六年己巳年猶少ニシテ希臘ニ遊ビ詩學上ニ於テ鴻益ヲ得タリシガ今ヤ希臘人義旗ヲ舉ケタリト聞キテ急ニ旅裝ヲ整ヘ一千八百二十四年我カ文政七年甲申一月ヲ以テ、ミソロンジニ着シ軍費ノ支給内外ノ計策并ニ軍略等諸般ノ事ニ力ヲ盡シテ以テ大ニ愛國者ヲ助ケントセリ。然ルニ不幸ニシテ四月十五日病ヲ以テ同地ニ死去シケレバ希臘人痛ク之ヲ哀ミテ厚ク其遺骸ヲ葬リ之ヲマルコボツザ

リス。又ハノーマン伯ノ如キ殉國義士ノ墓側ニ埋メタリ。

パイロン卿ハ一千七百八十八年我ガ天明八年戊申倫敦ニ生ル姓名ハ、ジョーイ、

ゴルドン、父ハ近衛大尉ジョーン、パイロン母ハキヤサリン、ゴルドント

云ヘリ。パイロン生レナガラニシテ跛ナリ。二歳ノ時放蕩奢侈ナル父

ハ家ヲ出テ氏ハ母ニ伴ハレテ蘇國アバーヂン府ニ退ク。既ニシテ大

伯父ノ死去ニ會シ其ノ後ヲ嗣ギテ貴族ニ列リ、ノツチンガム州ニウ

ステツド、アツピーノ領主ト爲ル。初メサーリー州ダリツヂナル寄宿

學校ニ入り、又ハローノ學校ニ轉シ、一千八百五年我ガ文化二年乙丑ケムブリ

ツヂナル「ツリニチー」大學ニ入レリ。時ニ年十七。然レドモ母ノ爲メニ

妨碍セラレ、動モスレバ正科ヲ怠ルヲ多シ。只熱心以テ獨修スルノミ。

夙ニ東洋史ヲ好ミ。隨テ詩作上ノ好材料ヲ蓄フルヲ得タリ。是レヨリ

先キ十五歳ノ時、メリー、シヤウチー、スト名クル一少婦ニ深ク懸想セ

シカド、婦ノ冷淡ナルニ由リテ頗ル落膽失望シ、「夢」ドリームト題スル

詩ヲ作りテ聊カ自ラ慰メリ。

バイロン、大學ニ在ルノ日「閑散ノ時間」アラス、オフ、アイドルチス」ト題スル詩ヲ作り、一千八百七年我が文化四年丁卯ヲ以テ之ヲ公コシ、又「英國ノ詩人ト蘇國ノ雜誌記者」イングリシ、パイズ、アンド、スコツチ、レヴヰウアー」ト題スル詩ヲ公ニス。

同九年我が文化六年巳巳ヨリ十一年我が文化八年辛未ニ至ルマデ、二年ノ間、氏ハ歐洲大陸ヲ漫遊シテ名所舊跡ヲ探リ、茲ニ第一ノ傑作「ハロルド勳爵士廻國」ヲヤイルド、ハロルド、ビルグリメーシ」第一二曲ヲ作ル。當時バイロン僅ニ二十一歳。彼ノ美人ノ面影ハ、猶眼前ニ髣髴トシテ消ユベクモアラズ。願フニ曲中ノ主人公タル體性ノハロルドハ、氏ヲ代表セシモノナルベシ。此曲一タビ出テ、氏ノ名頓ニ高ク、忽チコシテ輿論ノ爲メニ倫敦文學社會ノ棟梁ト認メラレ、文學上ノ獅子ト稱セラレ。後久シカラズシテ貴族院議員ノ椅子ヲ占メタリ。

同十三年我が文化十年癸酉「ゼ、マヨール」不信者回教ノ不信者ナリ及ヒ「アピドスノ花嫁」(ゼ、プライド、オフ、アピドス)ト題スル二詩ヲ公コシ、翌十四年我が文化十一年甲戌「海賊」(コルセリア)及ヒ「ラ」ト題スル二詩ヲ公ニス。

同十五年我が文化十二年乙亥ミルバンソ嬢ヲ娶ル。結婚ノ初ヨリ、琴瑟相諧ハズ、十二ヶ月ニシテ離別ス。此ノ時バイロン、ハアダト呼ベル一少婦ヲ戀愛シ、結婚ヲ申込ミシカド、少婦ガ兩親ノ頑乎トシテ勸カザルニ由リ、後「ハロルド勳爵士廻國」第三回ヲ草シテ、暗ニ其兩親ヲ戒メヌ。又「コリン」スノ攻圍「ゼ、シトシ、オフ、コリン」及ヒ「パリシナ」ノ二詩ヲ著ハセリ。是時ニ當リテ、バイロン、離婚ノ處置ニ就キテ新聞ニ攻撃セラレ、市街ニ謗議セラレタルニ由リテ、不快ノ念ニ堪エズ。一千八百十八年我が文化戊辰春ヲ以テ遂ニ倫敦ヲ去リ、決シテ再ヒ本國ニ歸ラザラント誓ヘリ。左レハ先ツ伊太利ニ行キテ、羅馬、ヴェニス、ピサ等ノ諸地ニ遊ヒ、到ル處數多ノ詩ヲ作りテ數千磅ノ金ヲ得、奢侈遊蕩ノ爲メニ之ヲ消費

セリ。

第一ノ傑作『ハロルド勳爵士廻國』ハ、一千八百十八年我カ文政元年戊寅ヲ以テ其局ヲ結ヘリ。但シ第三曲ハ、瑞西國セテゾアニ於テ草シ、第四曲即チ末卷ハ、伊太利國ヅエニスニ於テ草セリ。

バイロン又戯曲ニ筆ヲ試ミ、『ケーン』『マンフレッド』『マリノフアリエロ』『二人フナスカリ』『サルダナバルス』『ワリーナー』『天地』『ヘブン、アンド、アース』『斐狀醜婦』『デフチームド、ツラノスフチード』等ヲ著ハス。然レドモバイロンモト戯曲上ノ天才ヲ有セズ。左レハ博士ニコルハ、其著『英國文人傳』ニ、氏ノ戯曲ヲ評シテ、只數編ニ分カレタル詩ナリト云ヒ、マコーレー卿亦氏ガ戯曲中ニ於ケル人物ノ十人ガ十人ミナ同一様ノモノナルヲ非難シテ、恰カモ一箇ノ移動スベキ頭ガ二十種ノ身軀ヲ巡廻スルニ似タリミルトン論ト云ヒ、又ハ『ヘイデー』バイロン戯曲中ノ人物ハヨエリヤ上ノ更ニ少クシテ粗野ナルモノ、又ヨエリヤハ『ヘイデー』ノ更ニ長クテ

開化シタルモノナリト評シ、レトラ上ハ既婚ノヨエレトカ同ニシテ、ヨエレトカハ未婚ノレトラナリト論セリ。バイロン

バイロン後又『ドン、ジョンノ詩』『ナロン囚虜』セ、プリスナリ、オフ、ナロン、『ダツソノ哀哭』セ、ライメント、オフ、ダツソノ『ダシテノ預言』セ、アロンエシ、オフ、ダンテ等ヲ著ハセリ。

一千八百二十四年我カ文政七年甲申卿死ス。享年三十七歳。

一千八百二十四年七月土耳其ノ艦隊長コスリウ、パシヤ、ハ數千ノ兵ヲ率キテ、突然、アサラ島ニ上陸シ、次ニ市民ノ財産ヲ掠奪シ、例ノ如ク、虐殺強姦、侮辱等凡ソ酸鼻スベキホドノ惡事ヲ極メ、然ル後火ヲ放チテ、一炬ノ下ニ全市ヲ焦土ト爲シ、島人ノ軍艦百餘艘ヲ奪ヘリ。其ノ掠奪ヲ免カレタルハ、只逃亡人ノ乘リ組ミタル十九艘ノ船舶ノミナリキ。サテ土軍ハ斯ノ如ク殘虐ヲ恣ニシタレドモ、強壯ナル島兵六百餘人ハ、

尙固シ城ヲ守リテ、二日二夜ノ間ニ概テ戰死シ、第三日ニ至リテハ、殘兵
僅ニ二百人ニ過ギザルモ、防戰シテ更ニ降ルベキヤウナシ、既ニシテ地
雷火ヲ裝置シ、城内ニ侵入シタル土軍二千餘人ヲ焚死セシメ、已レ等モ
亦共ニ焚死セリ。天晴レ勇士ノ最後ト謂フヘキナリ。
是ヨリ於テアサラ全島遂ニ土軍ノ手ニ落チ、土軍ハ例ノ殘虐手段ヲ用
テ、一万七八千人ノ住民ヲハ或ハ殺戮シ、又ハ奴隸ニ販賣セリ。
希臘ノ艦隊長ミオリリスハ、此ノ凶報ニ接シテ大ニ驚キ、急ニ快船ヲ
率ヰテ、ブサラ島ニ進ミ、突然土耳其ノ艦隊ヲ擊テ、其ノ二十七艘ヲ破
リ、又急ニ陸上ナル土軍ヲ襲ヒケレバ、土軍恐レテ遁逃セリ。
土軍又モヤサモス島ヲ蹂躪セントシタリシガ、有名ナルカナリスノ速
ニ同島ヲ援ケタルニ依リ、土軍志ヲ得ズシテ去レリ。

希臘ノ立憲黨ハ、一千八百二十四年七月甲申ノ暮ニ至リテ、始メテ能ク其

團結ヲ鞏固ニシ、畢生ノ力ヲ盡シテ土軍ヲ防ギ、獨立ヲ維持スルノ志ヲ
決セリ。

是レヨリ先キ、歐洲諸強國ハ、希臘獨立ノ義舉アルヲ聞クモ、殆ンド對岸
ノ火ヲ視ルガ如ク、遂モ痛痒ノ感ヲ起サザリシガ、獨リ英國ノミハ救援
ノ志ヲ興シ、彼ノカンニンクノ如キハ、職務上ヨリ着々其ノ歩ヲ進メ、又
一箇人トシテモ、パイロンノ如キモノ少ナカラザリキ。然レドモ猶大ニ
彼レ等ヲ助クル能ハザリシガ、今ヤ西歐羅巴諸國ノ人々ハ、大ニ希臘人
ヲ憫ムノ心ヲ起シ、殊ニ君士但丁堡、キオ島、アサラ島等ニ於ケル殘酷ノ
處置ヲ聞キテ忿恚ノ念ニ堪エズ、咄、何者ノ異教徒カスル惡魔的所業ヲ
恣ニスルヤトノ嘆聲ハ、期セズノ衆口齊シク發セリ。嘗ニ然ルノミナラ
ズ、元來歐洲ノ文明ハ、希臘人實ニ之ガ先鞭ヲ着ケ、歐洲人ハ希臘人ノ恩
澤ヲ被ムルヲ鮮少ナラザルガ故ニ、今彼レ等ノ獨立ヲ企ツルニ際シ、之

ヲ援ケテ其ノ素志ヲ遂ゲシメント欲スルハ人情ノ自然ナリ。左レバ、獨逸、佛蘭西、伊太利、瑞西ノ諸國ニ於テハ、希臘同盟協會ナルモノヲ設ケテ、兵士及ヒ軍資ヲ彼ノ國ニ送ラントシ、曩キヨ一千八百二十二年我カ文政五年壬午ヲ以テ、其兵ヲ船ニ乗セ、佛國ナルマルセイユ港ヨリ纜ヲ解キテ戰地ニ向ハシメタリ。彼ノ獨逸ウチルデンブルグノ俠客、將軍ノーマン伯ノ如キモ亦其ノ中ノ一人ナリ。但シ伯ハ翌二十二年我カ文政六年癸未十一月重傷ヲ被ムリテ、ミソロンゴニ死セリ。

英國ニ於テハ、希臘ノ爲メニ八十萬磅ノ公債ヲ募集シ、其ノ四萬磅ハ、一千八百二十四年我カ文政七年甲申三月ヲ以テ希臘ニ達セリ。

夫レ斯ノ如ク歐洲諸國ハ、既ニ希臘人ニ同情ヲ懷キテ、漸ク運動ニ着手セリ。然レドモ猶未ダ大ナル援助ヲ與フルノ場合ニハ至ラザリキ。

獨逸ノノーマン、エーレンフエルス伯、姓名ハナチャールズ、フレデリック、レブレヒト。一千七百八十四年我カ天明四年甲辰スツツトガルトニ生ル。有名

ナル將軍ナリ。夙ニ奧國ノ軍籍ニ入りテ、陸軍大佐ニ累進シ、尋テ拿破崙一世ニ事ヘテ、一千八百十二年我カ文化九年壬申乃至十三年我カ文化十年癸酉露國ノ役ニ輕騎兵ノ司令官タリ。ライプシツクノ戰ニ、拿破崙ガ一敗地ニ塗レテヨリ後、ノーマン伯ハ、佛國ヲ敵トシテ戰フヲ嫌忌シ、索遜尼ニ退ケリ。同二十二年我カ文政五年壬午希臘革命ノ亂ノ起ルヤ、伯ハ數名ノ獨逸將校ト共ニ同地ニ到リ、ナヴァリノ城ノ司令官タリ。

既ニシテ、コリンズナルフキルヘレンズニ於テ一大隊ヲ編制シ、マヅロコルデイトニ在ル軍ト聯合シ以テ、飽ク迄モ希臘人ヲシテ勝利ヲ得セシメント勉メシガ、惜ムベシ。ペタニ於テ重傷ヲ被リ、同年遂ニミソロンゴニ於テ死セリ。

第二章 埃及副王メヘメット、アリー、父

子、希臘軍ト戰フ

今ヤ希臘軍ノ兵士ハ漸ク疲弊シ又ハ死亡シテ強壯ノ者ハ甚少ナク愛國者ノ心ハ矢竹ニ逸ルトモ其ノ漸ク爲スナキニ至ルノサマハ宛ナガラ次第ニ四肢ヲ截斷セラレタルニ異ナラズ若シ此勢ヲ以テ推サバ精盡キ功空シウシテ恨ヲ吞デ死スルノ日モ蓋シ遠キニアラザルベシ加フルニ土廷ハ當時ノ雄將ト呼ハレタル一英傑ニ囑シテ希臘ヲ征討シシメントス之ヲ譬フレバ力士ヲシテ小兒ノ腕ヲ扭ラシムルト一般ナリ此ノ雄將ヲ誰レトカスル埃及ノ副王メヘメツトアリ是レナリメヘメツトアリノ傳ハ本書附録ノ中ニ載セタリ

メヘメツトアリハ元來ルメリア州ノ人ニシテ歐洲人種ト蒙古人種トノ雜種ナリ。藝キニ一千七百九十九年我カ寛政十一年巳未アルハニア軍ヲ率ヰテ埃及ニ赴キ同地ヲ鎮定シテ副王ニ任シテヨリ藝キニ手足ノ如クニ使用シテ尼羅河ノ兩岸ニ掠奪虐殺ヲ恣ニセシメタルマメリユリ兵七八百名ヲ謀殺シ更ニ歐洲ノ新式ニ從テ麾下ノ陸軍ヲ編制シ佛國ノ

將校ヲ聘シテ訓練ノ任ヲ委テタリ而シテメヘメツト能ク人ヲ用ユルノ妙ヲ得タルガ故ニ佛將等喜デ其ノ職ニ執掌シ頗ル功績ヲ奏セリ。中ニ就キテセーベ大佐即チ晩年ソリマンベールバシヤト云ハレタル人ノ如キハ殊ニ信任セラレタリキ。

メヘメツト夙ニ大望ヲ懷キ埃及ノ副王タルヲ以テ甘ンセズ早晚君士但丁堡ヲ掌握セント欲セリ。左レバ可及的士卒ヲシテ交戦ニ熟練セシメ兼チテ遠近ニ武名ヲ振ヒ土耳其ノ士卒ヲシテ心ヲ我レニ通セシメント欲シタレバ今ヤ土廷ヨリ希臘征討ノ事ヲ命セラルノ及ヒテ喜デ其ノ命ニ應シ海陸兩兵ノ精ヲ擇ビテモレア半島及ヒクレイト島ニ出發セリ。初メ一千八百二十一年我カ文政四年辛巳土軍ガクレイト島ニ残酷ノ擧ヲ行フヤ「スファキオナス」種族ト名クル剛勇ナル種族ハ山間ノ僻地ヨリ現ハレ來リテ大ニ土軍ヲ破リ之ヲシテ辟易セシメタリシガ今ヤ同二十三年我カ文政六年癸未ノ末ニ及ビメヘメツトアリハ麾下ノ艦隊

ハ、同島ヲ撃テ、到ル處殘滅セザルナク、火ヲ放チテ全嶋ヲ灰燼ニ歸セシメ、又老壯ヲ屠戮シ、婦女ヲ汚辱スルナド、暴行至ヲサル所ナシ。ベルムスノ洞穴ニ逃レタル婦女幼童ノ如キハ、火煙ニ咽ビテ悉ク死シタリト云フ。左レハ流石剛毅ノ「スファキオナス」種族モ、進退茲ニ谷マリテ、酋長以下悉ク降服シ、埃及人ノ爲メニ獄ニ下サレ、虐待セラレタリ。

クレイト島既ニ埃及ニ降服セル以上ハ、希臘ノ海軍ハ殆ンド皆無ニ屬スベク、希臘諸島ミナ埃及ノ爲メニ蹂躪荒廢セラレントス。嶋民ノ苦心蓋シ思フベキナリ。

一千八百二十四年 我カ文政七年甲申 七月メヘメツト、アリーハ、其ノ繼子イブラヒム、附録ノ中ニ傳アリニ命シ、一万七千ノ兵、五十艘ノ軍艦、四百艘ノ運送船ヲ率テ本隊トシテアレキサンドリア港ヨリ出發セシム。イブラヒム

ニ戰陣ニ在リテ戰鬪及ヒ兵略ヲ熟知シ、勇氣果斷ニ加フルニ殘忍酷薄ノ質ヲ以テセリ。今ヤ、父王メヘメツトノ命ヲ受ケテ、モレア半島ニ向フ

ヤ、其ノ心中ニ思考スラク。半島ノ住民ヲ悉ク虐殺スルカ、若シハ之ヲ埃及ニ移シ、亞刺伯人ヲ驅リテ茲ニ移住セシメント。

埃及ノ艦隊ハ小亞細亞ノ沿海ニ至リテ土耳其ノ艦隊ト相聯合シ、大舉シテ希臘ヲ撃ツトス。然ルニ有名ナル英國ノ海軍大將ミオリースハ、

百方手術ヲ盡シテ之ヲ襲撃シ、屢々其ノ計畫ヲ妨碍シケルガ故ニ。埃及軍兎角豫期ノ如キヲ能ハズ。流石軍器ニ富ミタルイブラヒムモ六艘ノ

大軍艦、五十艘ノ小軍艦ヲ失ヒテ、一時策略ニ苦ミ、クレイト島ニ退キテ其ノ年 一八一四年 過ゴシ、翌一十五年 我カ文政八年乙酉 ノ春ニ至リ、再ヒ二千ノ兵ヲ率

非テ、モレア半島ノ西部ニ上陸シ、艦ヲナヴァリノ港及ヒスファクテリヤ島ノ城堡ヲ陥レタリ。イブラヒムハナヴァリノ港ヲ奪ヒタルガ爲メニ頗ル利便ヲ得タリ。

希臘ノ方ニ於テハ、事既ニ焦眉ノ急ニ迫レルヲ見テ、非常ノ政策ヲ勵行シ、全國ニ大赦ノ令ヲ發シ、曩キニ立憲主義ニ反對シタルヲ以テハイド

テノ寺院ニ幽閉セラレタルコロコロニス以下十二人ノ首領ヲ免シテ悉ク青天白日ノ身ヲラシメ、コロコロニスヲ擧ケテ再ヒ陸軍大總督ニ任セリ。コロコロニス免サレテ、ノイブリアニ歸ルヤ、住民ニ向テ言ヘテク、今ヤ我カ國ハ危急存亡ノ秋ニ迫レリ、全國協同一致シテ以テ外敵ニ當ラザルベカラズ。主義ノ異同ノ如キハ問フベキニアラザルナリ。予ハ是レ迄心ニ有テタル不快ノ念ヲ束テテ之ヲ海中ニ投シ畢レリ。諸君亦須ラク予ノ如クセザルベカラズト。

イブラヒムハ、モレアヲ横斷シ、トリポリツザ府ニ進ミテ之ヲ陷レ、又ノイブリアニ向テ進撃セントス。會々英國ヨリ希臘へ援軍到來シ、英國艦隊長ハミルトン、ハイブラヒムノ軍ヲ途ニ撃テ大ニ之ヲ破リシカバ、イブラヒム敗レテ退去セリ。コロコロニスハ、北グルヲ追テ、イブラヒムヲトリポリツザニ襲撃セシガ、敵ノ反撃スル所ト爲リテ敗レ退ケリ。是レ埃及兵ノ長處短處ヲ未タ明知セザリシニ依リテナリ。爾來希臘

軍ハ、其ノ經驗上ヨリ、漸ク埃及兵ノ長處短處ヲ測知シ、沙漠タル平地ニ於テハ、到底彼レ等ニ敵スベカラズ、只奇兵ヲ以テ側面又ハ背後ヨリ其ノ虛ニ乘シテ之ヲ襲フ時ニ於テノミ、或ハ之ヲ破リ得ベキヲ思考セリ。左レバ、イブラヒムノ軍ガ、モレア半島ヲ横行スルニ當リテ、希臘軍毫モ之ニ抵敵セズ、只管其ノ爲スガ儘ニ一任セリ。

是時ニ當リテ、土將レシツド、パシヤハ、大軍ヲ率ヰテ、ミソロンシ、城ヲ攻撃ス。ミソロンシハ、エトリリアニ於ケル希臘堅城ノ一ナリ。而カモ城兵三千ニ滿タズ、糧食甚ダ乏シク、軍器亦粗惡ナリ。サレド守兵ハ身ヲ以テ國ニ殉スルノ志ヲ決シタレバ、畢生ノ力ヲ盡シテ敵ヲ防キ屢々戰テ屢々之ヲ破レリ。加フルニ希臘艦隊長ミオリース、及ビサクタリス等ハ海上ヨリ城兵ニ應援シ、土耳其ノ艦隊ヲ破リテ糧食彈藥等ヲ城内ニ送リケレバ、城兵之ニ力ヲ得テ益々奮戰シ、土軍ヲ死スルモノ既ニ九万人ノ多キニ及ヘリ。レシツド、パシヤ頗ブル辟易シ、一千八百二十五年 我カ文政九年乙酉 十

月ヲ以テ、將ニ圍ヲ解キテ退カントセリ。然ルニ土耳其帝マムード二世ハ決シテ退軍ヲ許サズ。レシツド、バシヤコ勅スラク、卿若シミソロンヲ城ヲ陥ル、一能ハズンバ、朕ハ卿ノ首ヲ斷テ其ノ怯懦ヲ罰スベシト。レシツド困、ワ果テ、姑ラク城ヲ遠卷キニシ、以テ時節ノ來ルヲ待テリ、攻圍ヨリ茲ニ至ルマデ凡ソ四ヶ月半ニ涉レリ。

然ルニ、イブラヒム、バシヤハ之ニ反シ、既ニモレア半島ヲ蹂躪シタルガ上ニ、今又一万ノ新兵ヲ得タリシカバ、海陸兩軍ヲ率ヰテ、ナヴァリノ港ヨリ船ニ搭シ破竹ノ勢ヲ以テミソロンヲ城ニ向ヒホメ久シカラズ、一千八百二十六年我カ文政九年丙戌一月九日遂ニ同城ニ達セリ。イブラヒムノ同地ニ着スルヤ、城小ニシテ兵少ナキヲ見テ、心ニ甚之ヲ侮リ、戯レニ大言ヲ吐キテ言ヘラク、噫々此ノ腐朽セル小籠ヨ、予ハ僅々二週ヲ過ギズシテ之ヲ拔クベシト。

城内ニ於テハ、ミオリース更ニ二ヶ月間ノ彈藥糧食ヲ貯ヘ、可及的防戰

ノ準備ヲ整ヘタリ。イブラヒム伴リテ城兵ヲ悉ク許容スト稱シ、之ガ降ヲ誘フ。然レドモ城兵如何デカ彼ノ惡魔ノ甘言ニ誘惑セラルベキ。况ンヤ誠忠決死ノ將卒タルチャ。イブラヒム是ニ於テ戰ヲ開キ一撃ノ下ニ之ヲ破滅セント期シタリシニ、豈圖ランヤ、城兵ハ彼レガ豫想外ニ強ク、彼レ却テ大敗セントス。

此ノ時士將レシツド、バシヤハ、イブラヒム、バシヤノ大敗シタルヲ見テ、心竊カニ之ヲ喜ビタリト云フ。今其ノ然ル所以ヲ察スルニ、曩キコレシツドハ、攻圍以來四ヶ月半ニ渉ルモ、城ヲ拔ク一能ハズ。却テ城兵ノ爲メニ毎度大敗ヲ被ムリタレバ、今若シイブラヒムガ一戰シテ城兵ヲ破リタランコハ、レシツド面目ヲ失ヒ、再ビ土帝ニ謁スル一能ハサルニ至ルベシ。然ルニ今イブラヒムガ敗レタルハ、取リモ直サズレシツドノ面目ヲ保ツ所以ナレバ、サテコソ竊カニ喜ビタリシナレ。

イブラヒムハ止ムヲ得ズシテ、レシツドノ援ヲ借リ、相共ニ聯合シテ再

ヒ攻撃ニ着手セリ。然レドモ城兵固ヨリ必死ヲ極メテ之ニ抵抗シケルガ故ニ、埃及ノ多勢ナルニモ拘ハラズ、將々佛國士官セーベ大佐以下老練ナル士官ガ攻撃ノ指揮ヲ司レルニモ拘ハラズ、容易ニ陥ル、トナ得ザリキ。不幸ニシテ城中糧食漸ク欠乏シ、飢餓ノ爲メニ饑ハレタルノ困狀ハ中々ニ筆紙ニ盡シ難ク、六尺ノ身ヲ有スル壯夫ニシテ、辛クモ一握ノ海草ニ終日ノ飢ヲ凌ガントシ、鼠ヲ捕ヘ、虫ヲ取り得ルガ如キハ稀有ノ僥倖ナリトハ、豈憐ムベキノ至リニアラズヤ。

左レハ市街モ亦破壊シテ滿目轉々荒涼ヲ極メ、衣服乏シクシテ寒氣ニ堪エ難ク、手足龜裂シテ殆ント朱ニ染ミ、苦惱實ニ甚シ。是ニ於テ希臘人ハ老幼婦女ニハ逃避セシメ、壯者ハ留マリテ死戰セント欲シ、一千八百二十六年^{我カ文政九年丙戌}四月二十二日午前二時ノ頃、三千ノ希臘兵ハ、老幼婦女若クハ病者凡ソ五千人ヲ看護シテ、ミノロシオン城ヲ突キ出テ、小艇ニ搭シテ城壕ヲ踰エントスルニ、敵兵ノ探知スル所ト爲リテ、四面ヨリ環繞

セラレ、如何トモスルヲ能ハズ、且ツ此レ等ノ敵兵ハ、口々ニ「城中ニ引キ返セ、城中ニ引キ返セ」ト叫ビテ、其ノ聲、耳ヲ聳スルバカリナリシガバ、希臘ノ老幼婦女又ハ病人等或ハ驚キテ城中ニ歸ルアリ、又ハ「シゴス山ニ逃ル、アリ、然ル間ニ埃及兵ハ城中ニ闖入シテ、男子ヲバ悉ク之ヲ屠リ、女子ヲバ之ヲ辱カシメ、又ハ奴隸ニ賣リケレバ、彼ノ再ヒ城中ニ歸リタル輩ノ如キモ、一人トシテ此ノ不幸ヲ免カレサリキ。シゴス山ニ逃レタルモノモ亦同山中ニ牧畜ヲ業トスルアルバニア種族ノ救助ヲ仰ギシニ、アルバニア種族ハ彼レ等ヲ救助セザルノミナラズ、却テ之ヲ攻撃シケレバ、之ガ爲メニ生命ヲ失フモノ、兵卒及ヒ人民ヲ併セテ無慮千有餘名アリ。只ノト、ボツザリス即チ(マルコ、ボツザリスノ伯父)ノ部下ニ屬スル一千八百名ノ兵士ノミ安全ニサロナニ逃ル、トナ得、其ノ後雅典ニ到リテ再ヒ交戦ニ從事セリ。暴虐ナル土埃兩兵ハ亦財貨ヲ掠奪セント欲シ、市内各家ニ侵入シケルガ、戶主ミツカラ火ヲ放チテ焚死シケレバ、

土埃兩兵モ亦其ノ災ニ罹リテ同ク焚死シ又ハ衣食ニ窮シテ死スル者少ナカラザリキ。

此ノ戰ニ際シ希臘ノ艦隊長ミオリースハ城兵援助ノ爲メニ不完全ナル艦隊ヲ率ヰテ來リシガ敵兵ノ城ヲ三匝ニ圍メルヲ以テ如何トモスルヲ能ハズ空シク之ヲ傍觀スルノミナリシトゾ。

是ヲ以テイブラヒムハ遂ニ全捷ヲ奏スルヲ得タリ當時イブラヒムハ言ヘラク我レ等ハ氣候ノ惡シキニ由リテ人員逐日減少シ將ニ滯留スルニ堪エザラントシタリ故ニ城中若シ三週日ヲ支フルノ糧食アラシメタランコハ我レ等ハ之ヲ陷ルニ及ハズシテ退去セザルヲ得ザリシナラント。

イブラヒムハ此ノ戰ニ圖ラズモ其ノ兵ノ半ヲ夫ヒタレバ得失相償ハザルヲ嘆キモレアニ歸リテ暫ラク勇氣ヲ養ヒ然ル後再ヒ起テ暴行ヲ恣ニセントス然ルニ歸路山間ノ一種族ナルメーノチース種族ヲ襲

ハントシテ却テ彼レ等ノ爲メニ敗ラレケレバ止ムヲ得ズシテモトトシニ其ノ年ヲ過セリ。

土將レシツドパシヤハイブラヒムノ爲メニミソロンシ攻略ノ先ヲ制セラレテ心ニ恥ツル所アリ依リテ雅典ヲ攻略シテ會稽ノ耻ヲ雪ガント欲シ進テ雅典ナルアコロポリスヲ圍ム城將グラスハ勇敢ノ死士ニシテ其ノ妻亦有名ノ女丈夫ナリシカバ必死ト爲リテ防戦シ又英人ナヤーナコツクレインノ兩名佛人バヒエルヤレースカキス等モ力ヲ盡シテ防グト雖モ衆寡敵スルヲ能ハズ城遂ニ陷レリ時ニ一千八百二十七年^{我が文政十年丁亥}六月五日ナリ。

此ノ城ノ陷ルト共ニ中央希臘ハ全ク土軍ノ占ムル所ト爲レリ。是ニ於テイブラヒムパシヤハ以爲ラク予ハ今ヨリ二大激戦ヲ爲シ以テ希臘ヲ全ク征服セント。所謂二大激戦トハ(第一)メツセニアヲ撃テテ之ヲ殘滅シ進テメーノチヲ陷ル、(第二)土耳其埃及ノ艦隊相聯合シテ

希臘海軍ノ巢窟タルハイドラヲ陷レ、海上ヨリ進ミテ、ノイブリアヲ略取スルヲ是レナリ。

此ノ時ニ際シテ、土埃兩軍漸ク戰線ヲ進メ、セルモビレヨリマタパン岬ニ至ル迄ノ希臘全地ハ、悉ク兩軍ノ征服スル所ト爲リタレバ、希臘ノ運命ハ既ニ旦夕ノ間ニ迫リ、其ノ危キヲ雷ニ累卵ノ比ニアラザルナリ。然ルニ歐洲各國中豈一ノ之ヲ救フベキ義國ナキカ。各國共ニ此ノ舊恩アル古國ノ滅亡シ、忠臣義士ノ怨ヲ吞デ死スルヲ傍觀スルカ。夫レ然リ、豈夫レ然ランヤ。歐洲各國ハ夙ニ之ヲ救ハント熱望シタルモ、頑僻固陋ナル埃相メタルニツクガ其ノ中間ニ立チテ之ヲ妨碍シタルガ爲メニ、迅速ニ歩ヲ進ムルヲ能ハザリシノミ。左レバ、ミソロンジ城ノ陷ルヤ、歐洲各國ノ仁人報ニ接シテ慨嘆措クヲ能ハズ。曩キニ瑞西人及ヒ獨逸人ノ設立ニ成リタル希臘同盟會ハ、數万金ヲ送リテ、晚近奴隸ニ賣ラレ、又ハ囚虜ト爲リテ獄中ニ呻吟セル希臘人ヲ贖ヒ返ヘシ、巴威里公ルイ、瑞西

ゼチヅアノ銀行家アイナード、佛國ノ有志家シャトローブリアン及ヒラフアエツト等ノ如キモ亦大ニ力ヲ盡シ、佛國ノ王政黨ブルボン黨モ之ニ左袒セリ。殊ニ最モ力ヲ盡シタルハシャトローブレオング及ヒラフアエツトノ二氏ナリキ。

シャトローブリアン子、姓名ハフランシス、アウガスダス、一千七百六十八年^{我カ明和五年戊子}ヲ以テ、セント、マロニ生ル。佛國有名ナル著述家ナリ。初メ宗教家タルベキ教育ヲ受ク。後故アリテ軍籍ニ入レリ。夙ニ冒險ノ事業ヲ爲シタルノ末、同九十一年^{我カ寛政三年辛亥}西北ノ通路ヲ探檢セント欲シテ亞米利加ニ赴キ、合衆國ニ於テ華盛頓ニ面會シタリシヲアリ。夫レヨリ同國ノ邊境人跡未ダ到ラザルノ地ヲ探檢シテ、歸リテ「レイン」及ヒ「アトラス」ヲ著セリ。

既ニ佛國ニ歸ルヤ、コンデノ軍ニ入り、同九十三年^{我カ寛政五年癸丑}佛國ヲ逐ハレテ倫敦ニ到リ、落魄ヲ極メタリ。倫敦ニ留マルルヲ七年。佛語、羅句語ヲ

教授シ、又ハ書肆ノ爲メニ是レ等ノ原書ヲ翻譯シテ辛キ世ヲ送レリ。
同九十七年 我カ元政九年丁巳 倫敦ニ於テ『革命論』ニツセー、オン、レヴナリユーシヨシチ公コシ、一千八百年 我カ元政十年庚申 春ニ至リテ、始メテ巴里ニ歸ルヲ得タリ。

シヤトリーブリヤン既ニ巴里ニ歸ヘリテ後、『メルキユール』新聞紙上ニ彼ノ『アトラス』ヲ連載シ、尋デ『センラス、オフ、シリスタアニター』ヲ連載セシニ、會々第一等議政官ノ注目スル所ト爲レリ。然レドモ拿破崙ハ、シヤトリーブリヤンノ意見ヲ快トセズ。シヤトリーブレオンクモ亦々絶エズ著述ニ從事シタルニモ拘ハラズ、爾來世人ノ注意ヲ惹クホドノモノヲ草セザリキ。

拿破崙ノ帝政顛覆シテ後ナ、シヤトリーブリヤン、有名ナル小冊子『拿破崙トブルボン家』ツ、ボナバルテ、エ、デ、ブルボンチ公ニシテ頗ル世人ノ喝采ヲ博シ、殊ニ路易十八世ノ頌讚スル所ト爲レリ。路易十八世言ヘ

ラク。此ノ書ハ、十万ノ軍ヲ以テ王政復古ヲ保護スルニ均シト。爾來屢々恩賞ヲ被リ、子爵ニ叙セラレ、公使トシテ各國ニ駐劄セリ。一千八百三十年 我カ天保元年庚寅 ボルボン朝倒レテ、シヤトリーブリヤン復々貧困ノ舊態ニ復セリ。

同四十八年 我カ嘉永元年戊申 シヤトリーブレオンク死ス。享年八十一歳。

ラ、フアエツト侯姓名ハ、シルベル、モツナー、一千七百五十七年 我カ寶曆七年丁丑 オートロイル州シヤウアクナツクニ生ル。佛國有名ナル貴族軍人ナリ。年二十。自費ヲ出シテ中軍艦一艘ヲ購置シ、搭シテ米洲ニ赴キ、愛國者ノ軍ニ入りテ英軍ト戦ヲ交ユ。獨立戰第二年ノ終ニ、一旦本國ニ歸リシガ、久シカラズシテ兵士ヲ率井、金銀船舶ヲ携ヘテ復々米洲ニ赴キ、ヴァーシニアノ役、ヨークタウンノ攻圍ニ軍功ヲ顯ハシ、其ノ才幹氣力大ニ合衆國共和政治ノ建設ニ功アリ。

一千七百八十七年 我カ天明七年丁未 此ノ名聲ノ爲メニ、佛國ニ於テ名士議會ア

ツセムブリ、オフ、ノイテイブルスノ議員ニ選ハレ、同八十九年我カ寛政元年己國民議會ナシヨナル、アツセムブリノ議員ニ選ハル。侯ハ此ノ資格ヲ以テ、當時流行ノ共和思想ヲ辨護シ、第一回人權檄文ヲ提出セリ。此ノ檄文ハ、結局憲法ノ根本ト爲リタルモノナリ。同年七月護國隊ノ司令官ニ任シ、部下ノ兵卒ニ命シテ三色ノ帽紐ヲ用シム。但シ其ノ青赤二色ハ巴里區ノ旗幟ヲ表シ、白色ハ佛國百合花ノ旗幟ヲ表セルモノニシテ、將來佛國旗幟ノ起原タリ。侯其ノ年ノ十月五日、六日ヲ以テ、皇室ヲ保護シ、同九十一年我カ寛政三年民ノ一揆ヲ起スヤ、侯護國兵ヲ率キテ彼レ等ヲシヨムプ、デ、マールコ破リ、北軍司令ノ任ヲ受クルニ及ヒテ、又同盟軍ヲフサリツプヴギル及ヒモイビユイヲ破ル。翌九十二年我カ寛政四年八月國民議會ノ委員ガ侯ヲコムペーンノ陣營ニ訪フテ其ノ勳靜ヲ窺フヤ、侯之ヲ捕ヘタルヲ以テ、議會ノ怒ル所ト爲リ、法外ノ罰ニ處セラル。コムペーンハ、侯ガ

佛王ノ避難所ニ充テントシタルモノナリ。侯是ニ於テ二三ノ友人ト共ニ佛境ヲ超エテ中立國ニ到ラントス。然レドモ埃人ノ爲メニ捕ヘラレテ、モラヴサアナルオルミユツ城内ニ幽閉セラレ、留マルト三年ニシテ、カムボ、フナルミノ條約ノ爲メニ許サレタリ。初メラ、フアエツトハ、痛ク拿破崙ノ大望ニ抵抗シタルヲ以テ、議政官政治ノ間ト雖モ、將テ帝政ノ時ト雖モ、更ニ公務ニ參與セザリシガ、一千八百十五年我カ文化二年帝ガエルバ島ヨリ歸ルニ及ビ、ラフアエツト選ハレテ衆議院議員ト爲リ、ウチートルローノ敗後、侯、ルシエヌノ訴ニ答ヘテ曰ク、吾人ハ、子ノ大兄ニ叙利亞炎熱ノ地ニ從ヒ、露西亞氷凍ノ沙漠ニ運命ヲ共ニシタリ。宇宙到ル處ニ散布セル佛人二百万ノ死屍ハ、吾人ガ彼レニ盡シタルノ証ニアラズヤ。然ルニ今彼レニ盡サザル所以ノモノハ、彼レノ爲メニ盡スハ、國民ノ爲メニ盡スニアラザルニ至リタレバナリト。

王政復古ノ後、代議士院ノ議員トシテ、立憲的自由ノ保護者タリ。一千八百二十四年^{我カ文政七年甲申}ラ、フアエツト合衆國ヲ訪問シ、人民ノ爲メニ最モ歡迎セラル。同三十年^{我カ天保元年庚寅}再ヒ護國隊ノ總督ニ任シ、同志ノ人々ト共ニ率先シテ、ルイ、フヰリツプ迎立ノ義ヲ主張ス。左レド、ルイ、フヰリツプノ位ニ即クヤ、ラ、フアエツトノ人望ヲ妬ミテ、之ヲ殺ガント欲シ、護國隊總督ノ官ヲ廢シテ以テ此ノ目的ヲ遂ゲントス。ラ、フアエツト之ヲ前知シ、ミヅカラ官ヲ辭セリ。爾來二人ノ間交情常ニ親密ナルヲ能ハザリキ。

ソモ、ラ、フアエツトハ、當時ノ大事件ニ緊要ノ部分ヲ占メタル人ニシテ、亞米利加ノ獨立戰ト云ヒ、一千七百八十九年^{我カ寛政元年己酉}及ヒ一千八百三十年^{我カ天保元年庚寅}ニ於ケル兩度ノ佛國革命ト云ヒ、ミナ其ノ主腦ノ一人タラザルコトナシ。人ト爲リ、統率ノ才ニ乏シト雖ドモ、愛國心ニ深ク、公平心ニ富メリ。彼レハ智力ヲ以テ勝グレタル人ト謂ハンヨリモ、寧ロ

感情ヲ以テ優リタル人ト謂フベキガ如シ。只其ノ欠點トスル所ハ、事ニ臨ミテ先見ト果斷トニ乏シキニ在リ。而シテ國家ノ安寧ノ策ヲ立テ、之ヲ行フニ適セズシテ、民心ヲ刺衝スルニ長セリ。著ハス所『雜錄』アリ。侯ノ死後一千八百三十七年^{我カ天保八年丁酉}乃至四十年^{我カ天保十一年庚子}ノ間ニ遺族之ヲ公ニセリ。

一千八百三十四年^{我カ天保五年甲午}巴里ニ沒ス。享年七十八歳。

佛國ノ王室即チナルボン朝モ亦希臘救助ノ事ニ興カリ、且ツ言ヘラク。「希臘愛國者ノ舉ヲ助クルハ、則チ回教徒ノ爲メニ篡奪セラレタル邦土ヲ基督教徒ノ手ニ恢復スルモノナリ」ト。是ニ於テ佛國衆議院ハ、我カ士官ノ中ニ、イブラヒムノ麾下ニ屬セルモノ多キヲ非難シ、政府カ之ヲ許スヲ痛ク攻撃シタリ。

第三章

カボヂストリア伯希臘ノ大統領

ニ任ス——英露兩國同盟シテ希臘
ヲ援フ——土軍大ニ敗レ、イブラヒ
ム、パシヤ降ル

希臘ノ愛國者ハ、曩キニ保守、立憲ノ兩黨相軋シテ、殆ント氷炭相容レザルノ形迹ナリシガ、土軍日々ニ猖獗ナルヨリ、深ク國家ノ前途ヲ憂ヒテ、舊來ノ感情ヲ打破シテ相一致シ、一千八百二十七年我カ文政十年丁亥四月十一日、トレゼン府ニ開ケル希臘國民議會ハ、カポヂストリア伯ヨソ、アントニトニ附録ニテ選ビテ、之ヲ大統領ニ任シ、向後七年ノ間其ノ職ニ在ラシ英將コクレイン伯及ヒチャーチノ二氏其ノ席ニ臨メリ。二氏ハ、當年ノ春、南米諸國ノ獨立ヲ助ケテ功績アル人々ナリ。
此ノ時ニ當リテ、英露兩國ハ、愈々希臘獨立ノ舉ヲ助クルノ策ヲ決シ、相同盟シテ之ニ應援スルコト爲セリ。前既ニ述ベシ如ク、英國外務大臣カ

ンニンクハ、少時ヨリ希臘ニ同情ヲ懷キ、且ツ希臘獨立ノ戰ヲ起シタリト聞キテ、之ヲ援クルニ意アリシカバ、一千八百二十五年我カ文政八年乙酉希臘ノ愛國者ミオリースハ、倫敦ニ到テ、希臘援助ノ義ヲ依頼セシガ、當時カンニンクハ答フラク。今ニ於テ英國獨リ之ヲ援助スルコト能ハズ。然レモ須ラシ同盟各國ト謀リ、相聯合シテ仲裁ヲ議スベシト。是レカンニンクハ心ニ單獨ノ援助ヲ欲セザルニアラザルモ、時機ノ未タ之ヲ許サズルヲ以テ、斯クハ拒絕シタルナリ。幾バクモナクシテ、カンニンクハ、時機正コ會セリトナシ、遂ニ果斷ノ處置ヲ行フニ至レリ。今左ニ聊カ之ヲ述ヘン。
→一千八百二十五年我カ文政八年乙酉十二月一日、露帝歷山一世弒セラレ、皇太子ニコラス其ノ位ヲ嗣グ。之ヲニコラス一世ト稱ス。ニコラス、人ト爲リ、活潑畢斷。父帝ガ一コメタルニツクニ制御セラレ、埃廷ノ意見ニ默從シタルガ如キノ比ニアラズ。殊ニ彼得大帝及ヒカタリナ女帝等ノ遺志ヲ繼ギテ、漸ク吞噬ノ慾ヲ逞ウセント欲スルノ兆候ヲ呈ハシケルニ依リ、カン

ニング以爲ラク。此ノ人ヲ利用シテ事ヲ施スルハ、必ラズ爲ラザルナカ
ラント。依リテウエリントン公ヲ聖彼得堡ニ遣ハシテ、帝ノ即位ヲ賀セ
シメ、徐ロニ帝ヲ籠絡スルノ策ヲ施セリ。カンニンクノ手腕亦敏ナリト
謂フベキナリ。

一千八百二十六年^{我カ文政九年丙戌}四月四日、英露兩國相同盟シテ、土耳其、希臘ノ
間ヲ調停スルヲ勉ム。但シ英露ノ意ハ、希臘ヲ半獨立國ノ地位ニ進メ、
其ノ土耳其ニ對スル關係ヲシテ、多惱河畔諸國、又ハバルカン半島諸國
ノ君主ガ土耳其ニ對スルト恰カモ同一様ヲラシムルニ在リ。左レハ英
露ハ互ニ調停ノ責任ヲ分擔シ、條約ヲ結ベリ。

既ニシテ又以爲ラク、他ニ一強國ヲ加エ、三國同盟シテ以テ調停ニ從事
スルニアラズンバ、頑陋ナル土廷ノ爲メニ聽カレザラント。依リテ佛國
ニ謀リテ其應援ヲ得、三國ノ全權大使相聯合シテ、土廷ニ向テ、談判ヲ開
キ、休戰ヲ勸告シタリ。然ルニ土帝マムード二世ハ、其ノ勸告ヲ拒絕スラ

ク、土耳其ハ固ヨリ獨立國ナレバ、須ラク其ノ所好ニ從テ進退スベキノ
ミ。朕ガ此邦ヲ統治スルハ、猶歐洲諸國ガ各自ノ領國ヲ統治スルガ如シ。
他國ノ干涉ノ如キハ朕ノ堪ユベキ所ニアラザルナリ。敢テ辭ス」ト。

英露佛ノ三國ハ此ノ拒絕ニ逢フテ大ニ憤リ、且ツ他ニ策略ヲ用ユベキ
ノ必要ニ迫リタレバ、乃チ一千八百二十七年^{我カ文政十年丁亥}七月六日三國ノ代

表者ハ倫敦ニ會シテ同盟ヲ結ビ、協心戮力シテ以テ和局ヲ了セシムベ
ク、萬一止ムヲ得ズンバ、斷然三國ノ兵威ヲ用ヰテ脅迫手段ヲ行ヒ、以テ
和局ヲ了セシムベキトニ決セリ。

既ニシテ再ヒ土廷ニ向テ談判ヲ試ミ、且ツ慰メ、且ツ脅カシテ、以テ百方
講和ノ歩ヲ進メント勉メタリシニ、土廷ハ尙頑然前說ヲ主張シ、毫モ三
國ノ言フ所ヲ聽カザリシカバ、三國ハ是ニ於テ各々艦隊ヲ希臘海ニ派
遣シ、面シテ英國ハ艦隊長サー、エドワード、コヅリントンヲシテ、露國ハ、
ハイデン伯ヲシテ、佛國ハ、リグノーヲシテ各々之ガ司令官ヲシメタ

英國ノ艦隊長サード、エワード、コヅリントン(グランド、クロッス、オフ、ハス爵)ハ、一千七百七十年我カ明和七年庚寅生ル。同八十三年我カ天明三年癸卯海軍コ入り、同九十三年我カ寛政五年癸丑中尉ニ任ス、同九十四年我カ寛政六年甲寅ホー卿ノ部下コ軍艦「チャイロツテ皇后」號ニ搭シテ、佛軍トブレストノ沖ニ戦ヒ、大ニ之ヲ破ル。此ノ際コヅリントンハ、書ニ通テ齎ラシテ本國ニ到レリ。此ノ戦功ニ由リテ大尉ニ昇任シ、同九十七年我カ寛政九年丁巳ニ至ルマデ常ニ現役ニ在リ。同年ヨリ久シク非職タリシガ、一千八百五年我カ文化二年乙丑ニ至リテ、第七十四艦「オリオン」號ノ艦長トシテ、トラファアルガリーニ戦ヒ、同八年我カ文化五年戊辰「ブレイキ」艦長ヲ命セラレテ、ウタルチエルン和蘭地遠征ニ伴ヒ、同九年我カ文化六年己巳スケルデ上ヲ略ス。功ヲ以テ公衆ノ爲メニ感謝セララル。爾來三年ノ間西班牙征討ニ從事シ、同十三年我カ文化十年癸酉英國ニ歸ル。同十四年我カ文化十一年甲戌英米ノ間ニ海戦ノ起ルヤ、コヅリントン、米國ニ航

シテ、コウ、オルレンスヲ攻メ、翌十五年我カ文化十二年乙亥英國ニ歸リテ、「ナイト、コムマンドンダー、オフ、ゼ、ハス」勳章ヲ拜受ス。是レ氏ガ國家ニ盡セシ軍功甚大ナルヲ以テナリ。

同二十一年我カ文政四年辛巳コヅリントン、海軍中將ニ昇任シ、同二十六年我カ文政九年地中海艦隊司令官ニ補セラレ、露佛兩國ノ艦隊ト聯合シテ、土耳其、埃及兩國ノ艦隊ヲナヴァリノニ破ル。實ニ一千八百二十七年我カ文政十年丁亥十月二十日ナリ。功ヲ以テ「ナイト、グラン、ドロッス、オフ、ゼ、ハス」勳章ヲ賜ハル。左レド翌二十八年我カ文政十一年戊子地中海ヨリ呼ビ還サレタリ。

同三十二年我カ天保三年壬辰デヴチンボント州選出ノ衆議院議員ト爲リ、爾來再度選舉セラレタリ。同三十七年我カ天保八年丁酉海軍大將ニ昇任シ、同三十九年我カ天保十年丁亥ポーツマウス總督ニ補セラレタルヲ以テ、衆議院議員ノ職ヲ辞セリ。

同五十一年我カ嘉永四年辛亥倫敦ニ没ス、享年八十二歳ナリ。

是ノ時ニ當リテ、土耳其及ヒ埃及ノ聯合艦隊合セテ一百二十六艘ハ、ナ
ヴアリノ港ニ在リ、ハイドラチ攻略蹂躪スルヲキオス島ニ於ケルガ如
クセント欲シ、將ニ同港ヨリ纜ヲ解カントス。時正サニ一千八百二十七
年^{我カ文政}九月二十五日、英國艦隊長コヅリントン、及ヒ佛國艦隊長リッ
ニ^{年丁亥}ノ兩氏ハ、埃及副王ノ子イブラヒム、パシヤニ會ヒテ、戰爭ヲ
止ムヘキヲ勸告シ、イブラヒム亦容易ク之ヲ肯諾シテ暫ク干戈ヲ戢
メ、且ツ言ヘラク、ナヴアリノ港ニ碇泊シテ以テ君士但丁堡、若クハアレ
キサンドリア府ヨリ答辭ノ來ルヲ待タント。
夫レ斯ノ如シ。故ニ此ノ上ニ風波ナクンバ、戰爭或ハ止ミタリシナラン。
然レドモ希臘人ハ、三國同盟ノ武威ヲ恐レテ陽ニ其ノ要求ニ從ヒタル
モ、其ノ實ハ、飽ク迄モ獨立ノ目的ヲ遂ゲント欲シ、半途ニ中止ズルヲ好
マザルガ故ニ、竊カニ戰備ヲ整ヘ、近日ヲ期シテ土耳其、埃及ノ艦隊ヲ攻
撃セントス。會々英將ヘスナンクスナルモノ、希臘軍應援ノ爲メニ英

國軍艦ヲ率井來リシガ、九月三十日、土耳其ノ艦隊七艘ヲサロナ島ニ擊
チテ之ヲ破リ、且ツ埃國ノ軍艦ヲ奪ヒ、剩ヘコリンス灣ノ封鎖ヲ破リテ、
モレア半島ト、西ヘラストノ聯絡ヲ恢復シタリシカバ、イブラヒム、パシ
ヤ之ヲ聞キテ大ニ怒リ、急ニメツセニアノ諸村落ヲ燒キ拂ヒテ、菓樹六
万株、橄欖樹二万五千株ヲ伐除シ、以テ希臘ノ富源ヲ滅シ、又同時ニ二分
隊ノ海軍ヲコリンス灣ニ送リテ戰鬪ニ從事セシメントセリ。
是レヨリ先キ、英國艦隊長コヅリントンハ、三國同盟艦隊ノ總督ニ任セ
シガ、今ヤイブラヒムノ分隊襲ヒ來ルト聞キ、急ニ艦隊ヲザンデ島ノ正
面ニ排列シテ以テ敵艦ノ灣内ニ進入スルヲ禦キ、且ツ盛ンニ敵ヲ砲擊
シタリシカバ、敵艦辟易シテ退キ去レリ。
三國同盟又イブラヒム、パシヤガメツセニアニ於テ乱暴ヲ恣ニスルト
ノ報ニ接シケレバ、直ニ南進シテ、ナヴアリノ灣ニ向ヘリ。ナヴアリノ灣
内ナル土耳其及ヒ埃及ノ艦隊ハ、馬蹄形ニ排列シテ以テ敵ノ來ルヲ待

ナ、イブラヒム、パシヤハ三國艦隊長ノ勸告ヲ避ケント欲シテ、去リテピ
ルゴスニ向ヘリ。但シ是レヨリ四日以前ノ事ナリ。
此ノ時ニ際シテ、土耳其及ヒ埃及ノ艦隊ハ、相合シテ百三十艘ノ多キア
リ。而カモ其ノ中ノ八十九艘ハ、堅牢ナル軍艦ニシテ、二千四百二十八門
ノ大砲ヲ備ヘタルニ、同盟軍ノ艦隊ハ、僅ニ二十七艘ニ止マリテ、其ノ大
砲ハ一千二百七十六門ニ過ギズ、通常ノ例ヲ以テ推スルハ、萬勝算ナキ
ニ似タリ。然レドモ英將ゴヅリントンハ、胸ニ六韜三略ヲ蓄ヘケレバ、敵
ノ大軍ヲ物トモセズ。其ノ乘艦「亞細亞」號ヲハ、土耳其ノ軍艦ヨリ拳銃ノ
彈丸スラモ達スベキ地位ニ投錨シテ、部下ニ令スラク。敵ノ發砲セザル
間ハ、我レヨリ決シテ發砲ス、ベカラズ」ト。少遷アリテ敵頻リニ發砲セ、我
ガ兵死スルモノ數名。左レド、ゴヅリントン自若トシテ更ニ動ズル色ナ
ク、猶部下ヲ戒メテ發砲スルコトナカラシム。既ニシテ土耳其總督ノ艦中
ヨリ砲ヲ放ツヤ、ゴヅリントン始メテ令スラク。發砲スベシ」ト。英艦發砲

ニ着手スルヤ、縱横自在ニシテ、左右ノ敵艦ヲ沈没セシメ、佛艦、露艦モ亦
同シク功績ヲ奏セリ。(此ノ際同盟艦隊ハ、號令嚴明、秩序整頓シ、士卒能ク
紀律ヲ守レドモ、土耳其隊ハ、紛乱錯雜シテ、號令更ニ行ハレズ。周章狼狽
セル狀實ニ不体裁ヲ極メタリト云フ)
此ノ戰ニ、双方合セテ三千以上ノ大砲ヲ放チケレバ、其ノ聲宛ナガラ百
雷ノ一時ニ鳴動スルガ如ク、天地之ガ爲メニ震ヒ、山谷之ガ爲メニ轟キ
ス。此ノ戰ノ始マリタルハ、午後二時ナリシガ、同六時ニ至ルマデ、前後凡
ソ四時間ニ涉リテ、土軍ノ死スルモノ七千有餘人。軍艦ノ破壊セルモノ
百餘艘ノ多キニ及ヒ、餘ス所ハ僅ニ二十九艘ニ過ギズ。生存セル士卒ハ
皆恐怖シテ本國ニ逃遁シ、再ヒ戰フベキ勇氣ヲ失ヘリ。
(土耳其軍艦ノ破壊セルモノ、斯ク百餘艘ノ多キニ及ヒケレバ、海中一
圓ニ破壊セル艦材ヲ以テ填充シ、殆ント寸地ヲモ餘サズ。殊ニ土軍ミ
ヅカラ其ノ破壊セル軍艦ヲ燒キタリシカバ、其ノ破裂セル艦ハ轟然

トシテ終夜眠ヲ妨ケタリト云フ。

イブラヒム、バシヤハ、黄昏ニ及ビテ、ナヅアリノニ歸リシニ、軍艦ハ悉ク破壊シ、軍隊モ亦多ク死没シテ悲惨名狀スベカラザリシカバ、長大息シテ殆ント一語ヲモ發スルヲ能ハズ。英將コヅリントン以下、露佛ノ諸將等使ヲ遣ハシテ、イブラヒムニ言ハシムラシク、貴軍若シ聊カダモ敵意ヲ示サル、ナラバ、直ニ城堡ヲ毀テ、殘餘ノ軍艦ヲ傷ヒテ毫モ假貸セザルベシト。流石剛毅ノイブラヒムモ、既ニ意外ノ敗績ニ驚キタレバ、此ノ恐迫ノ言ニ辟易シ、進退茲ニ谷マリテ、白旗ヲ掲ゲ、降服ヲ表シ、軍艦ヲ悉クアレキサンドリア港ニ歸セリ。三國同盟ノ艦隊セ茲ニ至リテ凱歌夫奏シ、亦同シク退キテ修繕ニ着手セリ。

第四章 英露佛三國ノ公使、土京ヲ去ル

希臘大統領カボヂストリ

ア伯漸ク壓制ヲ行フ

歐洲各國ハ、此ノ捷報ニ接シテ、皆欣喜雀躍セザルハナシ。獨リ埃國ノミハ、驚愕歎息シタリキ。是レ希臘ノ獨立ハ、埃相メテルニツク公ガ畢生ノ大目的、即チ永ク專制主義ヲ歐洲一般ニ行ハシメントノ目的ニ反シ、漸ク自主獨立ノ主義ヲ傳播セシムルノ恐アルヲ以テナリ。

又英國ニ於テハ、總理大臣カンニンク此ノ戰捷ニ先チテ遠逝シ、ウエリントン大將、其ノ後任ヲ襲ゲリ。左レバ、獨逸ノ史家ミユールハ、之ヲ評シテ曰ク、カンニンク首相ガ此ノ戰捷ヲ目撃セズシテ遠ク逝キタルハ、眞ニ遺憾ノ至ト謂フベシ。ウエリントン公其ノ後任ヲ襲ギテ、首相ノ椅子ヲ占メタレドモ、前任者^{カンニン}ノ深謀遠慮ヲ解セズシテ、只管此ノ戰報ニ眉ヲ擡メ英王^{シヨトフ}四世ニ向テ、偕モ此ノ度ノ海戰ニ、土耳其艦隊ノ敗績シタルハ、露國ノ野心ヲ增長セシムベキ不祥ノ出來事ナリト言ヘリ云々ト。

英佛露ノ三國ハ以爲ラク、土耳其政府ハ今回ノ大敗ニ懲リテ、必ラズ希臘ト和ヲ媾シ、其ノ獨立ヲ承認スルナラント、奚ソ圖ラン、土耳其政府ガ自負尊大ナル毫モ屈スル所ナク、猶万一チ僥倖シテ、勝ツベキノ望ミナキニ、勝ヲント望ミシカバ、土廷ト土京駐劄英佛露三國公使トノ間ニ激シキ議論ヲ生シ、談判茲ニ破裂シテ、三公使ハ袂ヲ拂テ、君士但丁堡府ヲ去リ、跡ニ殘レル若干名ノ佛人ハ土廷ノ逐フ所ト爲リ、露土兩國ノ關係ハ危機ニ迫レリ。

(翌年 一八二八年(我が文政十一年戊子) 四月、露土遂ニ干戈ヲ交ユ。露軍ハ連戰連勝、破竹ノ勢ヲ以テ土京ニ迫ラントシケレバ、土廷大ニ恐怖シ、其ノ翌二十九年(我が文政十二年巳丑) 九月十四日、アドリアノイブルコ於テ和ヲ媾シ、露國ハアナバボテ、アカルロシ、アカラカルキ等、凡テ黑海ニ瀕スル樞要ノ市都城堡ヲ得テ、黑海東濱ノ霸權ヲ握リ、巨額ノ償金ヲ奪ヒ、且ツ自今多瑙河附近、土耳其附庸ノ諸國ヲシテ、殆ソド獨立ニ近キ權力ヲ得セシメ、其ノ

諸君主ヲシテ、畢生其ノ位ニ在ラシムルノ制ヲ定メ、爾來大陸貿易ノ自由ヲ得、殊ニダマルメチルス、ボスフチラス、兩海峽航行ノ自由ヲ得タリ。是ニ於テ露國ノ權勢ハ、旭日ノ昇ル如ク、土耳其ハ全ク勢力ヲ失ヒテ、有レドモ無キガ如キニ至レリ。左レド、此ノ事ハ『クリミヤ』戰史ニ載セ、且ツ本書ニ關係少ナキヲ以テ委シクハ説カズ。

佛國ニ於テハ、一ツニハ復讐ノ爲メニ、又一ツニハナヴァリノ戰捷ノ結果ヲ充分ニシ、土耳其ヲ全ク屈服セシメンガ爲メニ、將軍メーソンニ命シテ、一萬四千ノ兵ヲ率ヰテ、土軍ヲ攻撃セシム。メーソン乃チ希臘ナルモリア半島ニ上陸シ、倫敦會議ノ議決ニ從テ、先ツ進ディブラヒム、バシヤニ迫リ、彼レヲシテ埃及ニ退キ歸ラシメ、尋デモリア半島ニ在ル凡テノ埃及軍ヲシテ、悉ク同盟軍ニ降ラシム。

此ノ降服ニ由リテ、モリア半島全ク希臘ノ有ニ歸セシカバ、希臘人民ハ、其ノ年即チ一千八百二十八年(我が文政十一年戊子) 十月ヲ以テ獨立政府ヲ建設シ、始

メテ土耳其ノ羈絆ヲ脱スルニ至レリ。

共和政大統領カポヂストリアス伯ハ、去年一八二七年(我が文政十年丁亥)四月就職以來、勵精シテ職ニ盡シ、殊ニ當一月以來ハ、希臘國民ノ救助者トシテ各黨ノ優待スル所ト爲リ、百種ノ榮譽殆ント一身ニ集マレリ。故ニ彼レニシテ若シ眞實ニ人民ノ友タランニハ、獨リ希臘ノ幸ナルノミニ止マラズ、其身モ亦永ク名利ヲ兼有スルヲ得、クリシナラン。惜イカナ、彼レハ夙ニ露廷ニ仕ヘ、二十餘年ノ間、同國ノ要路ニ在リタルヲ以テ、老練ハ則チ老練ナリト雖モ、露國ノ專制政治ニ慣レタルヨリ、オノツカラ人民ヲ見ルト土芥ノ如ク、彼レノ治下ニ在ル希臘ヲ視ル、露國太守ノ治下ニ在ル波蘭等ヲ視ルカ如シ。是ヲ以テ折角大統領ノ專横ヲ制スルガ爲メニ設ケタル參事會員モ、悉ク自家ノ黨類ヲ以テ之ニ任シケレバ、其ノ狀宛ナガラ彼レガ臣妾ノ如クシテ、一人モ敢テ彼レト抗論スルモノアラズ。ソレ

サヘアルニ、彼レハ恣ニ貴重ナル地方自治ノ制ヲ廢シ、知事、市町村長、公選ノ制ヲ禁シ、改メテ是レ等ヲ官選ニシ、又已レガ意見ノ儘ニ國家ヲ料理セント欲スルガ故ニ、彼ノ埃國ナル壓制家ノ張本メタルニツクノ聲ニ倣ヒテ、出版ノ自由ヲ禁シ、信書ノ安全ヲ破リ、警察的探偵ヲ用非、教育ニ干涉シ、自由思想ノ學校ニ感染スルナカラシメント勉メ、プラトローノ著述ニ係レル「ゴルキアス」ヲ禁シテ讀ムベカラザラシメタリ。是レプラトローガ西々里ノ暴君ダイオニサスチ其ノ書中ニ痛ク非難シタルヲ以テナリ。

カポヂストリアスハ是レ等ノ諸事ヲ以テ足レリトセズ、希臘獨立ノ功ヲ奏セル志士ヲ憎ム、恰カモ蛇蝎ノ如ク、彼レ等ヲ壓制シ、窘迫シテ自滅セシメント欲スルニ似タリ。今其ノ一二例ヲ舉ゲンニ、メーノテス人及ヒハイドリオラス人ノ如キハ、自治獨立ノ氣象ニ富ミタル人民ニシテ、革命ノ爲メニ生命ヲ賭シタル人々ナルニ、カポヂストリアスハ、彼レ

等ヲ虐待スルヲ宛ナガラ波蘭ノ太守任セル太守ガ波蘭ノ有志者ヲ接遇スルニ類似シ、東部ヘラスノ酋長等ガ始メテ大統領ニ見ユルニ當リ、大統領ハ之ヲ蔑視シテ一體ヲモ施サズ、且ツ言ヘラク、予ハ足下等ガ凡テ盜賊、又ハ詭術師ナルヲ知レリト、噫々無禮モ亦極マラズヤ、又英將ナヤリナガ、選キニミソロンシコ血戰シタル死士ヲ伴ヒテ、大統領ヲ訪問シタリシニ、大統領ハ傲然トシテ此レ等ヲ擯斥シ、英將ニ向テ言ヘラク、足下願ハシハ此レ等ノ輩ヲ退ケヨ、何トナレバ、彼レ等ハ寸功アルヲナク、只九年ノ間、土耳其人ト私闘ヲ爲シテ、其ノ羊、及ヒ山羊ヲ掠奪シタルノミナレバナリト。

抑モカポチストリアハ、希臘獨立ノ苦戰ニ寸功アルニアラズ、只露國ノ官吏トシテ、汝々汲々、聖彼得斯堡廷ノ爲メニ勤メ、其ノ鼻息ヲ嗅ヒタルニ過ギザルノミ、今ヤ志士ガ檣風沐雨、百難ヲ排除シ畢リタルノ後、迎ヘラレテ要職ニ就キ、而シテ却テ彼レ等ヲ侮慢シ、之ヲ挫屈セシメントス。

在ニアラズンバ則チ愚ナリ、禍ヲ其身ニ招カザラント欲スト雖トモ豈ニ得ヘケンヤ。

第四編 希臘獨立戰史

(其三) 講和及ヒ獨立ノ時期

第一章 希臘始メテ世襲王國ト爲リ次テ

獨立王國ト爲ル || 大統領カポヂ

ストリア伯、刺客ノ刃ニ斃ル

一千八百二十九年我カ文政十二年巳丑三月二十三日、英佛露ノ三同盟國ハ、希臘ヲ認メテ世襲王國ト爲シ、北ノ方遠クアルク灣ヨリ、ボロ灣ニ至ルマデ、其ノ版圖ヲ擴張セシメ、希臘ハ羅馬ノ爲メニ併呑セラレ、獨立ヲ失ヒ

テヨリ、凡ソ二千年(土耳其ノ爲メニ併吞セラレテヨリ、凡ソ四百年)茲ニ至リテ一箇ノ王國ト爲ルヲ得タリ。然レドモ猶未ダ真正ノ獨立國タルヲ能ハズ。依然トシテ土耳其ノ屬國トシテ、本國ニ朝貢ノ禮ヲ致サルヲ得ザリシガ、翌三十年我カ天保元年庚寅二月三日、三國ハ更ニ前定ヲ修正シ、希臘ヲ改メテ獨立王國タルヲ得セシメ、土耳其ト同國ノ地位ニ立チテ、朝貢ノ義務ナキモノト爲セリ。茲ニ至リテ希臘ハ、二千年來始メテ歐洲ノ地圖ニ位置ヲ占ムルヲ得タリ。然レドモ其ノ北境ハ、昨年ノ規定ヨリモ稍々減縮セリ。

希臘既ニ獨立國トシテ、歐洲各國ト對等ノ地位ニ立ツヲ得タリシカバ、茲ニ君王ヲ選ビテ之ヲ立テントス。是ニ於テ獨逸聯邦ノ一國、サクスコイブルグノ公子レオポルドヲ迎ヘテ之ヲ君王ニ戴カント決セリ。然ルニ、レオポルドハ以爲ラク、今ヤ希臘ハ、其ノ北方ノ版圖ヲ減縮セラレタレバ、必ズヤ其ノ固有ノ舊版圖ヲ恢復センガ爲メニ、土耳其ト再ヒ干

戈ヲ交エサルヲ得ザルベシ。希臘王ト爲リテ此ノ難局ニ立ツハ、策ノ得タルモノト云フベカラズ。且ツ吾ト婚ヲ議シタル英國ノ皇女チーロツテハ、他日女皇ノ位ニ昇ルヘキ人ナリ。吾ハ早晚英國ノ皇婿トシ攝政トシテ榮華此上ナカルベシ。尙何ヲ苦シンデ希臘ノ難局ニ立タシヤ。ト依リテ斷然希臘ノ請求ヲ拒絕シタリ。チーロツテハ現時ノ英王ジョージ四世カ唯一ノ女ニシテ當時レオポルドト婚ヲ約シタリシナリ。

サクスコイブルグ公子(後ニ白耳義王)レオポルド、即チジョージ、クリスチアン、フレデリック、レオポルドハ、サクスコイブルグ公フランシス、アンソニー、フレデリックノ第三子ナリ。一千七百九十年我カ寛政二年庚戌生ル。ケント公爵夫人ノ兄ニシテ、英女皇ヅヰクトリア、并ニ皇婿アルバート公ノ伯父ナリ。一千八百十六年我カ文化十三年丙子英國攝政(後ニ英王ジョージ四世)ノ女チーロツテ、アウガスタ内親王ヲ娶ル。是ニ於テ、レオポルドハ、英國皇太女ノ夫婿トシテ非常ノ尊敬ヲ受ケタリ。

既ニシテ皇太女薨シケレバ、退キテクレアモントニ住ス。英王ジョージ
シ四世、公ヲ樞密顧問官兼陸軍大將ニ任シテ、聊カ其ノ心ヲ慰メタリ
キ。

一千八百三十年 我カ天保元年庚寅 白耳義ガブラツセルス革命ノ結果トシテ、和

蘭ノ管轄ヲ離レ、獨立國ト爲ルヤ、同地ノ志士茲ニ假政府ヲ建設シ、佛

國ルイ、フキリツプノ皇子ヲモール公ヲ迎ヘテ、白耳義王ト爲サント

ス。然ルニ、子モール公之ヲ固辞シケレバ、更ニレオポルドヲ迎フ。レオ

ポルド當初ハ之ヲ拒絕シケレドモ、固ク請フテ止マザルニ依リ、遂ニ

之ヲ承諾シ、同三十一年 我カ天保二年辛卯 ナ以テ白耳義王ノ位ニ即ク。

レオポルド即位ノ初ニ、國會議員ノ前ニ約スラク、朕ハ殖産興業ヲ獎

勵スベク、且ツ人文ノ自由及ヒ信教ノ自由ヲ主義トシテ治チ施スベ

シト、王ハ能ク此ノ約束ヲ履行シタリキ。

同三十二年 我カ天保三年壬辰 佛王ルイ、フキリツプノ長女オルレアン内親王ル

イ、マリイ、テレサト婚ヲ結フ。三子アリ。長ヲレオポルドト云フ。即チ未

來ノ白耳義王レオポルド二世ナリ。次ヲフランドルス伯ト爲ス。季チ

チヤイロツテト云フ。墨士哥帝マキシミアンノ皇后ナリ。

レオポルド一千八百六十五年 我カ慶應元年乙丑 崩ス。

レオポルドガ王位ヲ辞シテ受ケザリシハ、カポヂストリア伯ノ最モ喜

悅ニ堪エザル所ナリキ。ソハ、此ノ機ニ乘シテ國王ト爲ラントノ野心ヲ

有シタルハナリ。左レド憫ムベシ、彼レガ命數ノ盡期ハ既ニ目睫ノ間ニ

迫レリ。是レヨリ先キ、カポヂストリア伯ハ、建國ノ志士ヲ憎ミ、又數多ノ

閥閥豪家ヲ虐待シテ、或ハ之ヲ追放シ、若クハ其ノ財産ヲ沒収シタルガ、

ソガ中ニ、モロミカリスノメーノツト家ナルモノアリ。其ノ一族ノ長ヲ

ルピートロバイハ、齡既ニ古稀ヲ超過シ、豫テ有名ノ人ナリシガ、カポヂ

ストリアハ、此ノ名士ヲ捕ヘテ之ヲ獄ニ下セリ。ピートロバイノ舎弟コ

ンスタンチン及ヒ子息ジョーシオスハ、深ク之ヲ悲ミテ、特赦ノ義ヲ哀

願シタリシニ、管ニ其ノ哀願ヲ許可セザルノミニ止マラズ、此ノ二人ヲ
モ、堅クノイプリアノ市内ニ蟄居セシメ、適々必要ノ事故アリテ外出チ
乞フモ、兵士ノ警衛ヲ附スルニアラザレバ之ヲ許サズ、其ノ狀宛ナガラ
罪人ニ異ナラズ。ピートロバイノ老母ハ、九十餘歳ノ高齡ニシテ、永ク此
ノ世ニ在ルベクモアラズ、今ヤ其ノ二子、及ヒ其ノ孫ガ故ナクシテ、囚虜
ノ身ト爲リタルヲ見テ痛歎ノ至リニ堪エズ、書ヲ呈シテ切ニ彼レ等ノ
薄命ヲ慨キ、其ノ赦免ヲ乞ヘリ。世人以爲ラク、ピートロバイノ一家ニシ
テ、希臘ノ獨立ヲ恢復セシガ爲メニ、國難ニ赴キ、生命ヲ國家ノ犠牲ト爲
シタルモノ四十二人ノ多キアリ。左レハ此ノ一事ニ於テモ、特別ノ優待
ヲ蒙ムルベキハ理ノ當然ニアラズヤ。况シテ明日ヲモ知レヌ老人ノ歎
願スルアレバ、大統領如何ニ無情漢ナリトモ、ヨモ赦免セズニハ置クマ
シト、何ソ計ラン、殘酷惡魔ノ如キカボヂストリアハ、此ノ老人ノ血涙ス
ラモ之ヲ冷眼視シテ空モ感スル所ナク、ナサケナクモ其ノ歎願書ヲ却

下シタリ。

コンスタンチン、及ヒシヨーストリアノ兩人ハ、茲ニ至リテ、最早耐ユルコ
能ハズ、遂ニ斷然一命ヲ捨テ、警敵大統領カボヂストリアヲ殺サント決シ、一千八百三
十一年我カ天保二年辛卯十月九日ノ早朝カボヂストリアガ一從僕ヲ隨ヘテ教會
ニ詣ツルヲ時トシ、竊カニ尾行シテ其ノ間隙ヲ窺ヒ、コンスタンチン先
ツ拳銃ヲ用サテ大統領ノ頭部ヲ狙撃シ、次デシヨーストリアハ短劍ヲ以
テ之ヲ刺シ、遂ニ首尾能ク彼レヲ殺害シ畢レリ。噫々カボヂストリア伯
ハ、一個ノ才子ナリシニ、惜ムベシ、露國壓制ノ風ニ化セラレタルヨリ、意
外ノ壓制者ト爲リテ、衆怨ヲ一身ニ受ケ、遂ニ五十二歳ヲ一期トシテ非
命ノ死ニ斃ル、ニ至レリ。人ノ運命ハ幾分カ已レノ招ク所ナリトハイ
ヘ、彼レノ如キハ、教育ノ罪ニ依リテ天壽ヲ全ウスルコト能ハズ、慨歎セザ
ルベケンヤ。

第二章 巴威里王子オソ、希臘王ノ位ニ

即ク

コンスタンチン及ヒヨヨリオスハ首尾能ク目指ス敵ヲ打テ果シタ
リト雖モ當時コンスタンチンハ大統領ノ從僕ノ拳銃ノ爲メニ傷ケラ
レテ進退不自由ト爲リシカバ遂ニ群衆ノ殺ス所トナル又ヨヨリオ
スハ同月二十二日謀殺ノ罪ヲ以テ其ノ父ビートロバイノ邸前ニ銃殺
セラレ事茲ニ落着テ告ゲタリ。
是レヨリ先キ大統領空位ト爲リケレバ國會議員等ハ更ニ故大統領カ
ボヂストリア伯ノ弟アウガスタンカボヂストリア伯ヲ選ビテ之ヲ大
統領ニ任セリ左レド此ノ人モ亦前任大統領ト同シク壓制ノ處多カリ
シカバ中央希臘及ヒモリア半島ノ人民深ク之ヲ憤リテ兵ヲ擧ゲ内乱
亦ヲ起レリ是ニ於テアウガスタンカボヂストリアハ議會ノ爲メニ辭
職ヲ勸告セラレ止ムヲ得ズノ途ニ辭シ去ルニ至レリ實ニ一千八百三

十二年 我カ天保三年壬辰 四月九日ナリ。

希臘大統領既ニ其ノ職ヲ辭シケレバ英佛露埃普ノ諸強國ハ其ノ五
ヲ以テ倫敦ニ議會ヲ開キ巴威里王ルイノ王子巴威里親王オソヲ迎ヘ
テ希臘王ノ位ニ即カシムルコト決セリ是レ巴威里王ハ夙ニ希臘ニ同
情ヲ懷キタルヲ以テナリ。

左レハ巴威里親王オソハ翌三十三年 我カ天保四年癸巳 一月ヲ以テ本國ヲ發シ同

月三十日ニ希臘ニ上陸セリ希臘人遂ニ之ヲ選ヒテ國王ノ位ニ即カシ
ム時ニ年紀僅カニ十七是ニ於テ三人ノ攝政ヲ置キテ之ヲ補佐セシム
ルコト決シフチンアルマンズベルグ伯フチンモーレル參事官ハイデ
ツク將軍ヲ擧ケテ之ニ任セリ。

當時尙國民軍ノ設ケナキヲ以テ巴威里兵三千五百人ヲ假リ用サテ之
ニ代ヘ尙以テ秩序保維ニ供セリ三名ノ攝政ハ勵精盡力以テ王事ニ執
掌スルト雖モ如何セン其ノ見ル所同シカラザルヲ以テ互ニ相親和ス

ルコト能ハズ。ソレサヘアルニ、京城ノイプリア駐劄ノ外國公使ハ、頻リニ喉ヲ内事ニ挿ミ、喋々攝政ノ施政ニ反對セリ。左レバ、今ハ老人ト爲リタル舊希臘大統領コロコロニス等之ヲ憂ヒテ、竊カニ攝政ヲ殺シ、困難ヲ醫セント企テシカ、半途ニ發覺シケレバ、コロコロニスハ捕ヘラレテ二十年間ノ禁獄ニ處セラレタリ。

(後、一千八百三十五年 我カ天保六年乙未 オソ王、政ヲ親ラスルニ及ヒ、翌三十六年 我カ天保七年丙申 以テコロコロニスヲ特赦セリ。

同三十三年 我カ天保四年癸巳 十二月二十五日、京城ヲノイプリアヨリ、雅典ニ遷ス。

雅典ハ、舊時ノ名都ナルヲ以テナリ。是ニ於テ雅典ハ頃刻ノ間ニ稍々往昔ノ隆盛ニ復シ、東歐羅巴最モ樞要ナル都會ノ一ト爲レリ。

同三十六年 我カ天保七年丙申 オソ王、オルデンブルグ大公ノ女アメリカヲ迎ヘ立テ、皇后ト爲ス。然レトモオソ王ハ天主教信者ナルニ反シ、皇后ハ新教ヲ奉スルヲ以テ、琴瑟相諧フ能ハズ。輒モスレバ反目スルノ有様ナリキ。

第三章 英露互ニ軋轢ス

初メ希臘人ガ獨立ノ軍旗ヲ翻ヘスヤ、英相カンニングハ、四海同胞ノ大義ニ基キ、壓制者ノ手ヨリ、不幸ナル良民ヲ救ハントノ義俠心ヨリシテ他ノ佛露二國ト同盟シテ希臘人ヲ援フニ至レリ。而シテ此三國同盟中英國ハ最モ有力ナリシガ、斯ル義舉ノ中ニ於テスラ、ウエリントン大將ノ如キハ、猶之ヲ謗ルニ露國ニ羽翼ヲ與フルモノタルヲ以テセリ。是レソモ何ニ由ルカ。後年英國總理大臣ダービー卿ガ言ヘル如ク、露國ガ一箇ノ得意手段ハ、弱國ヲ援ケテ獨立ヲ布告セシメ、然ル後此ノ獨立國ヲ露國保護ノ下ニ置キ、漸ク之ヲ脅迫シテ、保護國ヨリ一轉シテ屬國タラシムルニ在リ。サレバ今回ノ如ク、一方ニ於テ希臘ニ露國ノ恩誼ヲ賣リ、一方ニ於テ露國ガ吞噬ノ目的タル土耳其ノ勢力ヲ滅殺スルハ、英國ニ取リテ極メテ不得策ト謂ハサルヲ得ズ。當ニ然ルノミナラズ、露國ハ近

攻違交ノ政略ヲ固執シ併吞策ノ鼻祖タル彼得大帝ハ露國ノ版圖ヲ西
北ノ方ニ擴ゲテバルテツク海ニ至リカタリナ大女皇ハ西南ノ方ニ擴
ケテシリミヤチ併セ波斯ヲ蠶食シ歴山一世ハバルカン地方及ヒ高加
索地方ヲ攻略セント勉メニコラス帝亦同地方攻略ニ汲々タルニ論ナ
ク更ニ中央亞細亞ニ爪牙ヲ磨カントシ斯クテ累代ノ諸帝其ノ版圖ヲ
擴グルヲ維也納伯林巴里ドレステンミューニツヒノ方位ニ向テ凡ソ
七百哩瑞典ノ京城ストックホルムノ方位ニ向テ凡ソ六百三十哩波
斯ノ京城テヘランノ方位ニ向テ凡ソ一千哩ベシヨールノ方位ニ向
テ凡ソ一千三百哩君士但丁堡ノ方位ニ向テ凡ソ五百哩ヲ増加シ數年
ヲ出デズノ土耳其ヲ併吞センズ勢ヒアリ左レハ炯眼ナル拿破崙帝ハ
ウチートルローノ一戰ニ敗北シセントヘレナノ一孤島ニ流謫セラレ
タルノ後曾テ歐洲ノ大勢ヲ論シテ言ヘテク我カ歐羅巴ハ百年ヲ出デ
ズシテ或ハ共和政治ニ變更スルカ否ラズンハ露國ノ爲メニ併吞セラ

ルベシト

露國ハ右ノ如ク常ニ吞噬手段ヲ攻究シツ、アリ更ニ眼ヲ轉シテ英國
ヲ如何ニト見レハ此國ハ今ヲ距ルヲ凡ソ三百年前一千五百九十一年
我カ天正十
九年辛卯レーモンドナルモノ始メテ印度ニ到リ各地ニ於テ通商貿易ノ
條約ヲ結ヒテヨリ國內漸ク同貿易ニ熱心スルモノ多ク同九十九年我
カ慶長四
年巳亥ニ及ヒ同國ノ商人資本金三万磅ヲ募集シ東印度會社ヲ印度ノシ
ユラツトニ建テ印度爪哇蘇門答臘等ト廣ク貿易ヲ行ヒ和蘭及ヒ葡萄
牙ノ東印度會社ト輸贏ヲ争ヒシガ佛人ノ兵威ヲ以テ我レヲ壓倒セン
トスルニ逢ヒテ英國ノ東印度會社モ亦漸ク商權ニ兼ヌルニ兵權ヲ以
テスルニ至リ有名ナルクライブ及ヒウチーレンヘスチングス等輩出
シテ版圖ヲ擴メ貿易ヲ盛大ニシ先ツ孟加拉ガハハ、オデツサノ三州ヲ
收メ次ニロヒルカンドヲ蠶食シオードヲ服從セシメ又コロンウチリ
ス卿ガヘスチングスノ後ヲ受ケテ印度太守ニ任シテヨリマイツアノ

酋長ハイダト、アッリー汗ノ繼嗣ナツプア汗ト戰ヒテ大ニ之ヲ屈辱セシメ、ウエレスリー侯印度太守ト爲ルニ及ヒテ、侯ノ弟アーサー、ウエレスリー將軍(即チ未來ノウエリントン公)遂ニナツプアチ其ノ國都セリ。ンガバタムニ破リシカバ、ナツプア力盡キテ遂ニ戰死シ、其ノ領地悉ク英國ノ版圖ニ歸セリ。ウエレスリー將軍亦德干ヲ侵略シテ、恒河ヨリ印度ノ全地ニ其ノ權力ヲ擴張シ、遂ニ十萬ノ兵ヲ率キテ英國ノ勢威ヲ張リ、名ヲ酋長ノ保護ニ假リテ、各酋長ノ應器ニ英國ノ守兵ヲ置キ、一切ノ費用ヲ悉ク酋長ノ負擔ヲラシメ、酋長若シ約束ニ背ク時ハ、如何ナル事情アルニモ拘ハラズ、東印度會社ノ役員ハ、直チニ其ノ歳入又ハ領地ヲ差押へ、其ノ收入ノ中ヨリ之ヲ償ハシムルヲ常トス。是ヲ以テ酋長ハ其ノ名アリテ其ノ實ナク、全ク英國ノ隸屬タルニ過ギザリキ。

管ニ然ルノミナラズ、英軍ハ一千八百二年我カ文化十一年庚申ヨリ同五年我カ文化十二年乙丑ニ至ルマデ、凡ソ滿五年ノ間、マラーラツタ種族ノ管下ニ屬スル幾多小邦ノ酋

長シンデア、及ビナグボリアノラヤヤ一等ト干戈ヲ交エテ大ニ之ヲ破リ、デリー、アグラ及ヒ其ノ他ノ各地ヲ征服シタリシカバ、是レ等各小邦ノ酋長等ハ、皆俯伏シテ英國ノ制取ヲ受ケ、曾テ亞細亞ニ武威ヲ輝カシタル帖木兒ノ苗裔印度皇帝シヤイ、アラムモ亦空シク東印度會社ノ下風ニ立チテ其ノ俸給ヲ仰カザルヲ得ザルニ至レリ。

爾來凡ソ十餘年ノ歲月ヲ經過シ、一千八百十四年我カ文化十一年甲戌ヨリ同十六年我カ文化十三年丙子ニ至ルマデ、英人ハ又尼伯爾ニールカス種族ト云ヘル殺伐ノ地ナル種族ト干戈ヲ交エテ之ニ勝チ、竟ニ恒河以北ノ地ヲ占領セリ。此ノ時マラーラツタ種族ノ諸酋長及ヒ其ノ他ノ酋長等、再ヒ兵ヲ舉ケテ英人ヲ逐攘セントセシカド、却テ數度ノ戰ニ英人ノ爲メニ打チ敗ラレ、マラーラツタ全地茲ニ至リテ全ク滅亡シ、只德干ノ小邦ト恒河沿岸ノ小邦トノミ、僅カニ獨立ノ虛名ヲ存スルモ、是レサヘ其ノ實ハ英國ノ制取ヲ免カレズ。隣レ百三十七万七千平方哩餘ノ面積ト、二億六千八百万餘ノ人

口トチ有セル天竺國モ、北ハ喜馬拉ノ高嶺ヨリ、南ハ哥摩令ノ海角ニ至ルマテ、殆ント英國ノ版圖ニ歸スルニ至レリ。

英國ハ既ニ首尾能ク印度ヲ占領シタリケレバ、更ラニ東ニ進ミテ緬甸國ト争端ヲ開ケリ。此ノ國ハ高祖アロムプラガ一千七百五十三年我カ寶曆三年

西突ニベギユー人ヲ逐ヒテ國ヲ建テシ、其ノ當初ハ頗ル強盛ヲ極メタレドモ、其ノ殂スルヤ、内乱相繼ギ、殊ニ支那及ヒ暹羅ノ爲メニ屢々境土ヲ

侵畧セラレ、漸ク萎靡不振ノ姿ニ陥リタリ。然ルニ一千八百二十四年我カ文政七年緬甸ノ一少邦ミユーニポーアノ君位繼承ノ事ヨリ、英國ト争端ヲ

開キ、延テ干戈ニ訴フルニ至リ、英將サー、アーチバルド、カムベル一万二千ノ兵ヲ率テラングリン今ノ下緬甸ノ府ニ到着シ、破竹ノ勢ヲ以テ諸城ヲ陷

レ、翌二十五年我カ文政八年乙酉更ラニ内地ニ進テ各地ヲ侵略シ、向フ所敵ナク、四月二十五日プロームヲ取リテ之ヲ本營ト定メ、猶進テ首府アヴァチ攻

撃シタリシカバ、緬甸人ハ力屈シテ和ヲ乞ヒ、遂ニ同二十六年我カ文政九年丙戌

月二十四日ヲ以テ條約ヲ締結シ、此ノ條約ニ由リテ、アツサム、アラカン、

テナセリムノ三地ヲ割キテ、東印度會社ニ與ヘ、償金一百万磅ヲ出シ、且

ツ英國全權公使ヲ首府アヴァニ駐劄セシムルヲ許ストトハ爲セリ。

(既ニシテ、同五十二年我カ嘉永五年壬子同八十五年我カ明治十年乙酉兩度ニ復タ隙ヲ生シ、

兵ヲ交エシカバ、緬甸全國モ亦遂ニ悉ク英國ノ版圖ニ歸シ、永久ニ世

界ノ地圖上ニ其ノ跡ヲ絶テリ。

是レヨリ先キ、一千八百二十四年我カ文政七年甲申英人ハ馬來半島ノ南ニ當レル

新嘉坡ト、其近傍ノ群島トヲ略シ、同二十六年我カ文政九年丙戌復タ同半島ノ西南

岸ナル馬刺加ヲ占領セリ。新嘉坡ハ東洋貿易ノ要地ナルヲ以テ、東西往

來ノ船舶商人茲ニ輻輳シ、港内最モ繁榮ヲ極メテ、東洋中ノ一大埠頭ト

爲ルニ至レリ。

以上ハ英人ガ印度ノ東方ニ版圖ヲ擴ゲタル概況ナリ、更ニ轉シテ其ノ

西方ニ地ヲ拓キタル狀況ヲ記サン。

一千八百三十八年我カ天保九年戊戌英人ハ印度ノ西隣ナル阿富汗斯坦ト爭論ヲ開キテ、一旦其ノ首府加布爾ヲ陥レ、又俾路芝斯坦ヲ破リ、更ラニ西ニ進ミテ波斯ト事ヲ起シテ大ニ武威ヲ輝カシ、波斯灣口ナル要害ノ地ヲ略取シ、印度ヨリ、チグリス及ヒユーフラチスノ二大河ヲ溯リテ、メソポタミア亞細亞土耳其ノ地ナルバグダッドニ至ルマデ、汽船ノ通路ヲ開キ、同三十九年我カ天保十年己亥ヲ以テ紅海咽喉ノ地タル亞丁港ヲ亞刺伯ヨリ奪ヒテ、同地トペリム島トニ砲臺ヲ築キタリ。

故ニ英國ガ海外ニ有スル版圖ヲ列擧スルキハ左ノ如シ。

亞細亞洲ニテ	
印度	面積 一六四、九〇〇 平方哩
錫蘭	二、五三六五
レプラス	三五八四
亞丁及ヒソコトラ	三〇七〇

オトレートツ殖民地	一五〇〇
香港	三〇五、五
ラプアン	三一
英領北ボルネオ	三、一〇〇〇
歐羅巴洲ニテ	
ウラルタル	二
マルタ等	一二二
亞非利加洲ニテ	
ケイプ、コロニー	二一、七八九五
ナタル	一、九〇〇〇
セント、ヘレナ	四七
アッセンション	三八
シルラ、レオン	三〇〇〇

ゴールドコースト等……………二九四〇一

亞米利加洲ニテ

モリリシアス等……………一〇六三

加拿陀本部……………三七〇四八八

ニウブランズウヰツク……………二七一七四

ノヴァスコシア……………二〇九〇七

マニトバ……………六〇五二〇

英領コロムビア等……………三一四三〇五

西北部落……………三二五七五〇〇

プリンスエドワード島……………二二三三

ニウファウンランド……………四二二〇〇

英領ギニア……………七六〇〇〇

英領ホンダラス……………七五六二

ジャマイカ……………四一九三

ツリニダッド等トバゴ……………一七五四

ハイバドス……………一六六

グレナダ等……………一二五

セントウヰンセント……………一四〇

セントルシア……………四六五

セントクリストファー、チヰサス、及ヒアンギラ……………一五三

ドミニカ……………二九二

モンツェラット等……………八五

バハマ諸島……………五七九四

ベルミユイダ……………四一

ファークランド島等、セントシヨリア……………七五〇〇

壕斯土刺利亞洲ニテ

ニウ、サウス、ウエールズ	三、一〇七〇〇
グヰクトリア	八、七八八四
南アウストラリア	九〇、三六九〇
クヰーンズランド	六六、八四九七
西アウストラリア	一〇六、〇〇〇
タスマニア	二、六二一五
ニウ、ジーランド	一〇、四〇三二
フヰジョー	七、四二二
ニウ、ギニー	二、三、四、七、六、八

右ノ如ク英國ハ、海外ニ數多ノ版圖ヲ有シ、殊ニ亞細亞ノ南方ニ勢威ヲ逞クシ、荷クモ船舶ノ通スヘキ所ハ一トシテ、航行セザルナキノ有様ナルニ、露國ハ、マタ其ノ北方ニ威ヲ振ヒ、漸ク圖南ノ志ヲ逞ウセントシケルガ故ニ、所謂兩雄並ヒ立タザルノ道理ニテ、互ニ相疾視シ、軋轢スルモ

亦自然ノ數ト謂フベシ。ソハ姑ラク置キ、今ヤ露國ハ例ノ得意手段ヲ試ミ、保護ヲ口實トシテ漸ク希臘ニ勢力ヲ恣ニシ、遂ニ之ヲ併呑セント謀リケル。其ノ野心ノ早ク形迹ニ顯ハレシカバ、英國ハ痛ク露國ガ地中海ニ根據ヲ確定セシコトヲ恐レタリ。彼ノ一千八百六十六名ノスファキオテス人ヲシテ不幸ノ境遇ニ陥ラシメタルモ、畢竟之ガ爲メナリ。

一千八百三十六年^{我カ天保七年丙申}希臘王オトハ、アルマンズベルクヲ擢ンテ總理大臣ノ職ヲ授ケシガ、未ダ久シカラザルニ、復タ其職ヲ解キ、ルードハイド伯ヲ舉ケテ其ノ後任ヲ襲ガシメタリ。然ルニルードハイド伯ハ元來露西亞ト親交アル人ニテ居常同國ト事ヲ謀リケレバ、雅典駐劄ノ英公使リオンズ甚之ヲ喜ハズ、是レヨリ同公使ト、希臘總理大臣トノ間ニ隙ヲ生シ、軋モスレバ破裂スベキノ兆候ヲ呈シケレバ、希臘王大ニ憂ヒテ、速ニルードハイド伯ノ職ヲ免シ、爾來希臘人ノミチ以テ總理大臣ニ任セリ。然レドモ希臘ハ是レヨリ英國ノ歡心ヲ失ヒテ之ヲ恢復スルコト